平成30年五條市議会第1回3月定例会（第2号）

日 時 平成30年3月8日（木） 午前10時 開議

議事日程

第1 一般質問

順	氏 名	質 問 事 項	答弁を求める者
1	山 口 耕 司	<p>1 まち・ひと・しごと創生総合戦略について (1) 本市取組の状況について (2) 五條市UIJターン住宅取得について (3) 観光施設等へのWi-Fi設置について (4) 地域になじむ子育ての充実（認定こども園）について (5) 過疎の地域を再生に導く取組について</p> <p>2 SNSを使った行政サービス・教育について (1) 道路補修を迅速にする市民通報型アプリについて (2) 保育園等で連絡用に使用するアプリについて (3) いじめ・自殺の相談をするアプリについて</p> <p>3 市民サービスの向上について (1) 住民票等の交付の現状とコンビニ交付について (2) ホームページについて</p> <p>4 地域公共交通について (1) 来年度からの取組について (2) 法律からみた本市の地域公共交通について</p>	<p>市長・副市長・ 教育長・部長・ 支所長</p> <p>市長・教育長・ 部長</p> <p>市長・部長</p> <p>市長・部長</p>
2	窪 佳 秀	<p>1 市の活性化について (1) 観光客の誘客について ア 外国人観光客の実態把握について イ 外国人観光客の受入れ体制について ウ 観光パンフレットの現状について エ 観光推進計画について</p>	市長・部長

順	氏 名	質 問 事 項	答弁を求める者
	窪 佳 秀	<p>(2) 五條市5万人の森公園について ア 看板の設置について イ 立木の伐採について</p> <p>(3) 街路灯について ア 商店街の街路灯について イ 街路灯の維持管理のアドバイスについて</p> <p>2 防災行政（地震対策）について (1) 指定避難所の現状について ア 避難生活ができる避難所の現状について イ 指定避難所の耐震について</p> <p>(2) 指定緊急避難場所について ア 指定緊急避難場所の現状について イ 一時避難生活ができる指定緊急避難場所について</p>	市長・部長
3	吉 田 正	<p>1 大塔町の今後について (1) 将来における大塔支所の在り方について (2) 大塔町の観光について</p> <p>2 陸上自衛隊駐屯地誘致について (1) 駐屯地誘致の現状と進捗状況について (2) 駐屯地誘致の今後の取組について</p> <p>3 市民の健康を守る施策について (1) 健康寿命への取組について</p>	市長・部長 市長・部長 市長・部長
4	牧 野 雅 一	<p>1 大塔地域について (1) 振興に向けた進捗と展望について</p> <p>2 五條市の医療体制について (1) 五條病院開院後の医療体制について (2) 五條市応急診療所の運営について</p> <p>3 ハザードマップについて (1) 作成状況について</p> <p>4 五條市立奈良県立五條高等学校賀名生分校寄宿舎の運用見直しについて (1) 入寮者の見直しについて</p>	市長・部長 市長・部長 市長・部長 市長・部長

順	氏名	質問事項	答弁を求める者
	牧野雅一	<p>5 財政運営について (1) 市の予算編成について (2) 市基金の在り方について (3) 市の公債費について</p> <p>6 新庁舎周辺街路計画の進捗について (1) 新庁舎への動線確保について (2) 須恵4号線の安全確保について</p> <p>7 花咲寮移転事業について (1) 進捗状況について</p>	<p>市長・部長</p> <p>市長・技監・部長</p> <p>市長・部長</p>
5	伊谷賢司	<p>1 上野公園復旧について (1) 人工芝グラウンドの復旧について (2) 上野公園築堤に向けての国との協議予定について</p> <p>2 交通安全対策について (1) 市内の道路（市道・県道・国道）における交通事故多発箇所並びに危険箇所（通学路等）の洗い出しや把握・対応について</p> <p>3 災害対応について (1) 避難場所のマニュアル（施設・対応者マニュアル等）について</p> <p>4 観光施策について (1) 既存施設（観光・学習）等の活用について</p> <p>5 市の発展について (1) 公共施設跡地利用の一環としてのドッグラン整備の検討について</p>	<p>部長</p> <p>部長</p> <p>部長</p> <p>部長</p> <p>部長</p>
6	養田全康	<p>1 本市の人口減少対策について (1) 現在の取組について</p> <p>2 保育所・幼稚園の現状について (1) 現状について (2) 適正化について (3) 五條市子育て支援センター「はっぴい」について</p> <p>3 学校適正化について (1) 保護者・地域・教員への説明について (2) 今後について</p>	<p>市長・部長</p> <p>市長・部長</p> <p>教育長・部長</p>

順	氏名	質問事項	答弁を求める者
	養田全康	4 五條市立奈良県立五條高等学校賀名生分校について (1) 全国募集の状況・今後について	部長
7	吉田雅範	1 自衛隊誘致について (1) 用地の取得について 2 五條市立奈良県立五條高等学校賀名生分校魅力化推進事業について (1) 地元での就労活動と後継者育成について 3 クリーン・オアシスの建物のクラック問題について (1) 現在の状況と今後の管理について 4 五條市下水道事業について (1) 下水道事業の進捗状況と合併浄化槽の不均衡について 5 パワーハラスメント・ドメスティックバイオレンス・セクシャルハラスメント等の被害者相談窓口について (1) 本市の相談窓口と対策の促進について 6 シダーアリーナの水害について (1) 被害状況と損害額について	市長・部長 教育長・部長 市長・部長 市長・部長 市長・部長
8	福塚実	1 五條市学校適正化基本計画について (1) 学校適正化の現状について (2) 素案と基本計画の整合性について 2 五條市立認定こども園について (1) 基本計画について (2) 今後の対応について 3 土砂搬入業者への対応について (1) 現状について 4 シダーアリーナについて (1) 防災倉庫について	市長・部長 市長・部長 市長・部長 市長・部長
9	藤富美恵子	1 五條市学校適正化基本計画(案)について 2 健康寿命を延ばす取組について	市長・教育長・部長 市長・部長

順	氏名	質問事項	答弁を求める者
10	岩本孝	<p>1 地域公共交通について (1) 現状について (2) 交通空白地域の解消に向けた施策について</p> <p>2 西吉野支所について（避難所関連） (1) 庁舎の現状について (2) 避難場所としての機能について</p>	<p>市長・部長・支所長</p> <p>部長・支所長</p>
11	大谷龍雄	<p>1 台風21号災害の救援・復旧の取組と災害防止の取組について (1) 災害見舞金の支給について (2) 農林被害の救援・復旧について (3) 道路・河川被害の救援・復旧について (4) 上流ダム緊急放流防止に関する調査について (5) 吉野川河川の堤防工事の効果的な推進について</p> <p>2 少子化対策を優先した学校づくりと小・中学校統廃合計画の見直しについて (1) 奈良県が計画している来年8月からの就学前児童（障害者・ひとり親世帯）の医療費の現物給付と合わせた実施について (2) 国民健康保険税の子供の均等割減免について (3) 給食費の負担軽減について (4) 説明会やパブリックコメントでの意見から考えた小・中学校統廃合計画の見直しについて</p> <p>3 水道行政に関する開発負担金の確認及び課題の効率的な推進について (1) 住宅開発や工業団地開発等の開発負担金の確認について (2) 石綿管の効率的な交換について (3) 奈良県の五條市・吉野郡3町の水道広域化に関する1市3町のメリットの追求と早期の掌握について (4) 給水量の減少と広域化から考えた小島浄水場1系の改修の再検討について</p> <p>4 広報五條の正確な広報活動について (1) 広報五條2月号の個人番号掲載記事について</p>	<p>市長・部長</p> <p>市長・教育長・部長</p> <p>市長・部長</p> <p>市長・部長</p>

順	氏 名	質 問 事 項	答弁を求める者
	大 谷 龍 雄	(2) 広報五條3月号の国民健康保険掲載記事について 5 憲法改正案の危険性から考えた陸上自衛隊誘致の見直しについて	市長・部長

本日の会議に付した事件

一般質問（養田全康議員まで）

出席議員（十二名）

十二番	十一番	十番	九番	八番	七番	六番	五番	四番	三番	二番	一番
大	藤	吉	山	福	岩	窪	吉	牧	平	養	伊
谷	富	田	口	塚	本		田	野	岡	田	谷
龍	美	雅	耕			佳		雅	清	全	賢
	恵										
雄	子	範	司	実	孝	秀	正	一	司	康	司

欠席議員（なし）

説明のための出席者

市長
副市長

檜 太

内 田

成 好

吉 紀

事務局職員出席者

事務局長	堀内	教育長
	山田	理事
	八田	技監
	辻田	市長公室長
	和田	総務部長
	山本	危機管理監
	竹本	すこやか市民部長
	稲次	あんしん福祉部長
	井上	産業環境部長
	平田	都市整備部長
	松井	教育部長
	森川	西吉野支所長
	川井	大塔支所長
	谷川	水道局長
	泉進	会計管理者
	松武	秘書課長
	松智	企画政策課長
	中賢	財政課長
	西久	土地開発公社事務局長
	西久	
	上田	
坂口	田幸	
慎一	則雄	

事務局次長 井 筒 昭 則
事務局係長 辰 巳 大 輔
事務局主任 芳 田 佳 名 子
速記者 柳 ケ 瀬 五 美

午前十時零分再開

○議長（平岡清司）ただいまから去る一日の散会前に引き続き本会議を再開いたします。
ただいまの出席議員数は定足数に達しておりますので、会議が成立いたします。
本日の日程につきましては、お手元に配布済みのとおりであります。
配布漏れはございませんか。――。
これより日程に入ります。

○議長（平岡清司）日程第一、一般質問を行います。

この際、申し上げます。議員各位の質問並びに理事者側の答弁は明瞭、的確にお願いいたします。
議員各位には申合せのとおり、一般質問は全て質問席から一問一答方式により行うことといたします。
なお、理事者側の答弁は全て自席からといたしますので、本趣旨を御理解いただき、議会運営に御協力いただきますようお願い申し上げます。

また、議員各位には一般質問の時間は質問と答弁を含め九十分以内といたします。
理事者側各位にも御協力をお願いいたします。

初めに、九番山口耕司議員の質問を許します。九番山口耕司議員。

〔九番 山口耕司質問席へ〕

○九番（山口耕司）おはようございます。

議長より発言の許可をいただきましたので、九番公明党山口耕司の一般質問を通告のとおりさせていただきますので、どうかよろしくお願いを申し上げます。

まず、最初の一番でございます。まち・ひと・しごと創生総合戦略についてでございます。

このことは、平成二十七年三月、また平成二十八年九月定例会におきまして、一般質問させていただいております。新年度を迎えるに当たって三度質問をさせていただきましたので、どうかよろしくお願いを申し上げます。

このことは、二〇一四年十一月に成立いたしました、平成二十六年十一月二十八日に施行された「まち・ひと・しごと創生法」及び「長期ビジョン」、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」（まち・ひと・しごと創生本部 平成二十六年十二月二十七日策定）では、我が国における急速な少子高齢化と人口の減少を危機として捉え、東京圏への人口一極集中を是正した上で、地域で住み良い環境を確保するとともに、将来にわたって活力ある社会を維持・形成するため、潤いのある豊かな生活を安心して営むことができる魅力ある地域社会形成に向けた方向性を示しています。このまち・ひと・しごと創生法に基づき、都道府県や市町村には、平成二十七年、いわゆる二〇一五年度までに地域の実情を踏まえた地方版総合戦略の策定が努力義務として課せられています。

本市、五條市におきましては、まち・ひと・しごと創生法に基づき、五條市における人口の現状と将来の展望をまとめた「五條市人口ビジョン」と、今後五箇年の目標や施策の基本的方向、具体的な施策をまとめた「五條市まち・ひと・しごと創生総合戦略（豊かな自然と歴史が織りなすなごみとロマンとふれあいの創造都市への創生）」を平成二十七年、二〇一五年に策定されています。期間は、二年後の二〇二〇年を目標と定め、国と地方自治体が取り組むこととなっております。

本市におきまして、第五次総合計画に代わるものとして、五條市の未来像を見据えて、「子供を育てたいまちをつくる」、「安心して定住できる都市をつくる」、「地域資源で新たな産業をつくる」、「地域ブランドを確立し、人の流れをつくる」という重点施策を基本に掲げ、具体的な事業を展開することにより将来にわたって持続可能な地域社会を形成し、「元気なまち五條市」を目指しますと、取組が開始されております。ちようど折り返しとなります本年、気になる部分だけでございますが、平成二十七年十月に「豊かな自然と歴史が織りなすなごみとロマンとふれあいの創造都市への創生」と題しました五條市まち・ひと・しごと創生総合戦略の冊子に基づき質問をさせていただきますので、どうかよろしくお願いを申し上げます。

それでは（一）の本市の取組状況につきまして、担当部長にお尋ねいたします。

○議長（平岡清司） 辻田市長公室長。

○市長公室長（辻田祥友） 九番山口議員の御質問にお答え申し上げます。

五條市まち・ひと・しごと創生総合戦略では、一、子供を育てたいまちをつくる。二、安心して定住できる都市をつくる。三、地域資源で新たな産業をつくる。四、地域ブランドを確立し、人の流れをつくるという四つの基本目標に基づき、平成二十七年から平成三十一年度までの五年間の計画で、全四十六事業を十一部局十八課により取り組んでいるところでございます。

なお、これらに係る総事業費につきましては、平成二十七年から平成二十九年度の実績額累計で五億三千四十一万円となっております。以上、答弁とさせていただきます。（「九番」の声あり）

○議長（平岡清司） 九番山口耕司議員。

○九番（山口耕司） 十一部局十八課に至ってこの事業を五億三千万円ですか、たくさん、多くの金額が投資されておりますけれども、その細かいことを尋ねておきますと、到底この中の一般質問の時間ではできませんので、先ほどから申し上げましたように気になる部分だけを質問させていただきたいと思えます。特に、それぞれの事業に当たりましては検証しなくてはならないというふうに聞いてございますので、その五億のお金もまた違う場所で検証させていただきたいと思えますので、どうかよろしくお願い申し上げます。

それでは、（二）の五條市UIJ住宅取得についてでございますけれども、冊子の二十ページから二十一ページに掛けて、「二・一・二 新しい居住スタイルを発信する五條新町通りの町家を始め、本市が有している多彩な空き家等の住宅資源を活用した定住促進を図るため、金融機関やハウスメーカーなどの民間事業者、活動団体などと連携し、自然・文化を組み合わせた魅力的な居住スタイルの形成と発信に取り組みます。」とございます。

重要業績評価指標、KPIですね、これが課せられておまして、この五條市UIJの補助金の件数の目標値、現状は今のところあるのかないのか分かりませんが、目標値としては三十一年度で十五件を目指した取組になってございますけれども、また問合せにしましては、五十件から七十件というふうな記載となっておりますけれども、現在の取組の状況を担当部長にお尋ねしたいと思います。

○議長（平岡清司） 辻田市長公室長。

○市長公室長（辻田祥友） 九番山口議員の御質問にお答え申し上げます。

UIJターンの、新婚世帯住宅取得補助金制度は、五條市まち・ひと・しごと創生総合戦略の計画期間である平成三十一年度末までの実施を

考えており、進捗状況といたしましては、平成二十七年度から平成三十年二月末までの実績といたしまして、補助金利用件数が累計七十二件、補助総額は四千七百十四万円となっております。

今後の展開につきましては、市役所住民窓口や広報紙、SNSを活用した制度周知のほか、金融機関やハウスメーカーにも協力を依頼し、より多くの皆様に周知できるように取り組んでまいりたいと考えております。

以上、答弁とさせていただきます。（「九番」の声あり）

○議長（平岡清司）九番山口耕司議員。

○九番（山口耕司）今後の展開もおっしゃっていただいておりますけれども、この目標値に近づけていくことを更に突っ込んだ今補助金等の活用をいただいておりますけれども、更に続けてやっていかなくてはならないと思っておりますけれども、期間内におきまして、あと二年の期間におきまして、この目標値が達成できるのかどうか、その辺の見通しはございますか。

○議長（平岡清司）辻田市長公室長。

○市長公室長（辻田祥友）九番山口議員の御質問にお答え申し上げます。

まずUターンをしていただくという中で、やはり社会的な情勢とかもあるかなと考えております。ただ五條市といたしましては、近年人口が減ってきている中で、どうして人口を増やしていくのか、そういうふうな施策を重点的に打っているところがございますので、先ほど申しましたように、更に周知、市内でこういうことをしている意味がないので、各種企業さんでありますとかそういうところにも働き掛けとか、また新婚さんにつきましては、なかなかこれにつきましては、個々の結婚するという御判断になると思います。できる限りその目標値に向かつての努力をさせていただかなければならないと考えております。

以上、答弁とさせていただきます。（「九番」の声あり）

○議長（平岡清司）九番山口耕司議員。

○九番（山口耕司）五條市におきましても、体験型の宿泊住宅が造られました。その利用状況聞いておりますと、なかなか難しいところもございまして、冬になったらあの坂どうして登るんやとか、車が家までつけられない場合どうするんやとか、たくさんの課題がある中で体験住宅の開始でございました。そうした中で、利用頻度も上げていくのも大変難しいかと思うのですけれども、やはりあそこで飲んだコーヒーがおいしいとか、あそこで食べた朝御飯は大変おいしかったなど言えるような、素晴らしい眺望でございますので、その辺もすっかりアピー

ルしながら、活用しながら取り組んでいただきたいと思ひますし、発信することが大事になってこようかと思ひます。

後ほどのホームページ、またSNS等の質問の中でいろんな形で出てきますので、UIJターンのだけが魅力的じゃなくして、ほかのいろんなことを総合的に含めて「五條市はいいまちやな」というふうに捉えていただくのが大事になろうかと思ひます。UIJターンのもしっかりとこの補助金を活用して情報発信をしていただきたいと思ひますので、どうかよろしくお願ひ申し上げます。

次に移ります。

(三)の観光施設等へのWi-Fiの設置についてでございます。

この取組状況について、その成果ですね、ちよつとお尋ねしたいと思ひます。

○議長(平岡清司) 和田総務部長。

○総務部長(和田剛明) 九番山口議員の御質問にお答え申し上げます。

市内の公共施設や観光施設等の利便性の向上に資するWi-Fi整備の状況でございますけれども、現在設置済み箇所数は三十三箇所となっております。まぢ・ひと・しごと創生総合戦略推進懇話会において変更承認をいただいております目標値四十七箇所に対する進捗率は現在七〇パーセントでございます。

次に、今後の整備予定でございますが、平成三十年、新年度におきましては、西吉野・大塔両支所、それから保健福祉センター、並びに大塔道の駅の四箇所を設置を予定してございます。

なお、最終年度、平成三十一年度でございますが、教育施設への設置を現在計画しておりますが、これにつきまして具体的な設置場所につきましては、現在進めてございます学校適正化計画、これの進捗に合わせて適時判断をしてみたいと、このように考えてございます。

以上でございます。(「九番」の声あり)

○議長(平岡清司) 九番山口耕司議員。

○九番(山口耕司) 今御答弁いただきました中で、ちよつと気になる点がございませう。

目標値と現状値の未完成の部分があるかと思ひます。それに加えて学校の部分もございませうけれども、そういった差異といひませうかな、目標値との違いについてどのように捉えていくのか、展開していくのか、教えていただけますか。

○議長(平岡清司) 和田総務部長。

○総務部長（和田剛明）九番山口議員の御質問にお答え申し上げます。

当初、総合戦略の中で、現状値を四十五、それから目標値を五十三というふうに設定をさせていただきました。その後、再精査をいたしまして、目標値、先ほど申し上げましたように、現状値を三十一、それから目標値を四十七に変更をさせていただいたところでございます。

これの理由でございますけれども、当初の数値につきましては、事前での実数の把握の誤り、それから計画数につきましては関係事業者等々の協議によりまして、今後の事業の実現等々につきまして、再検討を行ったことに起因をするものでございます。

以上でございます。（「九番」の声あり）

○議長（平岡清司）九番山口耕司議員。

○九番（山口耕司）多くの事業者の協力を得ながらこのWi・Fi設置をしておるかと思うのですけれども、市が独自に設置した箇所、そしてその掛かりました経費についてお尋ねしたいと思います。

○議長（平岡清司）和田総務部長。

○総務部長（和田剛明）九番山口議員の御質問にお答えいたします。

市が独自に設置をいたしました、いわゆるフリーWi・Fiでございますけれども、これは平成二十八年度にまちなみ伝承館・まちや館・起業家支援施設「大野屋」・シダーアリーナ、この四施設に設置をしております。

これに掛かった経費でございますけれども、約七百万円でございます。このうち約二百十万円が国庫補助というふうになってございます。

それから、先ほど申し上げました新年度、平成三十年度の予定でございますけれども、これは先ほど申し上げましたように西吉野・大塔両支所・保健福祉センター、それから大塔道の駅の四箇所でございます。これに係る予算といたしましては、二百十万円を新年度で計上してございます。

以上でございます。（「九番」の声あり）

○議長（平岡清司）九番山口耕司議員。

○九番（山口耕司）どうか前を向いて設置を多くしていただきたいとともに、「ここにWi・Fiがありますよ」ということのアピールもしていただきたいと思えます。そうでないと、なかなか…、スマートフォンとかタブレットを持っていらっしやる方、すぐ携帯電話を見ればつながったというのが分かるのですけれども、その辺の部分のアピールもしっかりとやっていただきたいと思います。

そして、さっきの御答弁にもございましたけれども、教育委員会は学校適正化もございまして、その後精査されるということですね。その辺はどうですか。

○議長（平岡清司） 和田総務部長。

○総務部長（和田剛明） 九番山口議員の御質問にお答え申し上げます。

最終の四十七箇所の数値を達成することになってまいりますと、平成三十一年度は十箇所が残るところでございます。今現在の学校適正化の予定でまいりますと、義務教育施設、それから高等学校を入れまして、十施設になるのかなというふうに考えてございます。ただここ全てに設置するか否かにつきましては、先ほども御答弁申し上げましたが、適正化の進捗・推移をよく判断してまいりたいと、このように考えてございます。

以上でございます。（「九番」の声あり）

○議長（平岡清司） 九番山口耕司議員。

○九番（山口耕司） 適正化で動く学校、動かない学校がございます。そうしたところ踏まえてやっていただきたいと思っております。

きのうも牧野小学校へ通級の教室を見学に行かせていただきました。そうした中で、子供にタブレット端末を使っているデジタル教科書の授業を見学させていただきました。同行していただいた方は、このデジタル教科書を作っているNPO法人の代表者の方でございまして、デジタル教科書を使っているユーザーさんと出会う機会がほとんどないやとということ、現場の声を聞かせていただくのが目的で行かせてもらったわけなんですけれども、そこで先生とお話する機会がございまして、やはりそうしたデジタル教科書の、いわゆる日本リハビリテーション協会からそのデータをもらっておる、そうしたところ家に帰ってその作業をしなくてはならない、なぜできないか、職員個々にパソコンがないのです。全員に、そうですね。またWi-Fiの環境が整っていないという、です、家に持ち帰って作業しなくてはならない、それでまた子供たちにデジタル図書を発信していくという仕事をしなくてはならないのです。そうした中でWi-Fi環境は大変学校において必要不可欠な要素でございますので、もう質問はしませんけれども、一日も早いWi-Fiの環境を学校にも整えていただきたいことをお願い申し上げます。

次に、地域になじむ子育ての充実（認定こども園）についてでございます。

総合戦略冊子の十六ページに「一・一地域に馴染む子育ての充実」、一・一・一一切れ目のない子育て支援を実施する。学校教育との連携

のもと学童保育の充実とともに、市内事業者等による事業所内託児所の設置や、子育てサークルなどの団体との連携による本市の特性に即した取組を行います。」

事業として、「①地域子育て支援拠点事業（保育施設、サービスの充実） ②子育てサークル活動支援事業 ③地域公共交通確保維持改善事業（小児科等の医療機関へのアクセス改善） ④幼保一体化施設（認定こども園）の整備事業 ⑤子育て支援等のソーシャルビジネス支援体制の整備事業」ということで、重要業績評価指標名（KPI）では、現状は、認定こども園はございません。平成三十一年度を目標として二から三と記載されております。

一月二十二日の議員全員協議会で学校適正化基本計画（案）が示されました。その中で資料ナンバー三、五條市立認定こども園整備基本計画（案）、二十六ページの（二）スケジュールには、平成三十四年、二〇二二年四月に五條C、いわゆる西吉野幼稚園・南宇智保育所・阪合部保育所に一つ設置する。この時期が平成三十四年。平成三十五年には、二〇二三年です、四月に五條A、五條幼稚園・五條保育所・牧野保育所・岡保育所の認定こども園をつくと、平成三十六年、二〇二四年です、四月に五條Bとしての認定こども園、北宇智保育所・宇智野保育所と記載されていますけれども、総合戦略から見た平成三十一年度には二から三ということが記載されております。そうしたことを踏まえて整合性が取れていない、違いについて、まず担当部長にお尋ねしたいと思います。

○議長（平岡清司） 松井教育部長。

○教育部長（松井和永） 九番山口議員の御質問にお答えを申し上げます。

平成二十九年より五條市子ども子育て会議の認定こども園設置検討部会を教育委員会が所管をいたしまして、五條市まち・ひと・しごと創生総合戦略に基づき審議を重ね五條市学校適正化推進実施委員会での検討と合わせまして、今回五條市立認定こども園整備基本計画（案）として公表をさせていただいたところでございます。

今後、公立認定こども園の整備に当たりまして、認定こども園の施設整備及び円滑な運営に向けて具体的な調査・審議を進めるために、五條市認定こども園整備推進実施委員会の設置条例案を本定例会に上程しているところでございます。

以上、答弁とさせていただきます。（「九番」の声あり）

○議長（平岡清司） 九番山口耕司議員。

○九番（山口耕司） 分かったような、分かんような答弁なんですけれども。

この示されております五條市まち・ひと・しごと創生総合戦略の案では三十二年には二から三のこども園をつくる、適正化にはそううたつてませんよね。全て三十二年以降になっていきますやん。この五條市に先ほどもUIJターンとか、そしてまたWi-Fiの環境を整えて五條市を住み良いまちにしていこうという取組の中において、五條市の、以前でしたら第五次総合計画というのがございまして、五年間のプランでいろんな計画を取り組んでまいりました。ところが国の方で地域総合戦略という名前の下で、この第五次総合計画に代わって出た五條市全体像を見据えた五年間の取組になるというふうな話も聞いてございます。

この重要施策の遅れたことを今教育委員会ではなさろうとしている。学校の適正化が終わってからはかできないというような、私も説明を受けましたけれども、その辺はどうお考えになりますか。

○議長（平岡清司） 松井教育部長。

○教育部長（松井和永） 九番山口議員の御質問にお答えを申し上げます。

このたび公表いたしました五條市立認定こども園整備基本計画（案）では、三園の開園を平成三十四年、三十五年、三十六年度として予定しております。

二園につきましては、学校適正化の跡地利用としておるところでございますが、一園につきましては五條幼稚園を中心に新築としておるところでございます。

認定こども園の整備に当たりましては、就学前の教育、保育内容、地域子育て支援事業、障害児保育事業等の教育、保育内容の充実に向けた課題を整理し、地域の意向や就学前の子供の保護者の意見とも合わせまして、市全体の財政状況などを考慮しながら前向きに取り組んでまいりたいと考えておるところでございます。

以上、答弁とさせていただきます。（「九番」の声あり）

○議長（平岡清司） 九番山口耕司議員。

○九番（山口耕司） 答弁になっていないと思いませんか。部長。この地域総合戦略では三十二年に二から三つくりまますよという話で進んでいますやん。ここにあるにもかかわらず、今おっしゃっていただきました三十四年ですやん、二年も先に引き延ばしたことになるってしまいませんか、今の答弁ですと。この国が打ち出した五年間で、東京の一極集中を地域でそれをなくしていこうやと、しっかりまちを栄えさせて行こうやと、だからまち・ひと・しごとの総合戦略なんですわ。この人呼び込むに当たって教育、大変教育長にもお世話になっております小・中学校の

統合でございませけれども、その辺はよく分かるのですけれども、今、子ども未来課という担当部局が教育委員会に行った以上は、この整合性のない計画というのはなかなか容認できることではないと思うのですよ。その辺、教育長どうお考えになりますか。

○議長（平岡清司）堀内教育長。

○教育長（堀内伸起）九番山口議員の御質問にお答え申し上げます。

先ほど部長の方からお話し申し上げましたように、当初、まち・ひと・しごこの部分の段階のところでは保育所を中心にどのようにしていくかと、この辺が基盤になりまして、幼稚園との絡みの中で考えていた計画だというように認識しております。その後、進めていく中で、このこども園の部分为学校の跡地を活用するという形の部分の中で、適正化と整合させてやっていくという形になって、年度のずれが起こっているという状況であります。しかし、議員お述べのように、早く認定こども園、いわゆる子育てや教育の体制をつくっていくという観点では、この辺についても検討しながら方向を探っていかなければならない、こういう認識は持っているところです。

具体的な部分はこれからの作業になりますけれども、御理解をいただきたいというように思います。

以上、答弁とさせていただきます。（「九番」の声あり）

○議長（平岡清司）九番山口耕司議員。

○九番（山口耕司）この事業業績の評価をしていかななくてはならない、そのときにゼロになってしまうですよ。一つでも手掛けて、五條市は子育てに優しいまちづくりをやっておるなということを示していかななくてはならない。多くの市が取り組んでいるように、都会では待機児童をなくすのに今躍起になってございます。そうした中で、たくさんのお金が一時に必要かもしれませんけれども、この総合戦略を成功させる上におきましては、学校の跡地を利用しない場所について、早く手を打つべきだと思うのですけれども、市長、その辺どうお考えになりますか。

○議長（平岡清司）太田市長。

○市長（太田好紀）九番山口議員の質問にお答え申し上げます。

部長から、教育長から、説明がありました。私から述べるとしたら、当然総合的な判断をしなくてはならない。学校適正化もしている中においてのどのような進め方をするかということで、今山口議員がおっしゃったように新しく建てるのが一番理想なんです。学校適正化も然りなんですけれども、新しくぽんと一つ建ててぽつとそこに集めるというのが一番理想で、問題が一番ないやり方だと思います。しかしながら

それができないのが現実であろうと。一つは学校がもう耐震補強も出来上がってそれを有効に使いたいということ、やはり地域性の問題もある、それともう一つは財源的なものであると、今ここ何年か大型事業をしている中において大変厳しい状況である、それを総合的に勘案しながら進めていかなければならない。そういう部分を考えたとき大変山口議員がおっしゃったような意見も相当議論も私たちはしております。しかしながら現状を見たとき、今うちの財政状況を鑑みたときにおいて、理想的なという観点からと現状を考えつつ進めていくという、いろんな方向性の中から今一つ一つクリアしていく。しかしながら早く進めないと、新しく建てるというのが一番理想であろうかな、これも今財政部局とそれを踏まえてどうするべきかということを担当部局とまた財政部局と総合的に考えていく、それも考えているところでありますけれども、なかなかここ何年間って厳しい状況であるという、その中においてもこれを進めていく中においてはどうしても早く進めていくことが子供たちの将来のこと、やはりそれを第一に考えて進めていかなければならない、そういうことを勘案しながら今後総合的に判断していきたい。私からはそういう立場でしか話ができないことをお許し願いたいと思います。

以上です。（「九番」の声あり）

○議長（平岡清司）九番山口耕司議員。

○九番（山口耕司）私から言うまでもなく皆さん御存じだと思っております。そうした観点から元気な五條市をつくっていくためには、まず子供から育ていきやすいまちづくりをしていかななくてはならないと考えますので、どうかこの総合戦略に当たります三十二年度を目指して、一つでも開園できますように御努力いただきますようお願いを申し上げます。続きまして、過疎の地域を再生に導く取組についてでございます。

この総合戦略の九ページに重点施策（三）として、地域資源で新たな産業をつくるの中に、二項目目に「木質バイオマスによる産業づくり」とございます。そうした中、昨年度にはチップ工場を計画し今年度には予算を計上いたしましたけれども、その後国からの補助金の対象から外れて、チップ工場が中断となりましたが、その後どのように進展があるのか教えていただけますか。

○議長（平岡清司）泉谷大塔支所長。

○大塔支所長（泉谷進治）九番山口議員の御質問にお答え申し上げます。

紀伊半島大水害から六年七箇月を迎え、復旧、復興、振興へと移り変わっていく中で、復興への足掛かりとして被災を受けましたデイサービスセンターの跡地につきましては、（仮称）木質チップ生産施設整備事業として計画を進めてまいりました。

平成二十九年年度で林野庁補助事業を要望しておりましたが、不採択となり、平成三十年年度におきまして県の御指導をいただきながら事業の見直しを行い、(仮称)五條市木材製品等生産施設整備事業として再度国への補助申請を行っているところであります。

本整備事業を実施することにより、新たな雇用の機会創出や将来の森林保全と林業振興につながればと考えております。

以上、答弁とさせていただきます。(「九番」の声あり)

○議長(平岡清司) 九番山口耕司議員。

○九番(山口耕司) 確認のために、この九ページにはね、「木質燃料の生産現場から、各種産業への活用に至る、地産地消の一連の取り組みをエコツアーとして商品開発し、地場産品の提供や宿泊と組み合わせ国内外からの「ひと」を受け入れるとともに、「しごと」への好循環を構築します。」とございます。今年度だめになりましたやん、来年度新たな取組をされると思うのですけれども、こういったものを計画されておるのか教えていただけますか。

○議長(平岡清司) 泉谷大塔支所長。

○大塔支所長(泉谷進治) 九番山口議員の御質問にお答え申し上げます。

まず、目的といたしましては、基幹産業である林業、木材産業の振興による地域の活性化、森林整備の促進による災害に強いまちづくり、目指す姿といたしまして、川上におきましてはA、B、C資材全てを搬出し、他用途に供給する林業が実施されているという形を目指しております。川中におきましては、A、B、C資材それぞれの受け皿が確保されていること、川下、C産材の利用を拡大し安定的に流通していること、生産施設整備事業の条件といたしましては、現状となる木材の供給が安定的に受けられること、加工した製品の販売が確保できること、川上も含めて黒字経営が見込めること、特定財源、国庫等の確保による市負担の軽減が見込めること、ということ、現在チップの生産と製材によりラミナ材の加工生産をしまして、事業拡大を目指しているところが現状でございます。

以上、答弁とさせていただきます。(「九番」の声あり)

○議長(平岡清司) 九番山口耕司議員。

○九番(山口耕司) ここでの目標指数を御存じですか。目標指数は二十三ページに書いてございます新規創業事業所数が目標値四〇になっています。それは全て大塔ではないと思えますけれども、いわゆる大塔の活性化に木質バイオマスの生産というのは大変重要な活性化につながる事業でございます。そうしたところ、今聞いたら具体的な話は何も出てこない。川上・川中・川下ですかA、B、C、D分けて今御答弁いた

できましたけれども、あと二年ですよ。ちょうど折り返し過ぎてあと二年の間にこの木質バイオマスの生産拠点をつくろうという話が今何も出てこないじゃないですか。そういった木質バイオマスをつくる計画はあるのですか、ないのですか。

○議長（平岡清司） 泉谷大塔支所長。

○大塔支所長（泉谷進治） 九番山口議員の御質問にお答え申し上げます。

現在計画しております平成三十年年度へ繰越しをいたしまして、間伐材を利用して市場への出荷、そしてチップ材を生産しまして需要先へ出荷、そして未利用材、PC材、それを一部利用しまして、生産施設に持って行きまして、製材で、加工施設を製材しまして、その端材を利用してチップを生産します。そしてラミナにつきましては、事業拡大が期待できる集成材、合板と製材メーカーへ搬出したします。

あとA材につきましては、市場製材工場、また住宅メーカー、工務店等に搬出する計画となっております。B、C材につきましては、チップにつきましてはバイオマスの施設へ搬入を考えております。

以上、答弁とさせていただきます。（「九番」の声あり）

○議長（平岡清司） 九番山口耕司議員。

○九番（山口耕司） いや、三十年年度でそういう計画をしておるといふんですやろ。そこには幾らかの金額を投資してこういうものを建てますよという説明をしてくれたらいいんじゃないですか。それを回りもってしゃべられると何をおっしゃっているのか分からなくなってしまうですよ。

またあとで、その辺時間もございませんので、しっかりと教えてください。しっかりと取り組んでいかないと、この大塔、先日も大塔の小・中学校の閉校式がございました。その中に私も参加させていただいたわけでございますけれども、だんだん寂しくなる一方です。五條市の行政とは関係ございませんけれども、夢乃湯のレストランが今営業されていないという事態も発生しております。だんだんだんだん大塔が取り残されていってしまう。五條市と合併して何もないことなかったというのを常に大塔の地へ訪れたら聞かされます。一人でも多くの方が向こうで住み続けられるような体制づくりを、また成り合いをつくっていくべき取組じゃないですか。国からの事業に採択されなかったかもしれないけれども、これでダメならこれやという気持ちでしっかりと取り組んでいきたいと思えます。

そしてまた、次の質問に移るわけでございますけれども、そうした木質チップを利用した取組が次に待っておるわけなんです。大塔でできなかつたらどこでするんですか、その事業を。支所長もしっかりとその辺、ぱぱと答えていただいたら私納得できるんやと思えます。

ども、また、よろしくお願いしたいと思います。

続きまして、総合戦略の二十四ページでございます。

この中に、「木質バイオマスによる産業づくり、公共施設のバイオマス活用促進事業」として、「きずみ館改修事業等」がございます。今きずみ館は閉館されております。閉館ですか、休館ですか、休館ですね、休館されております。そうしたところ早期開業に向けた取組、どういった取組をされていらっしゃるのか教えていただけますかな。

○議長（平岡清司） 森川西吉野支所長。

○西吉野支所長（森川義彦） 九番山口議員の御質問にお答え申し上げます。

現在、きずみ館はボイラー設備の老朽化により休館しております。

今後、資源の地域内循環を目指し、市内の間伐材等を利用して生産される木質チップを燃料とする木質バイオマスボイラーの導入を予定しており、現在実施設計を行っているところでございます。

以上、答弁とさせていただきます。（「九番」の声あり）

○議長（平岡清司） 九番山口耕司議員。

○九番（山口耕司） 昔は大変よく利用者が多く利益も上がったようなお話を聞かせていただいております。泉質も特徴のある泉質でリピーターがかなり多いと聞いてございますけれども、いつ頃それを計画されてますのかなあ。休館されてもう丸一年以上になりますね。当初聞かせていただいたのは、一年間休館してリニューアルをして一年後には開業するというお話で、いったんは説明を受けたことがあるかと思うのですけれども、いつになったらできるのかということをお話を教えていただけますか。

○議長（平岡清司） 森川西吉野支所長。

○西吉野支所長（森川義彦） 九番山口議員の御質問にお答え申し上げます。

きずみ館は平成二十九年四月一日から休館しており、現在もそのままになっております。

当初の計画によりましては、二十九年度におきまして実施設計の完了、三十年度におきまして改修工事、三十一年度のゴールデンウィークをめぐりにリニューアルオープンというのを考えておりました。

先ほど議員お述べのとおり、きずみ館の入館者数はどんどん減っております。そうした中でもリニューアルをしていき、更に集客効果を高

め、儲かる、収益性のある施設と改修するために現在大学教授等の監修を受けて新たな施設、魅力ある施設をやっておるところでございます。そういうことに取り組みまして、今の時期じっくりそのことを検討しようということで、実施設計は現在繰越しをしたいと考えております。そういうことでありまして、きすみ館はあと一年ほどリニューアルオープンが伸びる予定となっております。

以上、答弁とさせていただきます。（「九番」の声あり）

○議長（平岡清司）九番山口耕司議員。

○九番（山口耕司）幾ら議論をしても三十一年を目指してやるということでございます。しっかりと取り組んでいただきたいと思えます。ただ二年前ですか、水害が起こりまして西吉野の簡易水道、当時の簡易水道の施設がほとんど供給できなくなったときにここを入浴施設として開放していただきました。そうしたところを考えますと、一時も早い五條市にとっても西吉野にとっても不可欠な施設と考えます。そうしたところ、災害の観点から考えましても早い開業を目指していただきたいと思えますし、それに合わせました木質チップの生産の方もしっかりと両方相そろえて取り組んでいかななくてはならない事案だと思いますので、どうかよろしくお願い申し上げます。

そしてまた、幅の広い、裾野の広い観光産業を確立とすることということで西吉野、しっかりと今現在五新線等を活用した取組がなされておるかと思えます。十八日にも五新線のNPO法人がイベントを行う予定になっておりますけれども、そうした活性化を目指した取組があれば教えていただけますか。

○議長（平岡清司）森川西吉野支所長。

○西吉野支所長（森川義彦）九番山口議員の御質問にお答え申し上げます。

西吉野地区では昨年度六つの未成線関係者が一堂に集う未成線サミットを全国で初めて開催し、未成線を活用した地域づくりについて活発な情報交換、意見交換を行いました。未成線の持つ観光資源としての有用性を関係者で確認し、今後の継続した開催も決定したところでございます。

また、五新線跡地を利用した木レールイベントを毎年継続して開催しており、新たな地域資源として活用を図っております。

以上でございます。（「九番」の声あり）

○議長（平岡清司）九番山口耕司議員。

○九番（山口耕司）五新線、今トンネルが老朽化で危険箇所というところで通行止めになってございますけれども、その辺の活用について今後

の見通しがあれば教えていただけますか。

○議長（平岡清司） 森川西吉野支所長。

○西吉野支所長（森川義彦） 九番山口議員の御質問にお答え申し上げます。

五新線活用の今後の取組といたしましては、地域資源である旧五新線のトンネル等の詳細点検・調査、補修設計並びに補修工事を平成三十年、三十一年度において行い、今後の利活用に向けて整備を進めていきたいと考えております。

以上、答弁とさせていただきます。（「九番」の声あり）

○議長（平岡清司） 九番山口耕司議員。

○九番（山口耕司） ちょうど梅のシーズンになってまいりました。そうしたことも踏まえて、しっかりとこの西吉野が観光の名所となるような取組を発案し、実行していただきたいと思えます。特にこの五新線は素晴らしい景色がございます。そうしたところを活用しないで放っておくという手はないと思えます。そしてきずみ館と連携した相乗効果のあるような地域おこしを考えていかないと、西吉野も過疎になっていくもう当然のことながら高齢化になっているのは間違いない話でございますので、その辺もしっかりと五條市を巻き込んだ、旧五條市の地域を巻き込んだ五新線の活用をしてほしいと思えます。観光客の循環型のイベント等も取り組んでほしいと思えます。ただそれに関しましては市長、さつきからお述べのようにお金が掛かりますので、その辺の財源もしっかり国の補助金を利用しながらしていただきたいと思えますので、どうかよろしく願います。

次に移ります、時間がございません。

次、二のSNSを使った行政サービス・教育についてでございます。

（一）の道路補修を迅速にする市民通報型アプリについてでございます。

私どもの公明新聞十二月、昨年の十二月二十五日付けの七面の記事で紹介させていただきたいと思うのですが、「大阪府豊中市はこのほど、「道路に穴が開いている」、「カーブミラーが見えにくい」など、道路に関する不具合を市民が発見した際、敏速に市に通報できるスマートフォン（スマホ）用のアプリ「まちカメくん」を試験導入した。市のマスコットキャラクター「マチカネくん」になぞられて命名され、アンドロイドやiPhoneのいずれのスマートフォンでも利用でき、無料だ。同アプリは、メールもしくは電話での通報が選択できる。メールについては、補修が必要な箇所をスマホのカメラで撮影した上で、地図情報を入力して送信。緊急性が高い場合など、電話での通報も

受け付けている。市によると、アプリのダウンロード件数は十一月末で二百五十八件。通報は三十六件あり、特に十月は府内各地で多くの被害が出た台風による倒木や信号機のゆがみなどが報告されたという。市道路維持課は「文章に加え画像と位置情報が示され、迅速に対応できるようにになった」と、導入の効果を指摘する一方で、「位置情報がずれると確認に時間が掛かるケースもある」とし、修正点を改善した。という記事が掲載されておりました。

こうしたアプリが多く自治体で導入されております。例えば長野県安曇野市、また愛知県の瀬戸市というふうな事例もたくさんございます。そうした中で、市民と一体となるアプリの導入について担当部長にお尋ねいたします。

○議長（平岡清司）平岡都市整備部長。

○都市整備部長（平田耕一）九番山口議員の御質問にお答え申し上げます。

現在、都市整備部においてはSNSを活用した取組は行っておりませんが、SNSを媒体として情報を収集する自治体が近年増えており、今後は既に導入している自治体などを参考に調査や研究をしてまいりたいと考えております。

以上、答弁とさせていただきます。（「九番」の声あり）

○議長（平岡清司）九番山口耕司議員。

○九番（山口耕司）アプリについては、あとで一括して申し上げたいと思うのですが、今の時代、スマートフォンの時代ですわ、ですのですね、そういったことを、情報を受けてすぐに対応できるというのは市民と行政が一体となっていていろんなことに取り組めるという、道路の補修が一つの例になってございますけれども、その辺の取組も併せてお願いしたいと思います。しっかりとほかの導入事例を参考にさせていただいて、取り組んでいただけたら有り難いと思います。

一つ、時事通信社の情報でございますけれども、「寝屋川市は、スマートフォンで防災、ごみ、子育てなど五種類の情報を手軽に入手できる無料公式アプリの運用を始めた。スマホの活用で市民に情報を伝えるだけでなく、道路の陥没を発見した住民が市に通報し、市が応急処置を施すといった対応が可能になる。

アプリでは、不審者情報の自動通知機能や、市内の小・中学校で出た給食メニューなども閲覧できる。保護者が給食のメニューを見て夕食の献立を考えるなど、子育て世代が利用しやすいようにした。利用者自身が不要だと感じた情報は非表示にできる機能もある。」という、こういういったスマホのアプリ、大阪府内の自治体が提供するアプリやごみや教育など、ジャンルごとにインストールする必要があるそうですけれ

ども、一回のインストールで複数のジャンルにアクセスできるというのは、今寝屋川市が初めてだそうですね、こういったITを利用した取組も大変大事になってくる時代でございますので、どうかよろしくお願いを申し上げます。次に移ります。

これ全て最後に、また市長に見解を求めたいと思いますので。

(二)の保育園等で連絡用に使用するアプリについてでございます。

アプリ導入が全国で、インターネットで調べたのですけれども、定かではないかも知れませんが、全国で六百園、保護者登録が三万人突破したという、いわゆる園児の登園・遅刻・欠席情報を、保護者と保育園のそれぞれが持つアプリによって、毎日スマートフォンに管理できる機能ですと、ポイントとしては、お仕事に就いている保護者にとって朝の時間は分刻み、このアプリなら保護者の方もスマートフォンで簡単にお子様の状況を報告できるので、育児中でも電車の中でも報告が可能。保育園に電話を掛ける必要がなくなり、保護者の負担を大きく軽減できます。毎朝、お手元のスマートフォンやタブレットに、保護者から園児の登園状況が届きます。朝の忙しい時間に、保育園ですね、園の方が電話を受けることなく、より効率的に時間を使えます。

連絡帳としては、保育士が書き込んだ連絡帳は保護者の手元へお迎え直前にお届けができるように設計しているということです。保護者の方々には、お迎えに来る途中に連絡帳を読んでもらうことで、保育士との会話がこれまで以上に豊かになる。

写真も送れるんですね。写真はママだけでなくパパやおじいちゃん、おばあちゃんにも届きますと、そのアプリをおじいちゃん、おばあちゃんがインストールしますと、同じIDパスワードを入れますと、同じようにその子供さんの園の状況を写真で見れる、いろんなことが見れるというアプリでございます。私も実はそのアプリを導入しまして、孫の通園の様子、園での様子がすぐさま見れるアプリでございます。個別の連絡では急に熱が出たとかいうこともすぐにそのアプリを通じて連絡がいくことが可能になります。そして、このアプリでカレンダーのイベントの行事予定も全て記入できますので、そうしたうっかり忘れたということがなくなるという優れたアプリでございます。このアプリ導入について、市の見解を求めたいと思います。

○議長（平岡清司）稲次あんしん福祉部長。

○あんしん福祉部長（稲次裕美）九番山口議員の御質問にお答え申し上げます。

現在、保育所と保護者の間の連絡は連絡帳、マ・メール、送迎の際の保護者への口頭連絡等で行っております。

今後は連絡用アプリの利便性、有効性、利用料等を検証してまいりたいと考えております。

以上、答弁とさせていただきます。（「九番」の声あり）

○議長（平岡清司）九番山口耕司議員。

○九番（山口耕司）ちよっとお尋ねしますけれども、このアプリ導入に当たっての国からの補助金はあるかないか教えていただけますか。

○議長（平岡清司）稲次あんしん福祉部長。

○あんしん福祉部長（稲次裕美）九番山口議員の御質問にお答え申し上げます。

アプリ導入に対する補助金の制度については、調べたところでは補助金があるという情報は得られませんでした。

以上、答弁とさせていただきます。（「九番」の声あり）

○議長（平岡清司）九番山口耕司議員。

○九番（山口耕司）得られなかった。

保育園のICT化補助金を受けるまでの流れというのが出ていませんでしたか。調べたら。

○議長（平岡清司）稲次あんしん福祉部長。

○あんしん福祉部長（稲次裕美）九番山口議員の御質問にお答え申し上げます。

申し訳ありません。ちよっと見つけることができました。

以上、答弁とさせていただきます。（「九番」の声あり）

○議長（平岡清司）九番山口耕司議員。

○九番（山口耕司）来年度、次年度もあるかないか分かりませんが、された事例として、「保育所等における、四、効率化推進事業、平成二十七年より厚生労働省が新たに創設した子育て支援事業のことです。保育現場の業務の負担を軽くするICTシステムや見守りカメラなど導入をする保育園に対し最大百万円の補助金を出すなどして保育現場のICT化の推進を図っています。」という、だからね、取り組む気があれば何ぼでも探せるのですよ。何回も、早くからこの話を部長に申し上げていました。ですので、その辺も考えて、今子供にすべきことはたくさんございますけれども、どうか補助金を活用した子供づくりをお願い申し上げます。

調べると幾らでも出てきますよ、補助金、毎月ランニングコストが一万円で運用できますとかね、どんどんどんどん出てきますわ。そして

…、言っておれば時間がございませぬけれども、たくさんの補助金、本当に部長、知りませんでしたでは済まないような情報が山ほどありますので、またその情報もお譲りしたいと思っておりますので、どうかよろしくお願い申し上げます。

そして、先ほどの道路の補修等のアプリでございます。そして今子育てに優しい五條市を目指して取り組んでいただきたい二事業のアプリでございますけれども、市長、今答弁聞いていらっしゃって、市長の見解を求めたいと思っております。

○議長（平岡清司） 太田市長。

○市長（太田好紀） 九番山口議員の質問にお答え申し上げます。

部長の方からもるる説明がありましたけれども、このアプリといいますか、道路のアプリとかいろいろと専用に使おうというのは大変重要であらうかなというように思います。

まあまあ今後検証しなくてはならない部分もありますし、SNSということの、本当に今すぐ全国的に世界的にもこういう有効利用ということをしています。これは利便性も当然ありますけれども、逆に全てが何でも分かってしまうということで、多くの人が全て分かるという部分もありますけれども、逆にそれが逆効果な部分も当然あるかなというように思います。だからそういう面のアプリという、そういう一つの分野別の中においてのそういうアプリを有効に使ったらどうかということでありますけれども、その辺は今後いろんな形の中の有効利用というのは必要であらうかな。そういうところも踏まえて、今後対応しなくてはならないし、また、いろんな面で利便性よくそれを開始できるような形の中で、特に今後検討して進めてまいりたいというふうに考えております。

以上です。（「九番」の声あり）

○議長（平岡清司） この際、申し上げます。山口耕司議員の一般質問の残り時間は三十分弱でございます。

九番山口耕司議員の質問を許します。

○九番（山口耕司） 時間もございませぬので、ただ申し上げておきたいのはしっかりとアンテナを張っていただいて、国からの補助金のある事業、しっかりと実施していただきたいと思っております。財源の厳しい五條市ということでございます。どうか国からの補助金事業に関しましては積極的に取り行っていただきたいと思っておりますので、お願い申し上げます。

次にいじめ・自殺を相談するアプリについてでございます。

本年の一月二十九日に公明党の大阪府本部関西公明会館で「SNSを活用したいいじめ・自殺相談」に関する勉強会がございまして、そこに

参加させていただきました。

これには、公明党の大阪・奈良・和歌山の三府県の所属の地方議員、また自治体関係者二十名が参加されておりました。そうした中で、このソーシャル・ネットワーキング・サービス、いわゆるSNSを使った自殺相談、そしてまたいじめの相談、たがいじめの相談に関しましては、中学生以上、そのいじめの相談に関する時間も夕方五時から夜の九時ぐらまでというふうな時間設定をさせていただきました。それは何をもってするのかといえばLINEです。LINEで、実はこうやったという、その受け答えするにもカウンセラーの方がいらつしやいまして、言葉で「寂しいんです」と、「寂しいですか」と、問い掛けを言葉でするのですけれども、そういったLINE上では同じ言葉を繰り返すはできないというのですね。そういったノウハウを持ったカウンセラーが必要となるのですけれども、大変自由にそれぞれが書き込みできて、そして今実証として大阪府や、また長野県ではLINEのいじめの相談が開始されておりますし、多くの地方自治体でも開始されております。

そして、今年度の補正予算、また来年度、二〇一八年度の予算を合わせまして二億五千万円のこういったLINEのいじめ相談の予算額が文部科学省で付いてございます。これは座間市の事件がございました。こういった事件を受けて早急に国が予算を付けたものでございます。そうしたところ五條市でもすぐには取り組むことは難しいかと考えます。そしてまた五條市だけの人口でそれだけのカウンセラーを抱えるというのは大変厳しい状況下にあるかと思うんです。しかしながら奈良県南部の中心となる五條市がこういう相談の窓口を受けられる、いわゆる導入の火付け役になっていただきたいなという思いで質問させていただきますので、その辺アプリ導入について、いじめ・自殺を相談するアプリの導入について担当部長に見解を求めます。

○議長（平岡清司） 松井教育部長。

○教育部長（松井和永） 九番山口議員の御質問にお答えを申し上げます。

最近の若者はLINEなどのSNSをコミュニケーション手段として利用していますので、いじめ・自殺の相談アプリを活用するのは有効だと考えます。しかし相談相手が特定できないことから、なりすましや虚偽・うその相談があることも考えられます。そのため対応に混乱が生じるなど学校生活における人間関係に影響が出ることも危惧されます。

奈良県教育委員会では今年度から県立高校二校でSNSを利用したアプリの試験導入をいたしました。また来年度も引き続き試験導入を実施することから、今後も導入の方向で検討が進むものと捉えております。

アプリ導入の経費や相談員の配置等は一市での対応が困難と考えますので、まずは広域での運用を県に要望してまいりたいと考えております。

今後、児童・生徒のスマートフォンの所持率やアプリのメリット・デメリット、そしてセキュリティも勘案して検討を進めてまいります。以上、答弁とさせていただきます。（「九番」の声あり）

○議長（平岡清司）九番山口耕司議員。

○九番（山口耕司）文部科学省で、先ほど申し上げましたけれども二億五千万円の予算が付いてございます。これは限られた件数でございます。一件約一千万円の予算措置というように考えますと、二十五件しかないという、その全国での二十五件という中に入っていくのは大変難しいものがございますけれども、そういったところを目指して取り組んでいただきたいと思いますので、どうかよろしくお願いを申し上げます。

次の質問に移ります。

市民サービスの向上につきまして、住民票等の交付の現状とコンビニ交付についてでございます。

総務省は、マイナンバー制度とマイナンバーカード、コンビニ交付のホームページでは、「コンビニ交付は、マイナンバーカードを利用して、住民票の写し・印鑑登録証明書等をコンビニエンスストアで取得できるサービスです。コンビニ交付のメリットとしては、市町村窓口の開庁時である早朝・深夜（六時から二十三時）や土日祝日でも証明書を取得することができる」と、これは期間がございまして、十二月二十九日から年末年始は一月三日までが除かれております。「お住まいの市区町村にかかわらず、最寄りのコンビニエンスストアで証明書を取得できる。などがございます。また、市町村によっては、窓口より交付手数料が安くなることもあります。コンビニ交付は、住民基本台帳カードにおいては、市区町村の窓口においてコンビニ交付のためのアプリケーションを搭載し、交付する証明書ごとに暗証番号を設定することの利用となりますが、個人番号カードにおいては、申請時に証明書さえ搭載しておけば、あとはお住まいの市区町村が新たにコンビニ交付を開始したタイミングで、特段の手続なしに、電子証明書の暗証番号だけで利用できるようになります。さらにマイナンバーカードにおいては、住所地と本籍地が異なる住民の方でも、本籍地の戸籍の証明書が取得できるようになる予定です。コンビニ交付サービスを導入する市区町村は順次拡大中です。コンビニ交付サービスの実施の状況や内容は市区町村によって異なります。」ということで、総務省のマイナンバー推進のホームページを開いてみますと、どこの市区町村がやったかという一覧表が発表されてございます。そうした中で、まず住民票や印鑑証明

等の交付の状況をお尋ねしたいと思います。

○議長（平岡清司） 竹本すこやか市民部長。

○すこやか市民部長（竹本勝治） 九番山口議員の御質問にお答え申し上げます。

現在、窓口での交付につきましては、平成二十七年年度の住民票一万三千九百九十九通、印鑑証明九千二百四十四通、戸籍謄本・抄本七千八百八十三通、平成二十八年度の住民票一万三千三百十九通、印鑑証明八千八百八十七通、戸籍謄本・抄本六千九百七十二通、平成二十九年年度二月末現在となりますが、住民票では一万一千二百二十五通、印鑑証明で七千四百六十四通、戸籍謄本・抄本六千五百五十六通の発行となっております。

以上、答弁とさせていただきます。（「九番」の声あり）

○議長（平岡清司） 九番山口耕司議員。

○九番（山口耕司） それだけ多くの方が来庁されて証明書を受け取っておるということでございます。三月の広報にも休日開庁&平日延長開庁日ということで記載されておりますけれども、その辺の取組について教えていただけますか。

○議長（平岡清司） 竹本すこやか市民部長。

○すこやか市民部長（竹本勝治） 九番山口議員の御質問にお答え申し上げます。

今後の予定ですけれども、今議員お述べのとおり三月後半から四月の初旬に掛けましては引越し、また住民票の異動が増える時期でございます。平日来れない方のためにも休日開庁、平日の時間延長を行い、市民サービスの向上に努め、広報、自治会の回覧等やホームページで周知をしたところでございます。

実施する日でございますけれども、三月二十五日、日曜日午前九時から午後一時まで、四月一日、日曜日午前九時から午後五時まで、四月二日、月曜日・三日、火曜日につきましては午後七時まで延長いたします。この間、市民課では八名の職員体制ということで予定しております。人件費につきましても約二十万円を見込んでいますところでございます。

以上、答弁とさせていただきます。（「九番」の声あり）

○議長（平岡清司） 九番山口耕司議員。

○九番（山口耕司） いわゆる限られた期間だけサービスをするという御配慮いただいたと思います。

先ほども申し上げましたけれども、県下におきましてコンビニ交付を実施している自治体を教えていただけますか。

○議長（平岡清司） 竹本すこやか市民部長。

○すこやか市民部長（竹本勝治） 九番山口議員の御質問にお答え申し上げます。

県下三十九市町村のうち、九市七町の大和高田市、天理市、桜井市、生駒市、香芝市、葛城市、宇陀市、橿原市、御所市、広陵町、三郷町、斑鳩町、上牧町、田原本町、王寺町、平群町でサービスが開始されております。

大和郡山市につきましては、平成三十年途中で開始されます。奈良市におきましても、平成三十年度の予算に計上しているというところがございます。

合わせまして十一市、市では十一市が行うということになっております。

以上、答弁とさせていただきます。（「九番」の声あり）

○議長（平岡清司） 九番山口耕司議員。

○九番（山口耕司） 奈良県は十二市あるわけでございますけれども、あと一市、この費用対効果はそんなに望めないかもしれませんが、国の補助金がいままであるのかないのか、その辺もお踏まえになって市長に見解を求めたいと思います。

○議長（平岡清司） 太田市長。

○市長（太田好紀） 九番山口議員の質問にお答えを申し上げたいと思います。

実際のこの現状というのは大変、今部長から言ったように他市、特に十二市の中でほとんど九市、あと二市がやるということはどうだけが残っているという、そんな現状であるということで、なぜ五條市だけがないのかということでも相当な議論もしているのも事実です。

国の補助金があるとかないとかは別として、そして十一市全てがやっているからうちもやるというのではなくて、本来にこれは担当部局ともいろんな議論をさせていただきました。今まだ、時期尚早であるのではないかとというような見解に至ったわけです。その理由として、マイナンバーが実際うち自身は相当まだ普及がされていないということが第一点であるのと、もう一つはこれに係る維持管理、年間八百万円くらい掛かるということ、それを考えたときに実際今の現実を鑑みたときにその辺の状況を踏まえたなら時期尚早であるのではないかと、もつと今やるべきことがあるのではないかと、今後そういうことも仮定があり得る中において他市がやっているからというのではなくて、五條市の現状を踏まえたときに、まだそこまでは至っていないというような見解に至っているのも事実です。

一般の方から見れば、なぜほか、市で言ったら十一市までがやるというのに五條市だけがやっていないという思いはあろうかと思えます。その辺は相当な担当部局、また私もその中に参画をして議論を深めた形の中で、まだまだその状況に至っていないというような見解もございませう。いろんな形がある。今逆に言えば、もっとそれを、コンビニを活用することにより、またそれが幅広く活用できるんじゃないかなという考え方もあろうかなと。

山口議員、コンビニで使ったことございますか。……なくても他の人の、こういうことをやるということが多分見たことがあろうかなと。そうしたときに大変難しい、私もどういう形なのかなあという中で、そう簡単な、簡単というよりも、銀行という形の中と、またちよつと中身は違うと思うのですけれども、そういうところも鑑みながら実際のところ時期尚早であるというふうな見解というふうな位置付けになっております。今後、検証しながらそれが本当にうちとしてベストだということになれば、その辺も踏まえて今後進めてまいりたい。そういう考え方をしているところです。

以上です。（「九番」の声あり）

○議長（平岡清司）九番山口耕司議員。

○九番（山口耕司）残り時間もあと十分程度となってまいりましたけれども、市長、このシステムの構築にしましては平成三十年年度までに実施すれば上限五千万円まで国の事業費や特交で二分の一返ってきます。これが三十年度を過ぎますと、全部実費になります。そしてまた今市長がおっしゃいました八百万円、それは人口百万人未満のランニングコストであって、中小規模の人口十五万人であれば三百万円ということが総務省の方で出ております。このいろんな住民票、そして印鑑証明、これは大変必要なものになってきます。当然のことながら車を乗り換えたり新車を購入する場合、そしてまた乗っている車を他人に譲渡したり廃棄したりするのにも印鑑証明が必要になってございます。そうした中でディーラーに行くってコンビニに駆け込んで、そして違う場所で五條市まで戻って来なくても、夜間でも休日でもそういったコンビニから住民票、印鑑証明が取れる、その辺もよく検討していただいて、戸籍謄本までやっちゃいますと大変なたくさん投資費用が掛かってまいりますので、その辺しっかりと精査していただいて、国の補助金のあるうち、この三十年度、しっかりと予算措置をしていただいても、その辺のことも考えていただいて、前向きな取組をお願い申し上げたいと思っております。青翔高校のそばのコンビニストアでございましたけれども、続きまして、地域公共交通についてでございます。

来年度からの新たな取組についてお尋ねいたします。

○議長（平岡清司）市長公室長。

○市長公室長（辻田祥友）九番山口議員の御質問にお答え申し上げます。

平成三十年度からの地域公共交通に係る取組といたしましては、ゴーちゃん交通計画に基づいて実施してまいります。事業内容といたしましては、地域公共交通をもっと知り利用していただくため、本市のコミュニティバスだけでなく、鉄道や路線バスも含めた五條市公共交通の総合パンフレットの作成を行います。地域の人口減少、高齢化などへの対応や新庁舎建設等に伴う公共交通網の再構築に向けて、五條市地域公共交通ワーキング会議等での協議・検討を重ねてまいります。

また、市民から要望いただいておりますコミュニティバス、南奈良総合医療センター通院ラインの十六時台以降の運行について利用状況を検証するため、新年度中に実証運行を開始します。

以上、答弁とさせていただきます。（「九番」の声あり）

○議長（平岡清司）九番山口耕司議員。

○九番（山口耕司）先日も年配の御夫婦から相談を受けたわけでございますけれども、いわゆる三時以降の南奈良総合医療センター通院ラインの便がないということで相談を受けました。その辺も早い時期に、今年度と公室長申されておりましたけれども、少しでも早い時期に実施していただきたいと思っております。

今部長おっしゃっていただきましたワーキング会議、前も御答弁いただいたと思うのですが、そのメンバーさんを教えていただけますか。

○議長（平岡清司）辻田市長公室長。

○市長公室長（辻田祥友）九番山口議員の御質問にお答えいたします。

三名おられます。まず、座長といたしまして、大阪大学の猪井助教でございます。二人目として近畿運輸局奈良運輸支局運輸企画専門官の方、それから三人目といたしまして、県土マネジメント部地域交通課交通戦略係の方に参画していただき、私共担当部署の企画政策課も入っております。

以上、答弁とさせていただきます。（「九番」の声あり）

○議長（平岡清司）九番山口耕司議員。

○九番（山口耕司）外部の方、そういった知識をお持ちである方に来ていただくのは大変有り難いと思うのですが、いわゆる五條市の地域公共交通の実情、また市民の方の地域公共交通の必要さとかいう思いの分かっていらっしゃる方がそのワーキング会議に入って、より良いものを築いていかななくてはならないと考えるのですけれども、そのワーキング会議自体が今おっしゃっていただきましたけれども、お役所さんと大学の助教ということでございますけれども、果たしてそれで市民のニーズに応えたものになっていくのかどうかというのは大変危惧するところでございますので、その辺市民の声を直接届けられるような体制づくりもお願いしたいと思っておりますけれども、その辺いかがでございますか。

○議長（平岡清司）辻田市長公室長。

○市長公室長（辻田祥友）九番山口議員の御質問にお答え申し上げます。

確かに大阪の教授でございますとか、奈良の運輸局の方、そういう方々で地域の土地勘というのに乏しいところがあるかなというふうなところ、おっしゃるところが多少あるかなとは思っています。しかしこの方々も今度、地域の方に入っていたかと、そういうふうな予定もしております。またその中でお出会いする市民の方がおられたときには耳を傾けて、皆さんの御意見を聞かせていただけたらと思っております。

以上、答弁とさせていただきます。（「九番」の声あり）

○議長（平岡清司）九番山口耕司議員。

○九番（山口耕司）あとの質問でございます、コンビニ交付のことについて、あとでホームページに質問させていただいておりましたけれども、時間の都合上割愛させていただきました。

このホームページに関しては、新たな取組で新たなホームページを開設していただけるといってお話も聞いてございます。そうした中で一つお願いでございます。ホームページもバリアフリー化を目指していただきたい。高齢者やそして視聴覚に障害のある方も五條市のホームページを閲覧できるというふうなシステムの構築を目指して行っていただきたいと思っております。その辺も質問は割愛させていただきましたけれども、どうかよろしくお願い申し上げます。

そして、最後の地域公共交通の法律からみた本市の地域公共交通についてでございますが、これも御答弁いただく時間がございません。そうした中におきまして、この地域公共交通再生法という法律が出来上がって、この法律の最後の結びの中に「地域公共交通の活性化及び再生

を図り誰もが生き生きと暮らせる持続可能で活力に満ちた地域社会の実現を目指していくことが必要である。」という文章が法律の最後についてございます。そうした取組が本当に、まさにそのとおりやなと言えりような地域公共交通の構築を一日も早く、また新庁舎が出来上がるまでに、そういった構築をしていただきたいことをお願い申し上げます。山口の一般質問を終わらせていただきます。

大変ありがとうございました。

○議長（平岡清司）以上で九番山口耕司議員の質問を終わります。

次に、六番窪 佳秀議員の質問を許します。六番窪 佳秀議員。

〔六番 窪 佳秀質問席へ〕

○六番（窪 佳秀）ただいま議長から発言のお許しをいただきましたので、一般質問を通告のとおりさせていただきますと思います。冒頭に昨年十月二十二日発生した台風二十一号により被災され、復旧工事がまだ遅れている方々に対しましてお見舞い申し上げます。に、一日でも早く元の生活に戻れるようにお祈り申し上げたいと思います。

それでは一般質問させていただきます。

市の活性化についてでございます。

（一）外国からの観光客の誘客についてを御質問させていただきます。

平成二十六年十二月議会でもこの質問をさせていただきました。外国からの観光客は従来の爆買いツアーというところから、地方やそして過疎地に目を向ける、そういう地域に体験や観光を目的に流れが変わってきていると報道されております。今年、過去最大の宿泊、全国で宿泊された方が七千八百万人ということで報道されまして、従来だけじゃなしに東北とか九州とか、今言われたとおりそういうような過疎と言ったところもおかしいですけれども、大都会じゃないところの中にも多くの方々の方が宿泊されておるといふことでございます。

その中において、奈良県にも多くの外国人が訪れ、そして奈良県では宿泊先が少ないということから、奈良市内・橿原市内、そして民泊施設も含めまして建設を検討していると報道がされております。

五條市におきましても、京奈和自動車道五條道路が開通してレンタカーでの移動であるとか、またJR和歌山線の列車を利用した外国人が訪れていると聞いております。市において外国人の来訪の実態を把握しているのか、お尋ねいたします。

○議長（平岡清司）井上産業環境部長。

○産業環境部長（井上 昭）六番窪議員の質問にお答え申し上げます。

五條市を訪れる外国人観光客の実態については、各施設等を訪れている人数を詳細には把握しておりませんが、平成二十八年度にJR五條駅前観光案内所を訪れた外国人訪問客は四十一人、平成二十八年度中に市内で宿泊した外国人訪問客は、市内宿泊施設から回答があった数値として八千三百五十六人となっております。

以上、答弁とさせていただきます。（「六番」の声あり）

○議長（平岡清司）六番窪 佳秀議員。

○六番（窪 佳秀）前回の二十六年の十二月議会での答弁では、把握していないということでございました。今回の答弁では、駅前の観光案内所等とかで宿泊施設、これだけで今合計を合わせますと八千三百九十七人の方が訪れているということが分かりました。宿泊しておられない方とか観光案内所に訪れていない方を含めると、まだまだ多くの方が訪れておるのではなからうかなと思います。

ちなみに平成二十九年では市内では八千七百六十七人と聞いております。先ほど答弁があった二十八年に比べて二十九年が約三百七十人増加しておると、そういうことも聞いておるわけでございます。そういう形におきまして、全国各地で二年後の東京オリンピック、そしてまたパラリンピック、そういうことを控えましてあらゆる知恵を出して誘客に取り組んでいると聞いております。

多くの外国人が現在奈良県に訪れているのを本当に黙って見逃す、そういうような見逃す手はないと考えております。真剣に本当に誘客しようとするれば、今の市の体制では本当に限界があるのかなと思います。一年、二年では成果が上がらないのが観光行政であります。やはり中期的に本当に専門の専属のスタッフが必要であると考えます。民間からノウハウの持ったスタッフを雇用いただきまして、外国からの誘客体制、並びに観光推進等の検討を行ってはと考えますが、担当部署のお考えをお聞かせ願いたい。

○議長（平岡清司）井上産業環境部長。

○産業環境部長（井上 昭）六番窪議員の御質問にお答え申し上げます。

奈良県地域振興部観光局によりますと、平成二十八年中の奈良県への外国人訪問客は推計で百六十五万四千人となっており、年々増加傾向にあります。

本市への外国人観光客誘客のため民間の専属スタッフを雇用することにつきましては、継続した観光行政のため有効な施策と考えるとありますが、広域的な観光への取組を進めておりますので、それらを活用し外国人観光客の誘致に努めてまいりたいと考えております。

以上、答弁とさせていただきます。（「六番」の声あり）

○議長（平岡清司） 六番 窪 佳秀議員。

○六番（窪 佳秀） いろんな形において、もちろん広域的な観光への取組、そういうような形でございますけれども、これにつきましては、市の一番大切なものは、それを進めていく市の体制のスタッフ、これが重要かと思えます。他市では専属的なそういうようなスタッフを筆頭に中長期にわたって、こういうような観光推進を行っておるということを、ただ一年や二年とそういう形の中で結果がすぐ現れるものではないので、継続性ということが大事でございますし、そして少子高齢化が進んでいる現代で何かその手を打たなければ、ますますまちは衰退していくだろうと思います。

観光客が多く訪れていただくだけでまちに賑わいを取り戻すことが可能になりますし、そしてまた賑わいがありますと、自然と地域、そして地場産業、こういうものが発展していきます。先ほど答弁にもありましたけれども、やはり外国人観光客その誘客のためには何度も申し上げますけれども、民間の専属スタッフ、そして継続した観光行政推進、これには本当に有効な施策であるとのことですので、市長、その辺の方もよろしくお願い申し上げます。

私としては、まず専門職員を配置し、そして五條のPRをする、最低英語、韓国語、そしてまた中国語の観光パンフレットの作成、そしてまた海外の旅行会社との連携、そして市民が気付かなかった五條の良いところが発見できることが大切であると思えます。

先日、JR五條駅に降り立った外国人が荷物を入れるためにコインロッカーを探していたと聞いております。駅前の人がその荷物を預かってくれ、観光に出掛けたと聞いております。担当課として市内の各駅前のロッカーの現状について把握しているのか、お尋ねいたします。

○議長（平岡清司） 井上産業環境部長。

○産業環境部長（井上 昭） 六番議員の御質問にお答え申し上げます。

JR五條駅前観光案内所では、来訪客の手荷物の一時預かりを行っております。

また、JR五條駅・北宇智駅・大和二見駅には荷物を一時預かるようなロッカーはございません。

以上、答弁とさせていただきます。（「六番」の声あり）

○議長（平岡清司） 六番 窪 佳秀議員。

○六番（窪 佳秀） 僕も今の答弁で初めて、五條の駅前の観光案内所で手荷物の一時預かりを行っているということが分かったわけでござい

す。しかし先日、観光案内所に行きましたところ、四時四、五分ごろだったと思うのですけれども、もう閉まっておるといふ形の中で、もちろんこういふような預かりがあるというような場所のそういう案内の看板もなく、そしてまた空いているのは朝九時から四時までであります。一時預かりを利用するには本当に便利であるとは思いません。今後の対応としましてまたロッカーの対応について併せてお答えください。

○議長（平岡清司）井上産業環境部長。

○産業環境部長（井上 昭）六番窪議員の御質問にお答え申し上げます。

今後、来訪者の状況調査し、必要であれば観光協会に観光案内所の閉所後や不在時の対応について、またJR西日本にロッカーの設置を要望してまいりたいと考えております。

以上、答弁とさせていただきます。（「六番」の声あり）

○議長（平岡清司）六番窪 佳秀議員。

○六番（窪 佳秀）是非ともその観光案内所のところに手荷物の預かりができますよ、というようなところをやはり表に出していただきたいし、そして朝九時から夕方四時、まだこれ冬場でしたらあれですけれども、夏場になったら四時というのはいかがな時間帯かなと思いますので、その辺の方も調査をしていただきまして、やはり来ていただいた方、特に最近外国人はローカル線というところとあれですけれども、もちろん新幹線とかそういうものもありますけれども、ローカル線をゆくり来るといふ形のことでも今増えてきておるといふことでございますので、その辺の方を併せてよろしく願います。

そしてまた、新町通りに来た観光客ですけれども、通訳ができる添乗員と思われる人に案内されて来ていたということも聞いております。そのことを聞きますと、できれば通訳できる案内人の配置等、受入体制が大切であろうかなと考えますけれども、それ以前に観光案内パンフレットで外国版の観光案内パンフレットがあるか、その辺の現状をお聞かせ願いたい。

○議長（平岡清司）井上産業環境部長。

○産業環境部長（井上 昭）六番窪議員の御質問にお答え申し上げます。

新町通りの来訪者へのガイドは、五條市観光ボランティアガイドの会へ申込みをしていただき、ボランティアガイドの会の方がガイドを行っていただいているのが現状でございます。

観光パンフレットの現状といたしましては、日本語のみの表記となっておりますが、新町通りを使って撮影された映画「ひと夏のファンタ

「ジア」ロケ地の観光マップは日本語とハングル文字のパンフレットがあり、観光案内所に設置しております。

以上、答弁とさせていただきます。（「六番」の声あり）

○議長（平岡清司）六番 窪 佳秀議員。

○六番（窪 佳秀）今答弁いただいたように、新町通り等を使って撮影された映画「ひと夏のファンタジア」のロケ地、これの案内マップ、これだけが本当に韓国語のハングル文字ですか、こういうのだけがあるということをおもそちらの方にいきまして、確認をさせていただきます。これを見て本当に寂しいなと感じました。

この観光案内パンフレットといえますのは、いろんなところに出回り、そして誘客宣伝効果、これを上げる本当に大事な役目をする観光案内パンフレットであると思いますし、そしてそういうことのパンフレットが本当に重要であろうかと思えます。是非とも検討していただきたいと思いますが、今後の対応についてお伺いいたします。

○議長（平岡清司）井上産業環境部長。

○産業環境部長（井上 昭）六番議員の御質問にお答え申し上げます。

今後、本市への外国人訪問客の人数を調査し、必要であれば検討してまいりたいと考えております。

以上、答弁とさせていただきます。（「六番」の声あり）

○議長（平岡清司）六番 窪 佳秀議員。

○六番（窪 佳秀）是非ともこの外国の、最低英語・韓国語・中国語くらいでも結構ですけれども、本当にそういうような外国人に渡せるような、見ていただけるような観光案内パンフレットの作成を強く望みたいと思います。せつかく奈良まで多くの観光客が来ているのに、五條まで足を伸ばしてくれるような、そういうような秘策といえますか、アイデアは幾らでもあろうかと思えます。

一つは五條には自然があります。自然を生かした誘客、例えば日本有数の登山客がいる金剛山、JR北宇智駅から整備すれば本当にかの多くの登山客が訪れるのではないかなと思います。そしてそれには、登山道の整備も必要ですけれども、そしてまた今吉野川でルアーでとか、鮎釣り、こういうのも五條で体験できる、そしてまたカヌー体験、これは民間もやっていますけれども、やはりこのところに合同に参入すれば、やはりカヌー体験等の場所の整備、そういうものを行えば、本当にいい観光の目玉になると違ふのかなと思えますし、一番今懸念しておるのが、榮山寺周辺の整備でございます。国宝というような、そういうようなものがありながら、本当に観光に関しては生かされ

ておられないというのが私の考えであります。そういう形の中において、本当に五條だからできる、五條の自然だから、あるからできる、そういうアイデアは幾らでもあると思います。そのためにはどうしても短期ではできません。やはり中期にわたる、観光推進計画とか、県でしたら観光、いろんな言葉があるように聞いておりますけれども、私の場合は観光推進計画、そういう計画が必要であると思いますが、担当課の答弁を求めたいと思います。

○議長（平岡清司） 井上産業環境部長。

○産業環境部長（井上 昭） 六番窪議員の御質問にお答え申し上げます。

外国人観光客の誘致に、自然や体験を活用することは大変有効な方法であると考えております。

観光推進のための計画の策定につきましては、奈良県及び他市の状況も含め調査・研究をしまいたいと考えております。

以上、答弁とさせていただきます。（「六番」の声あり）

○議長（平岡清司） 六番窪 佳秀議員。

○六番（窪 佳秀） 先ほども申し上げましたですけれども、五條には本当に良いところがたくさんあると、気付いていないのは五條市民であるん違うかということが他市の方からよく聞かれます。やはり活力のある五條市にまい進していただきたいと思いますが、市長の今までの外国人に対する誘客の見解についてお伺いいたします。

○議長（平岡清司） 太田市長。

○市長（太田好紀） 六番窪議員の質問にお答え申し上げます。

るる部長の方から説明がありました。窪議員は一步リードした形の中の答弁であろうかなと、外国人ということ、私たちはまず国内の日本人をもっと引っ張って来なくてはならない、そういう思いを持っています。やはり日本国内の人が来ていただかなければ外国人も来ていただけないのかなと、その上に立ってまた精神的に外国人という素晴らしい考え方を持っているということで大変有り難いことです。いろんな形の中で五條市の良さをやっぱり分かってもらうためには、いろんなパンフレットというような形も言っただきました。特に一つの事例として榮山寺ということ、本当に私たち五條の中で国宝が二つあるということでは、大変大事なことであろうかな、これを踏まえていろいろと外国人もですけれども、国内の人も多く訪れていたかのように、また外国人、それに連れて外国人は増えてくるだろうなということを思っています。

一つ昨年度、知事が新幹線構想をしていただきました。関空からリニア新幹線をつなぐというそういう一つの構想、これで大きく一つの流れが変わっていくのではないかな。大変道のりは厳しい中においても、この一つの流れができれば、高野山に百七十万人の観光客が来ている、この百七十万の観光客は一体どこに行っているのかなど。逆に奈良県では今現在百六十五万人が実際に来ているというそういう状況の中で、いかにそれを今五條の良さを考えたときに、理解をせよという形でもらえる、またそういう形でいかに情報発信をするかということは大変大事であろうかなと思いますので、是非ともそこらを踏まえて外国人、また国内の人も来てもらえるような体制構築をこれから進めてまいりたい、またその辺ではいろんな議員の皆さんの御意見も聞きながら進めてまいりたい、そういうふうと考えております。

以上です。（「六番」の声あり）

○議長（平岡清司）六番窪 佳秀議員。

○六番（窪 佳秀）是非とも本当に、やっぱり人が訪れてくれるということは五條市の活力の源になってくると思いますので、よろしく願いいたします。

そしてまた、次の五條市五万人の森公園についてでございますけれども、これにつきましても平成二十六年十二月議会で一般質問をいたしました。五万人の森公園における看板の設置についてであります。このときの答弁等につきましては、五條市のホームページ、そしてスマートフォン等で案内していく、そしてまた看板については、担当部局と協議を行うということでしたが、その後協議されたのかお問い合わせいたします。

○議長（平岡清司）井上産業環境部長。

○産業環境部長（井上 昭）六番窪議員の御質問にお答え申し上げます。

五万人の森公園から見える西吉野・大塔・天川・十津川方面の山々について、五條市周辺の山の地図をホームページにて掲載しております。また、五万人の森公園の博物館側に周辺の観光案内看板を設置しておりますが、五万人の森公園の眺望の良い場所からの山並みの案内看板の設置には至っておりません。

以上、答弁とさせていただきます。（「六番」の声あり）

○議長（平岡清司）六番窪 佳秀議員。

○六番（窪 佳秀）ホームページ、そしてそういうところの中で掲載しておることでございますけれども、市外から訪れた人が前回と同

様に五万人の森の広場から大峯山系の山々の景観が見える素晴らしい場所である、特に今年は雪が掛かり本当に美しい、そしてその見える山々の名前は分からない、また景観の良いところに立木が生い茂り、素晴らしい景観がもつたないと話されておりました。前回も市外から来た人たちが気付き、そしてそういうことを議会で申し上げましたですけれども、そうお金が掛かるものではないと思いますので、やはりその看板とそして立木の伐採をお願いしたいと思います、担当課の考えをお聞かせ願いたい。

○議長（平岡清司）平田都市整備部長。

○都市整備部長（平田耕一）六番窪議員の御質問にお答え申し上げます。

議員がお述べのとおり、空気が澄んだとき、特に冬場に五万人の森公園から見えます大峯山系など山々がきれいに見えております。

来年度におきまして、展望台周辺の木々の伐採及びせん定を行った上で、見える山々の名称や四季別の特徴、文化・歴史等を調査し、印刷物等で案内できるようにしたいと考えているところであります。

看板設置についても、今後検討してまいりたいと考えております。

以上、答弁とさせていただきます。（「六番」の声あり）

○議長（平岡清司）六番窪 佳秀議員。

○六番（窪 佳秀） 一步進んでいただきました、印刷物等で案内がまずできるようにすることでございます。来た人が、あの横に喫茶店とか軽食できるところがあります。あそここの従業員の方にも、「あの山、何ていう山ですか。」という形の中で聞きに行ったら、「いや、ちよつと分かりません。」というような返答もございました。そういう形において、やはりその印刷物も併せまして、その指定管理者をしていただいております方に、聞かれたらこれはこうですよという形の中、その印刷物の説明もお願いするとともに、そしてまたその場所のところには、ガラスのところでも結構ですけれども、看板ができるまではその印刷物で、この山がどこの山ですよという形の中、できるような態勢をお願いしたいなと思います。

まず、できることから本当に一步一步実行していただきました、そして今芝生だけではなしに、最近小さい子供さんを連れて家族が来ていると聞いております。その家族と一緒に遊べるような幼児用の小さな遊具でも結構ですんやけれども、こういうものもその場所に設置していただきたいなと思いますが、考えをお聞かせ願いたい。

○議長（平岡清司）平田都市整備部長。

○都市整備部長（平田耕一）六番窪議員の御質問にお答え申し上げます。

五万人の森公園への遊具等の設置については、運営状況や利用者のニーズ等を調査・研究をしていきたいと考えております。

以上、答弁とさせていただきます。（「六番」の声あり）

○議長（平岡清司）六番窪 佳秀議員。

○六番（窪 佳秀）研究していただきたいのですが、そしてこの間の聞き取りのときに、何かアンケート調査といたらおかしいですけども、そういうものも今現在事務所の中に置いてあるということをお聞きしたのですけれども、やはりそういう来てもらった人がアンケートを書くのに事務所の中のアンケートは、入っていったというようなことはほとんどやらないと思います。表の見えるところに、ここを利用してもらった方々のそういうようなアンケートを取っていただいて、それを参考にしながら、調査・研究をしていただきたいなと思います。そういう形において、本当にこれは小さな意見ですけれども、小さな意見を吸い上げていただきまして、そしてその幼児の遊具でございますけれども、余り大層なものはいらないと思います。一つはちよつと大きく山を盛っていただいて、そのところに芝生をはるだけでも幼児というのは、芝生グレンデという形の中で二、三メートル滑って遊ぶだろうということが想定されます。だからちよつと工夫するだけで、本当にまた来ようかなというような気持ちにもなると思いますので、お金の掛からない方法で検討をよろしくお願い申し上げたいなと思います。

それでは次に、商店街の街路灯についてお聞きいたします。

五條には商工会が把握している商店街は八箇所あると聞いております。どの商店街も本当に後継者問題等、そしてまた少子高齢化等で店じまいとか、そしてまた空洞化とか深刻な状況であります。したがって商店街の運営、そして維持管理に頭を抱えているということをお聞きます。

その一つに、街路灯の維持管理がございます。商店街には街路灯が設置されているところ、そしてまた設置されていないところ様々であります。また商店街によりまして、商店街で管理している街路灯、そして商店街とは別に街路灯組合、こういうものをつくって運営しているところがあると聞いております。ある商店街の街路灯の組合は、会員の減少により本当に維持費がかさみ、一人当たりの負担額が増え、維持に苦労しているということで、このままでは消灯も含めて撤去も仕方がないとのことで、一部では撤去したということで、そのところを防犯灯に切り替えているということもあると話されております。ところが防犯灯となりますと、維持管理は自治会や町内会というのですか、そ

ういう方々が維持管理費は負担していかねばならないと。当然として、自治会等からその負担に関する意見も出るとの話がされておりました。

そういう形の中におきまして、先日、商工会の方に話を聞きに行かせていただきました。商工会では平成二十年、そして二十一年には、新しく設置するための県、そして市からの補助金制度があつて設置した商店街があつたと、しかし現在、県においてそういう制度もないと、したがつてもちろん維持管理等の補助金もないと、現在ある街路灯の消灯や撤去となると、本来にまちから灯が消えたようになり、ますます寂しい商店街になっていくと話されていました。市として市の活性化のために、何かそういうようなことを検討していただくようなことができないのか、お尋ねいたします。

○議長（平岡清司）井上産業環境部長。

○産業環境部長（井上 昭）六番窪議員の御質問にお答え申し上げます。

商店街も事業主の高齢化、後継者不足により衰退してきているのが現状でございます。過去に奈良県・五條市から補助金があつたことですが、現在奈良県では補助金の制度はないというふうに聞いております。

本市では商工業団体が商店街の振興、美化のため必要な共同施設、顧客誘致共同事業及びその他商工振興に必要な共同事業に対して、補助対象事業に要する費用の十分の三以内で市長が適当と認めた額を補助する制度がございますが、新たに設置する費用に対する補助金であり、維持管理に係る補助金はございません。

以上、答弁とさせていただきます。（「六番」の声あり）

○議長（平岡清司）六番窪 佳秀議員。

○六番（窪 佳秀）今答弁の中において県はない、市は十分の三という形の中で補助制度はあるけれども、これは新たに設置する場合のみに対する補助金制度であるという形において、本当に維持管理には全く補助金がないというような形のことでございます。

本当に市の現状、そして市の財政状況、今現在分かるわけでございますけれども、特に駅前商店街、これは消灯、そしてまた撤去となれば、本当に市の玄関口として、また防犯対策として大変なことになると思ひます。

空き家が多く、そして高齢者も多くなっている商店街の活性化のためにも、何らかの補助の検討をお願いしたいなと思うわけでございます。維持ができなくなつてからの対策はどうしようもないと考えます。

また設置から数年経っており、電球ですけれども、電球を変えようと思っても現在製造されておらず、本当に交換がしにくくなっている中において、古いところはもう撤去しかないと、ただ撤去を一基するのに二万円から三万円、撤去費用が掛かると、そのお金も本当に算出するのが大変であるということをお聞きしております。

全国的にも小さな商店街には、同じような悩みを持っているというところで、増加していると思います。市としてやはり他市の調査を行いまして、五條市に適したより良い方法を見つけ出していただいて、この街路灯組合、又は商店街で運営しているところもございませう。そこに対して、こういう方法ありますよとかいう形の中で、維持管理に対するアドバイスをしてやってほしいなと思ひますが、考えをお伺いいたします。

○議長（平岡清司）井上産業環境部長。

○産業環境部長（井上 昭）六番議員の御質問にお答え申し上げます。

御質問いただきました件につきましては、本市といたしましても、他市の状況を調査・研究し、良い方策があれば商工業団体に情報提供を行ってまいりたいと考えております。

以上、答弁とさせていただきます。（「六番」の声あり）

○議長（平岡清司）六番議員 佳秀議員。

○六番（窪 佳秀）商店街が活性化していきには会員も活力があつて、自分ところの看板もその街路灯のところにはぶら下げて、そしていろんな形の中の集客を図つておつたと思うのですけれども、現在はその看板を取つてほしいと、取つてほしいイコールもう電気代はよう払わんでというような形のことがあるそうでございませう。現在、打つ手が本当に少なくなつていると聞いております。

商工会の方にも先日、何とか全国の方でそういう形の中で探していただきたいという形の中で努力を申し上げてきましたが、行政の方も撤去とか灯が消えてから、そしてまた、街路灯から防犯灯に切り替えてからでは、本当に寂しくなると思ひますので、その辺の方も併せて検討よろしく願ひいたします。

そして二番目、防災行政、これは地震対策、特に大地震対策についてでございます。

指定の避難場所の現状についてお尋ねいたします。

先日報道で南海トラフ巨大地震、そしてまたそれイコール連動して起こる東南海・南海地震の発生する確率七〇パーセントが前回でしたが、

八〇パーセントに確率が上がってきたという形で報道されております。八〇パーセントという数字につきましては、いつ今現在でもそうすけれども発生してもおかしくない、そういう状況であろうかと思えます。

地震は前もって、本当に当たり前のことですから、予知することは本当に困難でございます。したがって、普段から減災対策、そしてまた避難生活、それができる対策が重要であろうかなと思えます。しかし予知が困難な地震には、前もって避難しておく、そういうことができないということが当たり前の話でございます。

さらに、災害は五條市だけではないに、一部の地域ではないに、周辺市町村も同様な被害の状況であると想定されます。家が倒壊した、家では生活できない、どこで避難生活ができるのか、市として今現在検討しておく必要があると思えますが、担当課としてのお考えをお聞かせ願いたいと思えます。

○議長（平岡清司）山本危機管理監。

○危機管理監（山本修二）六番窪議員の御質問にお答え申し上げます。

南海トラフ大地震等の大規模地震が発生した場合、まずは安全確保のため、危険から逃れるための場所や施設である指定緊急避難場所に避難いただき危険を回避していただくこととなります。

次に、被害や危険等がある場合に、自宅から離れて仮設住宅等へ入居するまでの一定期間滞在して、避難生活を送る場所である、指定避難所において仮の生活をしていただくこととなります。

現在市内におきましては、五十一箇所の指定避難所を地域防災計画で定めております。

以上、答弁とさせていただきます。（「六番」の声あり）

○議長（平岡清司）六番窪 佳秀議員。

○六番（窪 佳秀）今の答弁の中において、指定避難所を地域防災計画で五十一箇所定めておるということでございます。ただ考えて見ていただいたら分かると思うのですが、地震には前震、そして本震そして余震というように、三つのサイクルがあるかと思うのですが、その前震であろうが本震であろうが余震であろうが、揺っているときにはほとんど避難というのは不可能なことでございます。だから全てが終わった時点でしか避難できない、避難イコール避難生活をしなければならぬと、こういうのが地震一番の大きな特徴であろうかと思えます。災害があつて、もちろんしばらくしますと仮設住宅で一定期間滞在して、そして生活を送っていただくこととございますけれども、

紀伊半島大水害の場合もそうですけれども、仮設住宅で生活を始めるまでに掛かった期間ですけれども、これが分かればお聞かせ願いたいなと思います。

○議長（平岡清司） 山本危機管理監。

○危機管理監（山本修二） 六番窪議員の御質問にお答え申し上げます。

災害の種類や規模によりまして、仮設住宅開設までの期間は変わりますが、平成二十三年の紀伊半島大水害のときには、入居開始まで約二箇月の日数が掛かりました。

以上、答弁とさせていただきます。（「六番」の声あり）

○議長（平岡清司） 六番窪 佳秀議員。

○六番（窪 佳秀） 今のとおり、大塔の場合はまだそのある限られた地域だけでございましたので、二箇月という中で仮設住宅が完成して、そこで生活ができるという形のことであつたかと思うのですけれども、やはり五條市全域、こういう今回の南海トラフというような形になってきたときには、本当に二箇月で完成というのはかなり難しいような状況になってくるかなと思います。それにおいて、もちろん指定避難所での、先ほど話ございましたけれども、生活できると、そういうのが前提で計画を進めておると思いますが、その避難所が耐震補強されておりました、安全であり、そして倒壊しておらないという考えからそういうような計画ができるものだと考えます。

現在、指定避難所の中で耐震補強されている避難所は何箇所あるのかお尋ねいたします。

○議長（平岡清司） 山本危機管理監。

○危機管理監（山本修二） 六番窪議員の御質問にお答え申し上げます。

五十一箇所ある指定避難所のうち、新耐震基準後に建築されたもの、耐震診断をして耐震性が確認されたもの、及び耐震補強実施済みもののは合わせまして三十九箇所、新耐震基準前に建築されたもので耐震診断未実施が十二箇所である、そういう状況でございます。

以上、答弁とさせていただきます。（「六番」の声あり）

○議長（平岡清司） 六番窪 佳秀議員。

○六番（窪 佳秀） 耐震補強されておるところが五十一箇所のうち三十九箇所ということの答弁でしたけれども、その三十一箇所がどこという形の中において、例えばある地域に集中してここだけが耐震補強してありますよと言いましても、本当に何の意味と言ったらおかしいです

れども、なかるうかなと思います。やはり地域に分散してそういうような指定避難所、そこで生活が送れるという場所が必要かと思えますけれども。

その中において学校施設、これは指定避難所に含まれておると思うのですけれども、再度含まれているのか確認したいと思えます。

○議長（平岡清司） 山本危機管理監。

○危機管理監（山本修二） 六番窪議員の御質問にお答え申し上げます。

先ほども申し上げました指定避難所の中には、学校の施設も含まれておるという状態でございます。

以上、答弁とさせていただきます。（「六番」の声あり）

○議長（平岡清司） 六番窪 佳秀議員。

○六番（窪 佳秀） 学校も避難指定のそういうような形の避難所になっておるということでございますけれども、そこで僕が質問しておるのは、本当に避難生活ができる、それも仮設住宅が建設されるまでの期間という中において、全国でいろんな災害があったときにもそうであれば、学校は今のところほとんど耐震補強、五條市はされておるわけでございますけれども、そのところに住民が二箇月、三箇月と避難されますと、今度学校の再開、いつしようかとかそういうような、再開のめどというのが本当に難しくなってくるだろうなということを考えております。

その中において、今学校適正化うんぬんのことございますけれども、それまでももちろん地震があるかもわかりませんが、そんな形において仮に学校が三箇月、四箇月ぐらい住民がそこで避難生活を始めた場合に、子供たちの学校再開をどのように考えていくのか、そういうようなやはり計画が必要であろうかなと思います。例えばこの学校の生徒は再開するときはどの学校のところに移つてもろて、そこで再開しようよと、子供はある程度どの学校つて移動できますけれども、避難生活している方はちょっとこっちへ場所移動してくださいよと、なかなかできないと思います。だからこの学校は、中学校は、もしあれやったらこの中学校の一枚は、このところに再開する場合は、このところの子供集めて再開しようよ、小学校のときにはこの学校に集めてしようよと、そこは当然として避難生活ができる避難所の指定は指定から外しておく、そういうような形もやはり大きな事かなと思うわけでございます。それも併せて、やはり指定避難所の分散ということもございまして、地域にある公民館とか、そして集会所とかそういうのもやはり耐震補強、これも少しずつ計画的に耐震補強をしていくという必要があると思えますが、併せて担当課の考えをお聞かせいただきたい。

○議長（平岡清司） 山本危機管理監。

○危機管理監（山本修二） 六番窪議員の御質問にお答え申し上げます。

議員お述べのとおり、耐震性のない公民館や集会所につきましては、耐震補強をすることや、新たな耐震性能のある施設等で指定避難所として条件を満たす施設を考慮いたしまして、指定の変更につきましては検討する必要があるのではないかと考えております。

以上、答弁とさせていただきます。（「六番」の声あり）

○議長（平岡清司） 六番窪 佳秀議員。

○六番（窪 佳秀） 指定の変更も検討していただいて、先ほども言いましたけれども、今後早く再開しなければならないところ、そういうところについては学校関係と協議をしながら、そこは空けておくと言ったらおかしいですけれども、何か長期にわたる場合はこのところに子供を集めて授業を再開しようと、そういう形の中の検討も併せてよろしく願います。

本日に今、九州の方で火山も活発化しておるとい形の中において、地震大国であります日本では、過去において本日に多くの大震災が発生しております。そういう過去の地震での教訓もたくさん担当課は持つておると思います。教訓を検証して、そして五條市に合った計画を立てるということが必要であろうかと思えます。市として過去にあったそういうような形の地震での教訓、そういうような教訓を取り入れた対策を取って、防災計画に取り入れている計画があればお答え願いたいと思います。

○議長（平岡清司） 山本危機管理監。

○危機管理監（山本修二） 六番窪議員の御質問にお答え申し上げます。

平成二十六年の五條市地域防災計画の見直しにおきましては、大地震の教訓により、倒壊の可能性が高い避難所の指定の見直しをしたことや、大規模地震等におきましては、近隣市町村も被害を受ける可能性が高いことから、距離の離れた広域的な相互支援体制、いわゆる救助・物資支援・避難者の受入れ等を構築していくこと、また災害発生から救出・支援に至るまでの時間を要する可能性が高くなるため、自助・共助の必要性和備えを地域防災計画に反映したところがございます。

以上、答弁とさせていただきます。（「六番」の声あり）

○議長（平岡清司） 六番窪 佳秀議員。

○六番（窪 佳秀） いろんなところの中で反映していただいたということ、そしてまた今度、国、県が防災計画の見直しというようにも言

われております。そんな形の中において、五條市には本当に独特なその地域の特性、そしてそういう中において特に山間部がある、そして集落が点在しておるといって、普通の台風の時でもそうですけれども、道路が寸断したら孤立するというような集落ができる、そういうような現状が五條市であろうかと思えます。

そういう形の中において、やはり一番難しいのは、孤立しますと実態、どれだけの災害があるのかの把握、そして今度どういう支援をしたらいのかとか、そしてもちろんいろんな形の中でこれから行う支援体制についても、本当に大変なことになってくると思います。そういうような形の中において、寸断して孤立した場合にはどういような形のことが必要かということも五條市独特と言ったらおかしいですけれども、一つがあるのかなと思います。またそういうようなことにつきましても、計画の中に入れていただいたらなと思います。

私といたしましては、過去の大震災から検証いたしますと、指定緊急避難場所ですけれども、昔は広域避難場所という言葉でしたけれども、今は指定緊急避難場所ということに言葉が変わっておりますけれども、その整備が一次的には大変有効であると思います。なぜならば、本市においては災害の季節にも異なりますが、車社会という形の中にあり、車の中、そしてまた簡易テントでの一時的な避難生活をすると、一方が思うかと思えます。高齢者、一人暮らしの人、そして車等移動手段を持たない人には、先ほど言うた耐震補強うんぬんされたところで避難生活を送ってもらおう、そういうこともそうですし、そしてまたそういうような車とか、そしてテントでの一時避難生活をしようという形の中において、そういうような指定緊急避難場所、こういう形の中で今から計画しておく必要があるかなと思います。

その中において、(二) 指定緊急避難場所について伺いたします。

屋外における避難には先ほども申し上げましたけれども、車での生活、そして簡易テントの生活、これが考えられますが、可能な指定緊急避難場所、これは今現在何箇所ございますか。

○議長 (平岡清司) 山本危機管理監。

○危機管理監 (山本修二) 六番議員の御質問にお答え申し上げます。

現在市内には指定緊急避難場所が六十一箇所あります。そのうち屋外は三十二箇所であります。

以上、答弁とさせていただきます。(「六番」の声あり)

○議長 (平岡清司) 六番議員。

○六番 (窪 佳秀) 三十二箇所ということでございますけれども、それは屋外における指定緊急避難場所は三十二箇所ということですが、

やはりどうしても避難生活になりますと、一番大事なのは、僕はトイレと飲料水、これの確保ができるということが一番の問題であろうかと思えます。現在の緊急指定避難場所で、トイレそして飲料水、最低それだけで一時生活が可能な場所は何箇所あるのかお聞かせ願いたい。

○議長（平岡清司） 山本危機管理監。

○危機管理監（山本修二） 六番窪議員の御質問にお答え申し上げます。

屋外の三十二箇所のうち、トイレと水道水が使える場所は二十七箇所であります。

以上、答弁とさせていただきます。（「六番」の声あり）

○議長（平岡清司） 六番窪 佳秀議員。

○六番（窪 佳秀） 今答えていただいたとおり、三十二箇所のうち二十七箇所が最低トイレと水道水、飲料水の確保ができておるところが整備されていることとございませうけれども、やはり指定緊急避難場所というのは、将来的に言ったらおかしいですけれども、仮設住宅の建設する場所になってくる可能性が高いと僕は思うわけですけれども、だからやっぱりその指定緊急避難場所が二十七箇所ありますけれども、その中において、やはり今度仮設住宅を建てるのはどこに建てられるのかなという、やはり建てる場所については、この指定緊急避難場所から外して置いておくということも今度仮設住宅建設に当たり、本当に重要なことかなと思うわけです。そんな形の中において、普段からそういうことを、ここはこうですよ、ここはこういうことが、二十七箇所トイレと水道水が使えますよという形の中で、市民に啓もう活動をしていただいて、そして一応いろんな五條市の防災訓練をやっていますけれども、そういうようなところで、この場所で一応生活をすような形の中の訓練ですけれども、このところに集まってくださいというような訓練をしておくことが、一番最も大切であろうかと思えます。

食料は本当に今、全国的な支援を受けるという前提のもとで、二、三日経てば支援があるのかなと思いますけれども、支援が受けられないもの、そして支援が遅れるもの、そして行政が支援できないものがあるかと思えます。市民には常に情報提供お願いして、先ほども言われておりましたけれども、自分の命は自分で守る、自助の精神、これを本当に植え付けていく必要があるかと思えます。そのためには、僕は思うのですけれども、自治会とか防災会を通じて、「あなたは南海トラフ的な地震があつて家に住めない場合は、どこに避難生活をしたのですか」というような形の中で、自治会で話し合いをしていただくという、そういうことの場合、啓もう・啓発、そして自治会ですから、あそここの人はもし何かがあつた場合はどこどこに行きたいんやな、こここの人はここに行きたいんやなという形のことと分かりますし、そ

れを集計すれば、やはり五條市として、これだけの方々がこういうところに避難生活をしたいんやなということが把握できるという形の中で、一石二鳥であるのかなと思います。やはり大事なことはそういう形の中において、市民が関心を持っていただくというそういうような方法には一番適した方法でないかなと思いますが、担当課の考えをお聞かせ願いたい。

○議長（平岡清司） 山本危機管理監。

○危機管理監（山本修二） 六番窪議員の御質問にお答え申し上げます。

議員お述べのとおり、市民の方が避難生活をどのようにしたいのか考えていただくことは大変なことであります。

本市といたしましては、指定緊急避難場所や指定避難所につきまして、市民の方に防災ガイドマップやFM五條を活用して情報提供を行っております。

今後、避難生活に関心を持っていただけるよう、広報内容につきまして検討してまいりたいと考えております。

以上、答弁とさせていただきます。（「六番」の声あり）

○議長（平岡清司） 六番窪 佳秀議員。

○六番（窪 佳秀） 市民にやはり関心を持っていただく方法、これが本当にこれから大切で、担当部署として市民の意見を聴くことによって、本当に避難者の避難場所とか、避難人員とかそういうものが、もっと細部に把握することができる、そしてまた今後の対策にも参考になると考えますので、是非とも検討していただくようお願いいたします。

そしてまた防災、まだまだこれは一端でございますけれども、防災の担当課、今現在危機管理課がやっていますけれども、危機管理課には危機管理係、消防係、生活安全係、自衛隊誘致係と本当に多くの部署をこの危機管理課というのは持つておるわけでございます。その中において、職員の兼務もあることから業務範囲は多忙であると考えております。真剣になって何かをやり遂げる、そういう体制では僕はちよつとなかるうかなと思います。危機統括室であるということでございますので、課は一つではなしに、やはり係は課に昇格というような形の中において、何かの場合にもそうですけれども、万一の体制を取っていただくような形の中を考えていたいただきたいなと思います。

最後に、毎議会のたびに本当に防災行政について質問いたしまして、本年度で退職される山本危機管理監におかれましては、敬意と感謝を申し上げます、私の一般質問を終わります。

ありがとうございます。

○議長（平岡清司）以上で六番窪 佳秀議員の質問を終わります。

昼食のため午後一時三十分まで休憩いたします。

午後零時二十七分休憩に入る

午後一時二十八分再開

○議長（平岡清司）休憩前に引き続き会議を再開いたします。

ただいまの出席議員数は定足数に達しておりますので、会議が成立いたします。

この際、申し上げます。議員各位の質問並びに理事者側の答弁は明瞭、的確にお願いいたします。

一般質問を続けます。

五番吉田 正議員の質問を許します。五番吉田 正議員。

〔五番 吉田 正質問席へ〕

○五番（吉田 正）議長より発言のお許しをいただきましたので、通告どおり吉田 正の一般質問をさせていただきます。

二年半ぶりぐらいになりますので、よろしくお願いいたします。

まず最初に、大塔町の今後についてということで、将来における大塔支所の在り方についてをお尋ねいたします。

まず最初に、先の大水害で被災されました皆様方に心よりお悔やみとお見舞いを申し上げます。また、いまだ行方不明の三名の方々の一

も早い発見を願っております。

さて、今全国的に進んでいる過疎化の波が大塔町においても急速に進んでおります。今後人口減少化の中、まさに大塔町の行政の中心である大塔支所の将来の在り方について、いかがお考えかをお尋ねいたします。

○議長（平岡清司）泉谷大塔支所長。

○大塔支所長（泉谷進治）五番吉田 正議員の御質問にお答え申し上げます。

甚大な被害を受けました紀伊半島大水害からはや六年七箇月が過ぎ、地域の復旧も徐々に進展を見ているところでありますが、現在大塔町においては人口減少・空き家・高齢化が進んでおり、人口は平成三十年一月末現在で二百七十六人となっております。

このように高齢化が著しい地域においては、市中心部から取り残されるなどの懸念もあり、このような不安への対応策として福祉施策を始め、道路・交通ネットワークの形成、情報ネットワークの構築、地域産業の振興など、住民サービスを行う上において支所機能は重要な位置を占め、今後も地域住民の舵取り役を担っていく必要があります。

以上、答弁とさせていただきます。（「五番」の声あり）

○議長（平岡清司） 五番吉田 正議員。

○五番（吉田 正） 大塔町の住民が安心して暮らせる場所であり続けるためにも、大塔支所の役割は重要であります。まさに大塔町民にとっては暮らしを守り、大塔の防災拠点ともいべき支所であると考えます。どうか今後も大塔町民のために、一層の充実に御尽力をお願いいたします。

その中で、大塔町の観光についてをお尋ねいたします。

先般ある講習会の中で「定住人口を増やし、少子化の解消を強く訴えていくことが叫ばれている」ということが言われておりましたが、それよりもまずは来てもらう、訪問していただくことが大事である。そのためには、訪れようとしてくれる人たちが「何をしに、何を見たくて、何を体験したくて」をよく調べて、それらの人々と交流を持つことが大事であるとお聞きいたしました。余談になりますが、私の住む町内に数年前に若い夫婦が空き家を買って住んでくれております。まず知り合いの老人夫婦の方と交流をして、それから移住していただいて、子供も二人産んでくれました。なんで田舎のこの町内に住もうと思ったのかを尋ねますと、びっくりするような答えが返ってきました。「ここから見える山々の景色がきれいだと思いますか、僕はここからの景色が大好きなんです。こんな景色の中で暮らしたかったです。」少し驚きました。六十年住んでいる私にとっては当たり前に見えていたこの景色が、人を感動させる魅力があったとは。でも私は「田舎やから近所付き合っても大変やし、煩わしいやろう」と聞くと、「それがいいんです。都会にいたら僕ら夫婦のことなんか誰も気付いてくれない、でもここやと皆が挨拶してくれる、子供が遊んでいるとかまってくれる、ここには人の輪があるんです。」とそう答えてくれました。私たちには当たり前であったことが、そんなに魅力があったのかと驚きました。先ほど窪議員も一般質問の中でおっしゃっていましたが、まさに私たちには見えていない魅力がこの五條市、そして大塔町にはあると思います。

大塔では、天辻の道の駅でのテゾカフェ、また大塔郷土館の運営など活発に取り組まれておりますが、私たちが気付かない、財産ともいべき民芸品・特産物・景観・暮らしのあらゆる部分での大塔の観光についていかがお考えかを尋ねいたします。

○議長（平岡清司） 泉谷大塔支所長。

○大塔支所長（泉谷進治） 五番吉田 正議員の御質問にお答え申し上げます。

大塔町の観光につきましては、これまで天辻道の駅周辺・夢乃湯周辺の観光施設を中心に組みましたが、紀伊半島大水害での被災した赤谷キャンプ場の復旧を始め、地域の皆さんと観光交流を視野に入れた、新たな観光イベント等も模索していきたいと考えております。

また、大塔町篠原におきましては、世界遺産の紀伊山地霊場と参詣道大峯奥駈道の入り口に当たり、紀伊半島大水害で崩壊した登山道の新たなルート整備などにも取り組んでいかなければならないと考えてます。

これら観光施策の取組につきましては、現在関係部署とともに現在の課題を整理し、新たな視点、仕組みによる観光事業の展開と収益向上を目指し、今後取り組んでまいりたいと考えております。

以上、答弁とさせていただきます。（「五番」の声あり）

○議長（平岡清司） 五番吉田 正議員。

○五番（吉田 正） 一部の廃校になった校舎の活用もお考えになっておられる方も聞いております。それらもうまく利用されて、大塔町の交流人口を増やし、観光開発につなげていき、大塔町のためにも大塔支所の今後の役割は大きいものがあると思います。

市長にお尋ねいたします。これからの五條市にとって大塔町の観光地としての利用価値は高いものがあると思うのですが、市長として大塔支所の今後の在り方、また観光開発についていかがお考えですか。

○議長（平岡清司） 太田市長。

○市長（太田好紀） 五番吉田 正議員の質問にお答え申し上げます。

大塔エリアにつきましては、大変重要な位置付けと考えております。それはやはり紀伊半島大水害以降、大変人口が減ったということもあります。いろいろな形の中で想いというのをやはり持ちながら、これから進めていかなければならないというふうに感じているところです。

観光の面に関しては、いろんな面の考え方があろうかと思えます。いろんな形の中で今、地域審議会やいろんな形の中での協議をしているところでありませけれども、一つひとつ、道の駅を始めとする、これは帝塚山大学との連携を取りながら、また今、小・中学校の間、悲しくも廃校になりました。このとき廃校式をする式典において、廃校式をするという位置付けよりも、これから新たな出発をするとい

うそういう目的を持ってやってもらおうという、そういう位置付けの中で、これからの新たな出発で進めていこうという、そういう取組で、今実際のところ小・中学校の跡地のことも検討に視野を入れてやっているとあります。

そして、今工事が進んでおる、赤谷のところにおいても大変もう復旧がどんどん進んでおります。今、河川工事もやつと下流側まで着々と進んでいる。それと並行して赤谷キャンプ場の位置付けを再度復興していこうと、新たにまたやっといこうという計画で今現在進んでいます。これは紀伊山系砂防事務所と連携を取りながらキャンプ場だけではなくて、あそこの深層崩壊のところも奈良県下、紀伊半島の中でも現地へ車で直接行けるというのは、赤谷のところだけではなく、そういう形の中ではそういうことを踏まえてキャンプ場と一つの位置付けを明確にしていこうという位置付けも考えております。これは観光というよりも、まずは観光も含めてですけれども、地域の皆さんがやはり喜んでもらえるような環境づくりもしていかなくてはならない、そういうふうに思っておりますので、是非とも連携を取りながら、より密にしながら、よりスピード感を持ってこれからも進めてまいりたいと、そういうふうと考えております。

以上です。（「五番」の声あり）

○議長（平岡清司）五番吉田 正議員。

○五番（吉田 正）ありがとうございます。緑豊かで清流の流れる大塔町の廃校利用も含めて、復旧・復興の更なる整備・促進をお願いいたします。

篠原町においては篠原小学校、旧ですね、旧篠原小学校を利用したいという方々も地元の方でおられるそうなので、そちらの方の話もお聞きいただきたいと思えます。

次の質問に移ります。

陸上自衛隊駐屯地誘致について。

一番、駐屯地誘致の現状と進捗についてをお尋ねいたします。

以前にも質問させていただいた陸上自衛隊駐屯地誘致についてでありますけれども、現在まで防衛省においては調査費が数年にわたって付いており、県においても消防学校の移設、防災拠点の整備が先行して行われる等の説明をいただいておりますが、現状と進捗についてをお伺いいたします。

○議長（平岡清司）山本危機管理監。

○危機管理監（山本修二）五番吉田 正議員の御質問にお答え申し上げます。

まず、陸上自衛隊駐屯地誘致の現状であります。平成三十年度政府予算案に昨年度と同様に自衛隊展開基盤に関わる予算二百万円が計上されており、平成二十六年から五箇年連続して予算が付くこととなります。

この予算は奈良県が整備を予定している広域防災拠点转自衛隊が災害時等に利用するための調査費であり、直ちに陸上自衛隊駐屯地設置のための予算ではありませんが、この調査費予算は、将来駐屯地の設置につながるという予算だと考えております。

現在は、将来の駐屯地誘致を促進するため県消防学校を含む県広域防災拠点設置に向け、候補地の優先順位一番でありますプレイアゴルフ地区の地籍調査を進めているところであります。

以上、答弁とさせていただきます。（「五番」の声あり）

○議長（平岡清司）五番吉田 正議員。

○五番（吉田 正）ということは、まずは県の広域防災拠点と消防学校をつくって、駐屯地が来やすい環境を整えるということに取らせてもらってよろしいですか。

○議長（平岡清司）山本危機管理監。

○危機管理監（山本修二）五番吉田 正議員の御質問にお答え申し上げます。

議員お述べのとおりでございます。

以上、答弁とさせていただきます。（「五番」の声あり）

○議長（平岡清司）五番吉田 正議員。

○五番（吉田 正）それでは次に、駐屯地誘致の今後の取組についてをお尋ねいたします。

私も一昨年でしたか、防衛省へ当時の辰己統括官、湯浅陸幕副長に要望活動で伺っているのですけれども、その折に自衛隊の本分は国防ですと、防衛省としては、今現在尖閣・南薩等問題で離島防衛をされており、本土においての駐屯地移設・新設までは手が回らないといったようなことをお聞きいたしました。約二十年前ぐらいには中規模の中で近畿を管轄する第三師団隷下の部隊も再編成され、部隊数もこの近畿圏内においては減っております。その中の誘致活動というものは大変厳しいものがあると思うのですけれども、本市としても根強く要望活動を進めていかなければならないと考えております。今後の取組についてお尋ねいたします。

○議長（平岡清司） 山本危機管理監。

○危機管理監（山本修二） 五番吉田 正議員の御質問にお答え申し上げます。

防衛省は南西諸島方面の防衛力整備のため、二年前に与那国島に駐屯地を開設し、今後石垣島・宮古島・奄美大島に駐屯地を開設する予定であります。

議員お述べのとおり、駐屯地の誘致実現には相当の期日を要するものと認識しております。

鹿児島県の薩摩川内市は、県内に陸上自衛隊駐屯地が所在している中、市内を流れる河川氾濫に備えるべく、二十数年にわたる要望活動の末、昭和六十年に駐屯地誘致に成功しております。

本市といたしましても、引き続き、県と市、並びに奈良県南部陸上自衛隊駐屯地誘致推進協議会による政府要望を継続するとともに、当面は、陸上自衛隊駐屯地が来やすい環境を整えるべく、県の消防学校を含む広域防災拠点誘致に向け、県と連携して、業務を進めてまいりたいと考えております。

以上、答弁とさせていただきます。（「五番」の声あり）

○議長（平岡清司） 五番吉田 正議員。

○五番（吉田 正） 現在まで本市においては、市長を中心に活動をいただいております。市長が積極的に駐屯地誘致に取り組んでおられるのは、承知のところでございます。

例えば今せっかく元自衛官の方々が本市において勤務していただいております。この方たちを中心に自衛隊誘致を担当する部局の設置は考えておられないのか。また陸上自衛隊駐屯地誘致の署名活動は考えておられないのか。来年度は防衛計画大綱や中規模の計画中ということで大変な年と聞かされております。市長として今後の誘致活動にどのように取り組まれるのかをお伺いいたします。

○議長（平岡清司） 太田市長。

○市長（太田好紀） 五番吉田 正議員の質問にお答え申し上げます。

まず今後の誘致活動の概要としましては、先ほど担当部長の方から説明があったとおりであります。

自衛隊誘致担当部局の設置ということであり、平成二十九年度から危機管理課内に自衛隊誘致係を新設いたしました。また、退職自衛官を採用し、その知識とネットワークを活用して、自衛隊部局とのスムーズな連絡調整や誘致活動を担っていただいております。

いろいろな形の中で、今後におきましては、県の消防学校を含む広域防災拠点設置が一番重要だと考えています。

先ほど担当部署からお話があったように、今南西諸島の方に力を注いでいると、防衛省においては、与那国島に駐屯地ができ、これから宮古・石垣島に駐屯地が続くと、これが終わらなければ次のステップに行かれない、特に今年度は大事だと言われております。というのは中期防衛計画がその中でどのような形の中で入れ込んでいただくかということが今重要な位置付けというふうに考えております。現在は県の防災の拠点をいかに早く進めるかということが一つの課題であり、更なる努力して一刻も早く五條ではなく、県との連携を取りながら県の防災の拠点をスムーズにすべく、これからも鋭意努力をまいりたいというふうに考えております。

以上です。（「五番」の声あり）

○議長（平岡清司）五番吉田 正議員。

○五番（吉田 正）署名活動についてのお考えをお尋ねします。

○議長（平岡清司）太田市長。

○市長（太田好紀）署名活動のことですけれども、何回もできることではございませんので、防衛省の南西諸島への駐屯地設置状況等、総合的に判断して、これからも考えてまいりたいというふうに考えております。

以上です。（「五番」の声あり）

○議長（平岡清司）五番吉田 正議員。

○五番（吉田 正）自衛隊誘致は五條市や県南部・紀伊半島全域の防災、災害対策にとって大きな役割を担っていくものではありますが、それ以外に五條市の発展に大きく役立つものと考えます。

将来どのような規模の駐屯地が誘致されるのか分かりませんが、駐屯地ができれば大勢の若者がこの五條にやってきて生活をしてくれます。消費をしてくれます。まさに本市の人口減少化問題の大きな解決策となると考えます。また地元出身の退職現職自衛官にとっても大きな心のよりどころとなります。自衛隊についてはいろんな御意見があるとは思いますが、先の東日本大震災において一つのある部隊が驚くほどの被災者を助けた事例があると聞いております。それがなぜでき得たのか、それはそこに自衛隊が駐屯していたからであります。このことを最後に申し上げ、駐屯地誘致に關しまして更なる御尽力を市長を中心をお願いいたしまして、次の質問に移ります。

市民の健康を守る施策について。

健康寿命への取組について。

健康で長生きしたい、これは誰もが願っていることで全ての人にとって幸せの源と言えます。五條市におきましても、高齢化が進む中、ただ長生きだけの寿命ではなく、健康であって生き生きと住み慣れたこのところで暮らせることが健康寿命を伸ばすことになると思います。そこで五條市として健康寿命を伸ばすべく取り組んでいることがあればお聞かせいただきたい。

○議長（平岡清司）竹本すこやか市民部長。

○すこやか市民部長（竹本勝治）五番吉田 正議員の御質問にお答え申し上げます。

議員お述べのように、高齢者が生きがいを持って暮らすためには、心と身体が共に健康であることが非常に大切であります。単に寿命が長だけでなく、寝たきりや要介護の状況を予防し、「健康寿命」の延伸を図ることが重要であります。そのためには、正しい生活習慣を身に付け、積極的に健康管理・体力づくりに取り組むなど、将来にわたる健康づくりを自ら心掛けることが大切であると思います。しかしながら、若者や健康に不安のない方の中には、健康づくりに関心の薄い方もおられるのではないかと思います。「自分の健康は自分が守る」という自ら取り組むべき課題であると考えております。

本市におきましては、一人ひとりの健康を守るべく、がん対策を含めた健康診査や健康教育、健康相談、予防指導、また歯科口腔保健指導など、保健福祉センターを中心に地域包括支援センターと連携しながら、定期的に地域で健康や介護予防に関する講演会、相談指導の活動を行っているところでございます。

今後におきましても、広報やホームページなどを利用しながら、市民の健康づくりに取り組んでまいりたいと思っております。

以上、答弁とさせていただきます。（「五番」の声あり）

○議長（平岡清司）五番吉田 正議員。

○五番（吉田 正）市民の健康を守る様々な取組を行っていただいておりますけれども、一人でも多くの市民が「自分の健康は自分で守る」このことをキーワードとして、早期発見、早期治療につながっていくためにも健康の必要性を周知させ、検診を習慣付けるよう今後お願いしたいと思います。

これまで生活習慣病の発生や重症化の予防として特定健診にも力を入れていただいておりますが、受診状況などにおいては県の平均より低いと聞いております。健康の生活を維持するためにも特定健診を受ける必要があると思っておりますが、現在取り組んでおられることがあればお聞

かせいたいただきたいと思ひます。

○議長（平岡清司） 竹本すこやか市民部長。

○すこやか市民部長（竹本勝治） 五番吉田 正議員の御質問にお答え申し上げます。

議員お述べのように、平成二十八年、県の平均が三一・三パーセントに対し、五條市では二二・七パーセントと、平均より低い状況であります。これまで受診率向上に向けた取組といたしまして、毎年対象者に受診勧奨通知、電話勧奨を行い、特定健診日を休日に設けたり、また保健福祉センターが実施しているがん検診などの集団検診と同時に特定健診を実施しております。それに加え本年度は未受診者対策勧奨事業として、これまでの電話勧奨と同時に節目年齢の対象者の自己負担無料化の実施、年代別の受診者に応じたアドバイスの案内や健診日を新たに増やすなど、受診者の利便性も考慮しながら受診率の向上につながるよう努めており、本年度の集計結果はまだ出ておりませんが、約二五パーセントを超える見込みと思われております。

今後は生活習慣病予防の必要性を認識願ひ、一人でも多く受診いただけますようこれまでの事業を再度検証し、医療機関との連携や事業内容も工夫しながら、受診率向上につなげたいと考えているところでございます。

そして四月一日、広報ですけれども、がんの検診、母親教室、そしてまた新たに集団検診、子供の予防接種など、健康づくりカレンダーという事で三十年度版保存版でお知らせする予定としております。

以上、答弁とさせていただきます。（「五番」の声あり）

○議長（平岡清司） 五番吉田 正議員。

○五番（吉田 正） 市民の健康を守ることは大変重要なことであり、いつまでも健康で生き生きと住み続けられることができるまちづくりにもつながっていくと思ひます。

そこで市長にお尋ねしますが、二〇二五年、七年後ですか、団塊の世代が七十五歳以上になると報道されております。二〇二五年を見据えた、中長期的な取組も必要になるのではないかと考えますが、市長に今後の高齢化などを見据えた中で、市民の健康への取組についてお考えをお聞きしたいと思います。

○議長（平岡清司） 太田市長。

○市長（太田好紀） 五番吉田 正議員の質問にお答え申し上げます。

健康寿命を延ばすことは大変重要であろうと考えています。このため健康増進事業への取組としては、先ほど部長から申し上げたように、生活習慣病の予防やがん対策、食育の必要性なども十分市民の皆さんに御理解いただくとともに、要介護状態にならないための介護予防の取組が、今後高齢社会を迎えるにしても、市民全体の生活の向上や医療費・介護保険の適正化にもつながるところであります。

このことから健康のための意識づくりとして、平成三十年度において、市民一人ひとりの健康寿命の延伸をするため、運動習慣と食生活の実践を促進するというところで、(仮称)健康と福祉のフェスティバルを市民参加型で開催する予定をしているところであります。

やはり意識を高めるといことが大変大事であろうかなというふうに思っていますので、二〇二五年、七年後ですけれども、やはり高齢化社会がどんどん増えていく中において、今やるべきこと、また今後どうしてやっていくことが望ましいのかということを毎年検証しながら、そして市民の皆さん、特に高齢者の皆さんが住み良い環境づくりのために、一つひとつ地域包括ケアと連携をしながら今後進めてまいりたい、そういうふうと考えております。

以上です。(「五番」の声あり)

○議長(平岡清司) 五番吉田 正議員。

○五番(吉田 正) 二〇二五年には超高齢化社会がやってくるということ、今後市民の健康を守るためにもそれらのことを含めた対応をよろしくお願い申し上げます。

以上で私の一般質問を終わりたいと思うのですが、ただいま御答弁いただきました山本危機管理監、竹本すこやか市民部長、泉谷大塔支所長には、今月末をもって定年御退職とお聞きしております。長い間、本当に御苦勞様でございました。また六十歳も過ぎこれから第二の人生、素晴らしい人生になりますことを御祈念申し上げます、私の一般質問を終わりたいと思います。

ありがとうございます。

○議長(平岡清司) 以上で五番吉田 正議員の質問を終わります。

次に、四番牧野雅一議員の質問を許します。四番牧野雅一議員。

〔四番 牧野雅一 質問席へ〕

○四番(牧野雅一) 議長からの発言の許可をいただきましたので、四番牧野雅一の一般質問を通告に従い始めさせていただきます。まず一つ目、大塔地域についてでございます。

(二) 振興に向けた進捗と展望について。

まず、大塔町の振興の進捗についてでございます。

改めまして、平成二十三年九月、紀伊半島大水害によって被災された皆様にお見舞い申し上げますとともに、尊い生命を失われた方々の御冥福と、なお安否確認ができていない三名の方々の一日も早い発見をお祈りするものでございます。

被災から六年七箇月の月日が流れており、大塔地域の将来の展望を私の各定例会一般質問で毎回お尋ねしているところでございます。

九月定例会に「地域振興」で答弁いただいた「大塔町の復興状況」・「誘客促進の仕掛けづくり」・「老朽化施設等の整備」・「公共施設の有効活用」などについて現在の取組、進捗状況についてお尋ねいたします。

○議長（平岡清司） 泉谷大塔支所長。

○大塔支所長（泉谷進治） 四番牧野議員の御質問にお答え申し上げます。

平成二十三年九月に大塔地区が甚大な被害を受けました紀伊半島大水害からはや六年七箇月が経過いたしました。

現在も引き続き国土交通省、林野庁、奈良県が一丸となって復旧作業に取り組んでいただいております、復興が順次進んでいるところであります。

次に、「老朽化施設の整備」の道の駅トイレ改修につきましては、部分的な補修及び内壁を中心とした清掃等を行なったところですが、平成三十年度において改修工事を行う計画となっております。

また、道の駅におきましては、LINEなどで季節の出来事やイベント等の情報を投稿し認知度を高めてまいっているところでもあります。

ふれあい交流館におきましては、一般財団法人大塔ふる里センターの職員減少により、レストラン・売店部門を一時休業し、適正な人事配置による経費削減に努めており、今後については関係部署とともにレストランブースの活用について協議を進めてまいります。

以上、答弁とさせていただきます。（「四番」の声あり）

○議長（平岡清司） 四番牧野雅一議員。

○四番（牧野雅一） 今の答弁でレストランの方の職員さんの数が減って今閉めたままだと、今後あのレストラン、今現在は紀伊半島、大塔町を抜けて太平洋側まで抜ける一つの道の駅という場所になっておいて、立ち寄る方もたくさんおられると思いますので、いろんな経費の削減とかそんなことあるかと思えますけれども、極力あの場所を拠点にできるような方向性でまた検討していただけたらと思います。

次に、展望についてでございます。

復興が進んできている中、地域の今後に向けた展望についてお尋ねいたします。

○議長（平岡清司） 泉谷大塔支所長。

○大塔支所長（泉谷進治） 四番牧野議員の御質問にお答え申し上げます。

廃校となりました大塔小・中学校の「公共施設の有効活用」につきましては、高齢者及び障害者福祉的施設として、方向性を見いだすことができましたので、先般、大塔町住民に趣旨説明並びに懇談会を行い御理解をいただいたところでありますが、今後の大塔町を見据え、地域の公共施設について利活用を地域住民の声を聴きながら、憩いの場となるよう施設整備に取り組み、大塔町に活力を取り戻すとともに交流人口の増加が見込まれるような仕掛けが必要であると考えます。

最後に、復興・振興につきましては、地域産業の振興を進め、今後も地域住民・関係機関とともに協議・検討を重ねながら、住民の皆様が安心して生活できるような職員が一丸となって、全力で地域の復興・振興に取り組んでまいりたいと考えております。

以上、答弁とさせていただきます。（「四番」の声あり）

○議長（平岡清司） 四番牧野雅一議員。

○四番（牧野雅一） 今答弁にあったように、今後においても地域住民の方々の声を聴きながら各事業計画の推進を図るとともに十二月議会でもお尋ねしました林業、これも含めた地域産業の施設の整備を目指し、今後も大塔町に活力を取り戻すような仕掛けづくりを模索・研究し、取り組まれますことをお願いいたします。

今、答弁いただいた泉谷大塔支所長におかれましては、幼少のころ大塔町で生まれ過ごされ、市職員として三十数年勤務され、直近の三年は生まれ故郷である大塔支所長として大塔町の復旧・復興・振興に御尽力いただいたことに感謝申し上げますとともに、今後においても違った立場から変わらぬ思いを持って五條市を見守っていただけますようお願いしまして、次の質問に移ります。

二つ目、五條市の医療体制についてでございます。

（一）五條病院開院後の医療体制についてお伺いいたします。

これまで、市民の皆様のための地域医療として、安心していただくために五條病院のリニューアルに、幾度となく医療体制についてお尋ねさせていただきました。

そのかいあって、昨年四月に五條病院が内科と整形外科の診療科目と回復期の入院ができる病院としてリニューアルオープンし、市民の医療が充実してきたのでは思っております。

また、平成二十八年四月には、「南和の医療は南和で守る」を基本理念に南奈良総合医療センターが開院し、昨年からはドクターヘリの運用も開始され、南和地域の救急医療の体制がますます強化されてきておるように思われます。しかし、開院したにもかかわらず、そのことを知らなかったという方もいるということをよく耳にします。

そこで市民の皆様への周知などは、どのように行っているのか、答弁いただけますか。

○議長（平岡清司） 竹本すこやか市民部長。

○すこやか市民部長（竹本勝治） 四番牧野議員の御質問にお答え申し上げます。

五條病院のリニューアルオープンに関する市民への周知といたしましては、広報五條に掲載、また南和広域医療企業団が発行しております「はびねすだより」におきまして掲載されております。さらには改修期間中、仮設診療所を受診された方へ口頭やポスターなどの掲示によりお知らせを行っております。

今後も引き続き、南和広域医療企業団とも連携しながら「はびねすだより」及び広報五條へ定期的に掲載しながら市民の皆様にお知らせを行いたいと思っております。

以上、答弁とさせていただきます。（「四番」の声あり）

○議長（平岡清司） 四番牧野雅一議員。

○四番（牧野雅一） その周知の仕方については過去のご概念にとらわれることなく、いろいろな様々な手法をどんどんどんどん新しい、例えばSNSであるとか今五條市で開局していただいておりますFM五條であるとか、いろんな周知方法というのがあると思うのです。広い視野を持って周知に努めていただけたらと思います。

市民の皆様にとりまして、症状によっては遠くなった福神の病院まで行かずとも受診できる体制が整っている身近にある五條病院をお知らせいただくことが、特に御高齢の方や長年五條病院に親しまれた方々に安心を提供できるのではないですか。

そこで、現在の五條病院は内科と整形外科が診療科目となっておりますが、今後診療科目の見直しや受診者数の増加を目指した機能を充実させた取組等を予定されていることがあれば答弁いただけますか。

○議長（平岡清司） 竹本すこやか市民部長。

○すこやか市民部長（竹本勝治） 四番牧野議員の御質問にお答え申し上げます。

診療科目の見直しにつきましては、現在のところ予定はされておりませんが、南和広域医療企業団としては、南奈良総合医療センターとの連携による五條病院の機能の充実を図り、患者数の増加対策を行っております。

一つ目といたしまして、内科と併せた受診も可能な体制として、整形外科の外来診療の診察日を二日から三日に、本年一月から一日増やしていただき、医師の派遣体制も見直しております。外来診療だけでなく入院患者も併せて受診できる体制づくりを今検討していただいております。

二つ目といたしまして、急性期一般病棟での治療後も引き続き病院での治療が必要となる患者につきましては、療養病棟として五條病院の四階に二十床を平成三十年四月から運用の開始を予定しております。

さらに、時期は未定でございますが、在宅復帰に向けた準備を整えるための病棟として、地域包括ケア病棟を三階に十四床を整備する予定をして充実に向け取り組んでいただいております。

以上、答弁とさせていただきます。（「四番」の声あり）

○議長（平岡清司） 四番牧野雅一議員。

○四番（牧野雅一） 長年あった五條病院がなくなって、一時は市民の皆さんもこの先どうなるのかなど不安な思いもあったと思うんですけども、こうして市民の皆さんが安心できる医療機関の充実を今後とも努めていただきますようお願いしまして、二つ目の質問に移ります。

次、（二）五條市応急診療所の運営についてでございます。

五條病院の開院と同時に、病院内に応急診療所が移転開院し、土・日・祝日、年末年始の一般に医療機関が休診されているときに、市民の急病者などに、応急的に診療や処置を行っていただいております。市民にとりましては、安心して生活できる医療体制がますます充実してきたのではないかと思います。

そこで、休日に診察いただける応急診療所について、現在どのように運営されているのかお尋ねいたします。

○議長（平岡清司） 竹本すこやか市民部長。

○すこやか市民部長（竹本勝治） 四番牧野議員の御質問にお答え申し上げます。

まず、診療業務といたしましては、五條市地区医師会様に委託させていただき、在宅当番医を決めた中で、内科と小児科の応急を要する軽易な診療を土・日、祝祭日及び年末十二月二十九日から年始一月三日までの休日の午後六時から午後十時までの時間で診療を行っております。診療を受けられる方の中には、緊急を要する場合などもございますので、二次救急医療機関である南奈良総合医療センターなどへの紹介等もお願いしているところでございます。

市民の皆様には、在宅当番医のお知らせを毎月広報五條やホームページなどで掲載して御案内を行っております。以上、答弁とさせていただきます。（「四番」の声あり）

○議長（平岡清司）四番牧野雅一議員。

○四番（牧野雅一）今の答弁に引き続いて、今の言っている応急診療所へは市外の患者も受診されていると聞いております。診療所の利用状況について、できれば年齢別、疾患者別とに分けて答弁いただけますか。

○議長（平岡清司）竹本すこやか市民部長。

○すこやか市民部長（竹本勝治）四番牧野議員の御質問にお答え申し上げます。

平成二十八年度の利用状況は、診療日数百二十二日で、一千百十一名の受診者がありました。年齢別では、十五歳以下の子供は六百三十六名。十六歳から六十四歳の成人は三百九十名。六十五歳以上の高齢者は八十五名となっております。

そのうち、三百二十九名の患者が市外・県外から受診されており、全体の約二九・六パーセントの受診率というふうになってございます。疾患別患者数では、内科が四百三十三名、小児科が六百三十六名、外科が十名、その他が三十二名となっております。

今年度は、本年二月末現在となりますが、診療日数百五日で、八百五十名の受診者となっております。そのうち二百二十九名の患者が、市外・県外から受診となっております。全体の約二七・パーセントが市外・県外から受診者となっております。

疾患別患者数では、内科三百六十九名、小児科四百五十五名、外科十名、その他十六名となっております。

市民のみならず近隣住民にとつても、休日夜間の診療が確保される在宅当番医制度、応急診療所が身近にあることは、安心して暮らし続けるためには欠かせないものと思っております。

以上、答弁とさせていただきます。（「四番」の声あり）

○議長（平岡清司）四番牧野雅一議員。

○四番（牧野雅一）今の答弁では、市内外からも多くの急病患者を受入れ、診療していただいておりますということですね。

応急診療所は市民並びに近隣住民にとって非常に大きな大切な医療機関であると考えます。

また、今の答弁で患者者別であるとか、年齢別であるとか、今さつと聞いた限りでは子供さん、小児科の利用状況が群を抜いて多いように思われますね。やっぱり子供を抱える親は小さな子供が熱を出したりとか、風邪を引いたりとかしたら親は子供を連れて病院に行きます。子供はどこが痛い、ここが痛い、大人じゃないから言えない子供もいます。そういう人たちの心の支えになるような、今まで以上に充実した運営をお願いしたいと思います。

この質問は終わらせていただきますが、竹本すこやか市民部長におかれましては、長年五條市に勤務いただき、市政に貢献されましたこと、そして私たち二期目の議員が一期目の不慣れた時期に議会事務局長として御苦勞をお掛けしたこと、つい昨日のことのように思い出され、今もなお「局長」と呼んでしまいます。本当に感謝申し上げます。今後においても、変わらずこのまちを愛し、見守っていただけますようお願いしまして、次に移ります。

三つ目です。ハザードマップについてです。作成状況についてお尋ねしたいと思います。

平成二十八年九月定例会の私の一般質問において、水防法の改正により、紀の川における想定し得る最大規模の降雨を前提とした浸水想定区域が公表されたことに伴い、ハザードマップを作成し市民へ周知していくとの答弁をいただいておりますが、その作成状況について、答弁願います。

○議長（平岡清司）山本危機管理監。

○危機管理監（山本修二）四番牧野議員の御質問にお答え申し上げます。

平成二十八年六月に吉野川における国土交通省管轄区域の浸水想定区域が見直され公表されたことに伴い、平成二十九年度予算におきまして、公表された区域のハザードマップの作成を行っており、今月下旬を目途に市民の皆様へ配布するとともに、市のホームページへの掲載を予定しております。

また、浸水想定区域内にある地区公民館等の公共施設にも拡大してより見やすくしたハザードマップの掲示を行い、地域住民の皆様には災害時の避難場所等に係る情報を分かりやすく提供してまいりたいと考えております。

以上、答弁とさせていただきます。（「四番」の声あり）

○議長（平岡清司） 四番牧野雅一議員。

○四番（牧野雅一） 五條市はね、自然災害と言えば、過去さかのぼって水害、大きな水害というのは一番大きな被災を受けておるのではないかなど。昨今の異常気象によって土砂災害というのも増えてきておると思いますけれども、やっぱり大きな川が流れているまちなんでね、水害、冠水害、これには十分に防災対策として今後取り組む必要があると思うのです。

昨年台風二十一号による紀の川の水位に関しては、上野公園周辺を始め市内の数箇所でも冠水被害があったことは、皆さん記憶に新しいと思います。

このようなことからハザードマップは、河川流域にお住いの市民の皆様にとって、河川の増水時には重要なものと考えます。五條市を流れる紀の川について、国土交通省管轄区域と奈良県管轄区域があると思われませんが、県管轄区域のハザードマップの作成はされていないのですか。答弁いただけますか。

○議長（平岡清司） 山本危機管理監。

○危機管理監（山本修二） 四番牧野議員の御質問にお答え申し上げます。

奈良県が管轄しております吉野川の榮山寺橋付近から上流部分の浸水想定区域の更新につきましては、平成三十年度中に公表を予定していると聞いております。

そのため本市といたしましては、奈良県から新しい浸水想定区域が公表された時点で、変更された部分のハザードマップの作成を行い、市民の皆様方へ配布するとともに、市のホームページへ掲載を行い、周知をしております。

以上、答弁とさせていただきます。（「四番」の声あり）

○議長（平岡清司） 四番牧野雅一議員。

○四番（牧野雅一） 先ほども申しましたけれども、河川流域付近にお住いの市民の皆様様の安心安全のためにも、昨今の異常気象により、想定外の水害も想定していかなければならないと考えます。県とも連携して迅速な対応をお願いしたいと思います。

そして、山本危機管理監におかれましては、西吉野村時代、合併後も含め三十七年もの長きにわたり御苦労も多岐にわたる中、様々な職務を誠実に取り組んでこられた経験をもとに、今後も今までと違った観点から、後進の私たちを見守っていただけますようお願いしまして、次の質問に移ります。

四つ目です。

五條市立奈良県立五條高等学校賀名生分校寄宿舎の運用見通しについてお尋ねしたいと思います。

(一) 入寮者の見通しについてでございます。

五條高校賀名生分校は、今春より入学者を全国から募り、農業科の四年制昼間定時制で、地元農家の指導による実習に比重を置き、三年時から実際に農場などで働く就労活動も導入。地域で農業従事者の高齢化や減少が進む中、新たな担い手の育成を目的とし、市教委は農業科の教育内容を実践重視に充実させた上で、全国から人材を募ることとし、旧五條病院看護師寮を活用し、バストイレ付き個室三十三室の寄宿舎を用意されたことですが、寄宿舎の入寮予定者の見通しについてお尋ねいたします。

○議長（平岡清司） 松井教育部長。

○教育部長（松井和永） 四番牧野議員の御質問にお答えを申し上げます。

賀名生分校寄宿舎は、旧五條病院看護師寮を改修した、ワンルームタイプの部屋で三十三室ございます。

三月十日に特色選抜生への入学説明会を行いますので、県内生の入寮希望者も定まります。今後さらに一般選抜と二次募集を行われることから最終的には二十名を超えることが予想されます。

入寮予定者には、平成三十年度は個室利用での案内を行っているところでございますが、来年度以降は二人部屋になることについても説明するよう準備を進めております。

以上、答弁とさせていただきます。（「四番」の声あり）

○議長（平岡清司） 四番牧野雅一議員。

○四番（牧野雅一） 今の答弁だったら、初年度で二十名を超える。居室が三十三室、これ四学年あったら全然足りませんよね。ある意味新たな試みがこれだけ注目を浴びるといことはうれしい悲鳴なのかなと思います。この新たな試みの先行きは明るいのかなと思われませんが、入寮予定者はどのような生徒さんが入寮されるのか、答弁いただけますか。

○議長（平岡清司） 松井教育部長。

○教育部長（松井和永） 四番牧野議員の御質問にお答えを申し上げます。

特色選抜により二十四名が合格をいたしました。

県外生は十六名、このうち男子は十二名で、女子は四名でございます。県内生八名で、このうち男子は四名、女子は四名でございます。入寮が考えられる県外生は十六名でございます。出身中学は府県別で、大阪府から男子六名、兵庫県から男子三名、女子二名の計五名、滋賀県から女子一名、和歌山県から男子三名、三重県から女子一名となっております。

以上、答弁とさせていただきます。（「四番」の声あり）

○議長（平岡清司） 四番牧野雅一議員。

○四番（牧野雅一） 生徒数と個室の数に関しては、また今後いろんな工夫が必要と思われるので、また改めてお尋ねしたいと思います。

今の答弁で、様々な方面から多くの生徒さんたちが、この五條市の住人となり農業を中心に勉学に励まれることとなりますが、今答弁にあった全ての生徒は現在、各中学に在籍し、この春卒業され、四月から賀名生分校に入学され入寮されるということで、そういうふうな解釈させてもらってよろしいですか。

○議長（平岡清司） 松井教育部長。

○教育部長（松井和永） 四番牧野議員の御質問に対するお答えですけれども、この場ではお控えをさせていただきたいと思えます。

以上、答弁とさせていただきます。（「四番」の声あり）

○議長（平岡清司） 四番牧野雅一議員。

○四番（牧野雅一） ちょっと今何を言いはったかよく分からなかったんですけれども、答えられないということですか。今質問に対しては答えられないということですね。はい。

何がしかの事情があるうと思えますので、また改めてお尋ねしたいと思えます。

今大半の中学を卒業したばかりの未成年者であると思われれます。入寮される方はね、未成年の生徒さんを親御さんの元から、この五條市でお預かりし、立派な農業従事者として育むわけですが、その未成年の生徒さんが今後四年間この五條市で生活されます、特にこの寄宿舍の安全管理についてお尋ねいたします。

○議長（平岡清司） 松井教育部長。

○教育部長（松井和永） 四番牧野議員の御質問にお答えを申し上げます。

寄宿舍整備において門扉や防犯カメラを設置するほか、二十四時間体制での舎監の常駐や屋内の防犯カメラの設置により外部からの侵入者

には備えておるところでございます。

以上、答弁とさせていただきます。（「四番」の声あり）

○議長（平岡清司） 四番牧野雅一議員。

○四番（牧野雅一） 想定できる範囲の防犯対策、こういうのは施してあげるべきやと思うのですよ。全国から親元を離れて入寮して五條市に来られるといっても、まだまだ中学校を卒業してすぐの子ですわ。ほんまにまだまだ子供さんやと思うんですよ。だからそういう人を五條市で預かるというぐらいの気持ちを持っていろんな形で受入れをする必要があるのかなと思います。

また、寄宿舎の周辺には野原の小・中学校があります。他所から入寮されます寮生と地元の児童とはそんなに年齢差はないと思うのですよ。この未成年者同士のトラブルや犯罪に対しての防止策などは、何か配慮されておるのか、あれば答弁いただけますか。

○議長（平岡清司） 松井教育部長。

○教育部長（松井和永） 四番牧野議員の御質問にお答えを申し上げます。

生徒並びに入寮生への防犯の取組でございますが、学校と寄宿舎の連携による生徒指導であるとか、生徒指導上の情報共有を密にすること、生徒一人ひとりへの十分な配慮を实践する考えであります。

また、賀名生分校魅力化事業では実習を校内で行うだけでなく、市内の農家の協力を得まして進めたいと考えております。この農家実習では、農業技術の習得だけに限らず社会常識や人としての生き方・在り方についても学ばせ、生徒全員の健全育成にも役立ててまいりたいと考えておるところでございます。

以上、答弁とさせていただきます。（「四番」の声あり）

○議長（平岡清司） 四番牧野雅一議員。

○四番（牧野雅一） 改めて申し上げますが、この新たな試みは当市の農業従事者の高齢化や減少が進む中、新たな担い手の育成を目的とされているということで、よろしいですね。

その本分を見失うことなく、取組を見守らせていただきたいと思います。

次に移ります。

五つ目の財政運営について。去る二月二十三日、理事者側より、新年度予算の概要について説明があったところでありますが、今後の審議

に当たって、予算編成、市基金の在り方、さらに公債費についてお伺いしてまいりたいと思います。

その（一）市の予算編成についてでございます。

今議会に提出されております施政方針の冒頭、市の行政財政を取り巻く現状について触れられておりますが、その内容は、地方交付税の減少等により一段と厳しさが増す中、限られた財源の中で、少子・高齢化対策、雇用促進、産業、観光振興などの取組を推進していくとともに、新年度は、今後の五條市を見据える上で、「大変重要な年」とされております。

あえて申し上げるまでもございませんが、予算は行政活動の根源であります。理事者側が「大変重要な年」と位置付ける平成三十年度予算については、どのような方針でその編成に当たったのか、また、編成方法などについて、前年度から見直しが図られた点があれば答弁願います。

○議長（平岡清司）和田総務部長。

○総務部長（和田剛明）四番牧野議員の御質問にお答え申し上げます。

平成三十年度の予算編成につきましては、昨年九月に編成方針及び編成要領を作成いたしましたして、全庁的な周知を図ったところでございまして、「事務事業の見直しによる歳出予算の抑制」、「効率的な事業構築」、「補助金など特定財源の積極的な確保」などを編成の柱といたしております。

次に、見直しを図った点でございますが、新たに事業別予算方式を取り入れ、個々の事業概要などの「見える化」を図るとともに、要求額の根拠が実績のみである場合や、年度により変動するものについては、原則として、過去五年間の決算額をもとに算出し、予算・決算の乖離を抑制する改善を図ったところでございます。

以上でございます。（「四番」の声あり）

○議長（平岡清司）四番牧野雅一議員。

○四番（牧野雅一）従来とちよつと違うような編成の仕方をされておるといふことで、この場で細かいことを聞くのはあれなんで、また改めてお尋ねしたいと思います。

次にお伺いしますが、この予算が議決された後、市民の皆さんへの周知方法については、現在、どのような状況になっているのか、答弁願えますか。

○議長（平岡清司）和田総務部長。

○総務部長（和田剛明）四番牧野議員の御質問にお答え申し上げます。

予算の公表につきましては、財政課におきまして、随時、予算書の閲覧を行うとともに、毎年、市のホームページ及び広報五條におきまして、予算の概要を公表いたしております。

以上でございます。（「四番」の声あり）

○議長（平岡清司）四番牧野雅一議員。

○四番（牧野雅一）周知の方法には、予算ってかなり中身があることなんで、簡単にお知らせするというのも難しいかと思うのですけれども、より多くの市民の人に御理解いただくためには周知の方法も今後考えていただけたらと思います。

よく「五條市の借金って幾らあるの」、「五條市の財政、本当に大丈夫」といった市民の皆さんの声もよく耳にします。「市民と協働したまちづくり」、これは大切なことであり、市政の基本だと考えます。

本来の意味で、このことを実践していくためには、やはり市民の皆さんにしっかりと市の予算を説明し、経費の節減や補助金の獲得に努力しているといった市の姿勢を正しく理解していただくことが重要と考えます。

特に、財政状況が非常に厳しい中、より一層こうした取組が大事ではないかと考えます。

予算書をそのまま市民の皆さんに閲覧してもらおうとか、予算書から、ただ数字だけを抜き出して表にしたり、グラフにしたりして広報するだけでは、広く理解を得るにはなかなか難しいと考えます。

先日、予算概要説明の中、市税の前年度との比較の部分で、新年度予算については、過去五年の決算額の平均をもって積算したという部長の説明があったと思います。このことにしても、改めてお尋ねしないと予算書を見るだけでは、財政状況が非常に厳しい中、予算額が十一億四千万円も増えた原因や市債が七億三千六十万も増えた要因が分からない。我々議員は、議会や委員会の場でそれをお尋ねする機会はありませんが、市民の皆様にとっては、それはなかなか難しいですし、原因・要因が分かったところで、市民の皆様のささやかな要望も「財政が厳しく予算がない」と、御不自由を強いる傍ら大きな予算が必要な事業は目白押し、これではなかなか市民の皆様の御理解は得がたいのではと思われまます。

やはり行政側から丁寧な説明、より分かりやすい広報が必要だと思います。こうした広報の方法なども含めて、今後、予算編成事務に改善す

べき点があれば答弁願えますか。

○議長（平岡清司） 和田総務部長。

○総務部長（和田剛明） 四番牧野議員の御質問にお答え申し上げます。

ただいまお述べいただきましたように、予算の内容を市民の皆さんにしっかりとお伝えいたしましたして、御理解をいただく中で、市政の推進に御協力をいただくと、これは大変重要なことと認識をいたしております。予算や決算の広報につきましても、分かりやすい内容の工夫がより必要と判断をいたしております。

特に、主な取組につきましては、親しみやすい表記にするなどの改善を図るとともに、予算編成につきましても、他市の事例を参考にいたしまして、更に検証を図ってまいりたい、このように考えております。

以上でございます。（「四番」の声あり）

○議長（平岡清司） 四番牧野雅一議員。

○四番（牧野雅一） 冒頭にも申し上げましたように、予算は行政活動の根源であります。この行政は誰のものでもなく、市民の皆様のためにあります。その重要性をよく認識していただき、予算編成や市民の皆さんへの広報などについての検証・改善について、今後とも更なる努力をお願いし、次の質問に移ります。

（二）の市基金の在り方についてであります。

国債に大きく依存する厳しい国の財政状況の中、地方交付税の伸びを抑えるため、地方自治体の基金、特定の目的を持たない財政調整基金への積立の増加傾向についての指摘が財務省から地方交付税を担当する総務省になされていると耳にしたことがあります。

仮にこうした指摘により、本市への交付税が減額されることになれば、市の厳しい財政状況に更に拍車を掛けることは言うまでもありません。だからといって、市民の皆様の大切な貯金である財政調整基金を使って減らすという考え方はいかなものかと考えます。

そこでお伺いしますが、市の財政調整基金の現状と適正規模、またこうした国の動向に関する情報の把握状況について答弁願います。

○議長（平岡清司） 和田総務部長。

○総務部長（和田剛明） 四番牧野議員の御質問にお答え申し上げます。

まず、財政調整基金の状況でございますが、平成二十八年度末現在の保有額は、二十九億四千六百九十九万八千円となっております。

次に、財政調整基金の規模でございますけれども、当該基金におきましては、今後の合併算定替の縮減による地方交付税の減少や災害時の応急対応、さらには公共施設の老朽化対策に係る起債の充当残額などに要する経費の積立てが必要なものと判断いたしております。

現時点では、財政調整基金の積立状況等によりまして、地方交付税が抑制されるといった国、あるいは県からの正式な通知等はございませんけれども、財務省における地方の基金残高の増加要因等の分析、あるいは検証、今後の地方財政計画への反映などが議論されている旨の情報是我々も把握をいたしております。

なお、本年一月二十五日付けの総務省からの通知では、地方公共団体の基金につきましては、その規模や管理などについて十分検討し、優先的に取り組む事業への活用、更に適正な管理・運営に努めるよう要請があったところでございます。

以上でございます。（「四番」の声あり）

○議長（平岡清司）四番牧野雅一議員。

○四番（牧野雅一）今の答弁、現状では正式な動きがないということだと思っておりますけれども、そうであっても既に国では検討が始まっているということですよ。国の財政も非常に厳しい状況です。いつ何時こうした動きが本格化するかもわかりません。

市の基金には、財政調整基金以外にも特定の目的を持った基金が幾つかありますが、こうした目的を持つ基金へ必要と考えられる額を残して財政調整基金からバランスよく振り替える、そして、今後の市の事業などの財源として計画的に蓄える、そのことよって「五條市の基金は、いずれも明確な用途があって、決して余剰なものではないですよ。」ということを対外的にしっかりと示していく必要があると考えますが、市当局としては、どのような見解をお持ちなのか、答弁願えますか。

○議長（平岡清司）和田総務部長。

○総務部長（和田剛明）四番牧野議員の御質問にお答え申し上げます。

現在、本市では財政調整基金以外に十一の特定目的基金を設置しておりますが、国による地方自治体の基金の保有額が議論をされており、本市といたしましても、今後の事業進捗などを踏まえ、基金ごとの積立目標額や規模、その活用について整理いたしまして、今後国の議論に対応してまいりたいと、このように考えてございます。

以上でございます。（「四番」の声あり）

○議長（平岡清司）四番牧野雅一議員。

○四番（牧野雅一）今おっしゃられたように、「基金ごとの積立目標額や規模」の整理に関しては慎重に取り組みべきと考えます。

いずれにしても、各基金残高の整理を進め、適切な使途計画を定め効率よく運用するべきであり、五條市が不利益を被るということは、ひいては市民の皆様の不利益になるということになります。そのようなことのないように、十分な検討の上、早急な対応をお願いしまして、次の質問に移りたいと思います。

三つ目、市の公債費についてであります。

今後、新庁舎やごみ中継施設の建設など、各種の大型事業が予定されており、その主な財源は市債であることは、既に理事者側より説明を受けていますが、新年度予算においても、前年度に比べ市債は七億円以上増加し、その返済に充てる公債費の予算額についても三十一億五千万円と、ほぼ市の税収入、約三十二億八千万円あったと思うのですけれども、それに近いものとなっております。

そこでお伺いしますが、新年度予算に占める公債費の割合と前年度の比較と今後の見通し、市の財政を健全に維持するための公債費の在り方について答弁願います。

○議長（平岡清司）和田総務部長。

○総務部長（和田剛明）四番牧野議員の御質問にお答え申し上げます。

初めに、新年度の公債費予算額は約三十一億五千万円を計上しておりまして、一般会計予算全体における構成比は、一五・五パーセントで、対前年度比六・三パーセントの増加となっております。

次に、今後の見通しでございますが、公債費は新規借入に伴い増加してまいります。現在予定されております大型事業の終了をピークに緩やかに下降するものと見込んでございます。

なお、過疎債、あるいは合併特例債など有利な市債の活用を行い、公債費の実質負担額の低減に努めることとし、財政健全化法に基づく実質公債費比率の動向にも十分留意してまいりたいと考えてございます。

以上でございます。（「四番」の声あり）

○議長（平岡清司）四番牧野雅一議員。

○四番（牧野雅一）今答弁で、「大型事業の終了後をピークに緩やかに下降するものと見込んでおります。」ということをおっしゃると思いますが、ですけれども、大型事業が終了すれば予算額、すなわち公債比率を算出する上での分母が減って、率が上るのは必然であると考えます。また、

歳入におきましても、地方交付税の減少傾向が見られる中、これ以上市民の皆様の借金である市債は増やすべきでないということは誰しもそう考えるのではないかと思われます。市が活用できる過疎債や合併特例債は交付税措置があり、有利なものであることは理解しておりますが、その有利な合併特例債を使って多くの事業を実施した結果、危機的な財政状況に陥り、他の行政サービスが困難となった合併自治体の事例についても以前の議会で御紹介させていただき、よく御存じのことと思います。

そうした事例を今一度よく検証していただき、市民のための行政サービスに影響が及ぶことのないよう、このまちから市民の皆様の笑顔がなくすことのないよう、公債費の動向に十分注意を払った財政運営を強く要望し、次の質問に移ります。

大きな六、新庁舎周辺街路計画の進捗についてでございます。

(一) 新庁舎への動線確保について。

一昨年の十二月議会の一般質問において、新庁舎建設整備事業に対する市民アンケートに「交通手段につきましては、自動車を利用が七十二パーセントと最も多く、自由意見につきましては、周辺の道路整備の意見が最も多く、次いでコスト削減等々がある。」と答弁をいただき、昨年十二月議会でも、周辺アクセス道路についての計画及び工事期間中の周辺住民の安全確保を鑑みた工車用車両の動線確保について幾度となく重ねてお尋ねしてまいりましたが、その後の進捗について、改めてお尋ねしてまいりたいと思います。

旧五條高校跡に建設する新庁舎へのアクセス道路については、「平成三十二年度の新庁舎の完成に向けて、旧五條高校跡地の東側に接する南北方向のアプローチ道路となる旧岡中線、旧岡中線とJR五条駅北側を走る五條北部幹線とを連絡する東西方向のアプローチ道路となる岡口三号線の整備に重点的に取り組んでまいりたいと考えています。」と答弁されています。

まず一つ目、旧岡中線について。「道路拡幅に着手するまでにガス・水道の地下埋設物の移設工事や下水道の新設工事が必要であることから、現在、地下埋設物の移設を踏まえた道路詳細設計及び下水道設計に着手しているところです。また、新庁舎建設予定地の本格的な造成工事に着手する平成二十九年度末までに、道路拡幅工事を概ね完了しておく必要があることから、ガス、水道の道路占用事業者と移設工事に関する調整を終え、平成二十九年度の第一四半期から仮設配管に着手できるよう準備を進めているところです。」と答弁され、また昨年九月議会の一般質問では、「改良工事を実施するに当たり、上水道の仮設工事が七月に、ガス管の仮設工事は八月中に完了しております。現在、下水道管の布設工事に着手していますが、その工事が十一月完了、その後、上水道管の本復旧が平成三十年二月に完了、ガス管の本復旧工事が三月中に完了予定となっております、本路線の暫定拡幅工事は平成三十年三月中旬に着手予定とされているところです。」と答弁され、十二月議会

では、その工事が「三月中旬から下旬に延びている。」と答弁されています。この現況と近隣住民の皆様との協議状況について答弁願えますか。

○議長（平岡清司）平田都市整備部長。

○都市整備部長（平田耕一）四番牧野議員の御質問にお答えします。

現在、新庁舎敷地造成工事の六月末の着手に向けて工事用車両の進入に関し、関係自治会並びに関係者の方々に事業説明を行い、協議を進めているところであります。

まず、旧岡中線でございますが、現在工事に着手しているガス管の布設工事が完了する三月下旬から道路の西側に仮設歩道を設置し、歩行者の安全対策と車道の暫定拡幅に着手してまいりたいと考えております。

次に、市道岡口三号線につきましては……。 （議場に声あり）申し訳ございません。

旧岡中線については、以上、答弁とさせていただきます。 （「四番」の声あり）

○議長（平岡清司）四番牧野雅一議員。

○四番（牧野雅一）それは分かっていますんやけどね。今言うてもらったところは分かっているんやけれども、私が聞きたいのは、近隣住民の皆様との協議状況について答弁してほしいと言っているんですよ。どんな協議をされておるのかということです。この旧岡中線についてはですよ。

○議長（平岡清司）平田都市整備部長。

○都市整備部長（平田耕一）四番牧野議員の御質問にお答えします。

旧岡中線の関係自治会の方につきましては、関係自治会の方に現場に来ていただき、現場の状況などを説明しているところでございます。その折に出ました内容につきましては、道路の東側のすり付け部分について、自治会の方から御意見をいただいておりますのでございます。それにつきましても、今御説明しているところでございます。

以上、答弁とさせていただきます。 （「四番」の声あり）

○議長（平岡清司）四番牧野雅一議員。

○四番（牧野雅一）この旧岡中線の暫定拡幅工事というのは、三月下旬には着手予定と十二月に答弁いただいていますよね。先般から新庁舎特別委員会でもそのような工程の説明もされておると思うんですよ。今東側ですか、旧岡中線の、それについて地元の方に説明されておるとい

うことですね。説明されておるといふことは、まだまだ理解を得られていないという解釈でよろしいですか。

○議長（平岡清司） 平田都市整備部長。

○都市整備部長（平田耕一） 四番牧野議員の御質問にお答えします。

先般、現場で説明会をさせていただいた後、個別に自治会長の方に寄せていただき再度御説明をさせていただき、ある程度一定の理解を得られたところでございます。この後にまた三月の下旬に自治会に対して説明会を開くということで、今調整しているところでございます。

以上、答弁とさせていただきます。（「四番」の声あり）

○議長（平岡清司） 四番牧野雅一議員。

○四番（牧野雅一） ある程度御理解をいただけたと、ということですね。ということは、前向いてどういうふうな拡幅の幅であるとか、ということとは御理解いただけて進める状況になっておるといふ解釈でよろしいですか。

○議長（平岡清司） 平田都市整備部長。

○都市整備部長（平田耕一） 四番牧野議員の御質問にお答えします。

市の方向性というのを自治会長に説明し、自治会長自身は、「分かりました。後に自治会の方にしっかりと説明してください。」という御回答をいただいております。

以上、答弁とさせていただきます。（「四番」の声あり）

○議長（平岡清司） 四番牧野雅一議員。

○四番（牧野雅一） その辺の掛け違いのないように、やっぱりこっちは理解してもらっていると思っても、聞いた側は理解できていないという見解の違いもありますので、しっかりと、自分らの言い分だけを置いて帰ってくるのではなくて、相手はこれを聞いてどう理解していたか、ここが大事やと思うんですよ。地域の方と理解し合うというのは、その辺のことを怠ることなく取り組んでいくべきかなと思います。

委員会では、我々議会にお示しいただいている資料の工程表では四月からの着工になっております。「本格的な造成工事に着手する平成二十九年年度末までに道路拡幅工事を概ね完了しておく必要がある。」これは造成工事のことですよ。今度ね。過去に八田技監がそのように答弁されていると思うのですよ。

旧岡中線の拡幅工事が遅れて、完了を待たずに、四月から造成工事に着手されるということは、八田技監の答弁と我々議会にお示しいただいておる工程と整合性がないと思われまます。お示しされた計画が不適切であるのか、八田技監の答弁に変更があったのか。これは議会で答弁していただいたことに変更があったらあつたでちゃんと議会で報告していただかなあかんと思うのですよ。現実はどうなんですか。

○議長（平岡清司） 八田技監。

○技監（八田 護） 四番牧野議員の御質問にお答え申し上げます。

委員会で四月から着手するという事で御報告させていただいています。設計を進める中で、開発申請等につきましては、三月末で完了をする見込みをしておったのですけれども、やはり進めて行く中で、見直し等もございまして、造成の着手時期につきましては六月末ぐらいからということ、委員会の方には、工程が見直す中でかなり変わって来たということ、その辺は御報告させていただけなかつた部分がございますが、六月から着手をしたときに、もちろん着手が遅れますので、造成工事自体の全体の工程の見直しも同時に行っております。来年の建築工事本体の着手時期というのが一番のネックになってくるところでございますので、造成工事自体ある一定、同じ工種がかなり続く部分もございまして、そこを、複数工種の工程を見直すことで、造成工事の工程も見直せたということになっております。

旧岡中線の拡幅自体は三月下旬からということで前回の議会の中でお話しさせていただいています。その点につきましては、今回も、先ほど部長の方からも答弁させていただきましたが、三月下旬にガスパ管の移設工事が完了します。その後旧岡中線の部分を拡幅していきますので、西側部分に仮歩道を設けて、車道部分の拡幅もしていく必要がございます。造成工事までにそれをしていく必要がございますので、それによらず取り掛かると、造成工事自体は六月末になるんですけれども、それまでに暫定的に拡幅は終わっているという体にはなっております。全体的に造成の着手は遅れておるのですけれども、全体を見直しまして、旧岡中線の暫定拡幅はほぼ予定どおりと、造成工事につきましては遅れましたけれども、全体工程を見直して建築本体の着手に間に合わすという工程で今現在考えております。

以上でございます。（「四番」の声あり）

○議長（平岡清司） 四番牧野雅一議員。

○四番（牧野雅一） ちょっとなんか勘違いされているみたいですね。私言いたいののは、委員会で造成工事が四月から入りますよと説明を受けてますやん、工程表で。でも過去の答弁で、八田技監が答えてはるのは道路の拡幅工事を概ね完了しておく必要があると、その完了するのが三月末やつて遅れてきておるのに、それでも拡幅工事見えてないですやん、まだいつできるんかって。にもかかわらず、それを終わらんとでき

ないという造成工事が四月からの工程になっとったさかいね、ここが矛盾しているのと違うかと、そういう工程計画をしっかりと立てやなあかんの違うかということをお願いいたいですよ。造成工事が遅れるとか早くなるとか、そういう問題ではなくて、理業者側から説明を受けている、こっちで言うこと、こっちで言うことの整合性が、だからほんまに事業計画ってきっちり立てられているのかなということを今聞きたいんです。そこですわ。

○議長（平岡清司）八田技監。

○技監（八田 護）四番牧野議員の御質問にお答え申し上げます。

今説明させていただいた内容と、内容的には同様になるのですが、当初十二箇月程度だったと思いますけれども、造成工事の期間を見ておりました。設計していく中で設計も結構タイトな内容でやっていますので、設計を進める中で施工工程も見ながら我々も検討しているとおるのですけれども、そういう中で工期も短くできるように検討したということでございます。

以上でございます。（「四番」の声あり）

○議長（平岡清司）四番牧野雅一議員。

○四番（牧野雅一）その工程のことにはね、皆さんでいろいろ知恵を絞って組んでくれていると思うのですよ。ただやっぱり我々議会に対する説明、委員会に対する説明、また市民の方々にする説明、皆それぞれ言うところによって違えばね、みんな大丈夫かなって不安になるでしょう。そういうことのないような事業計画をしっかりと立てるべきでしょうということをおるんですわ。遅れるとかいつこれができるのか、はよせなあかんなか誰も一言も言っていない。そのところでは、それだけ充分認識していただいた上で、今後いろんな方面に説明するにしても整合性のある確かな計画を御説明すべきであると私考えます。

二つ目、旧岡中線とJR五条駅北側を走る五條北部幹線とを連絡する東西方向のアプローチ道路となる岡口三号線について、ここから岡口三号線ですよ。「岡口三号線については、十月十九日に須恵・岡口地区の自治会長及び役員の方々を対象とした地元説明会開催後に測量を実施することについての同意をいただき、現在、入札手続を行っているところですよ。また請負業者が決まり次第、地元住民及び道路計画に影響があると予想される地権者を対象とした地元説明会を開催し、買収に協力いただくまでのプロセスやスケジュールについて丁寧に説明させていただきます、御協力いただけるよう努めてまいります。」と答弁され、また昨年九月議会では、「現在、権利者十四軒中、全員の方に道路概略設計を持って御説明が終わっておりますが、二軒の方に更なる御説明が必要であり、そのほかの方々についても今後の予定等について説明を重

ね、事業に対し賛同を得られるよう努力してまいります。」と、また十二月議会では、「その二名の方につきましては、やはり家屋が影響するということもありますので、なかなか賛同を得られないという部分がありました。」と答弁されておられますが、現在の用地に関する進捗状況をお尋ねいたします。

○議長（平岡清司）平田都市整備部長。

○都市整備部長（平田耕一）四番牧野議員の御質問にお答えします。

市道岡口三号線につきましては、現在詳細設計を進めており、三月中旬より詳細測量を実施します。平成三十年からは昨年十二月の特別委員会でも御説明したとおり、四月から用地説明、九月より用地幅杭の設置に向け取り組み、了解が得られたところから順次買収に向け交渉を進めてまいります。

先ほど言われました二名の方につきましても、詳細設計・詳細測量の結果をもつてしっかりと説明し理解を求めていく所存です。

以上、答弁とさせていただきます。（「四番」の声あり）

○議長（平岡清司）四番牧野雅一議員。

○四番（牧野雅一）ということは、まだその二軒の方に対しては御了解を得られていないと、まだこれから説明を続けていくということですね。

現状で用地交渉プロセスやスケジュールについては順調に進捗、順調とは言い難いのかなと思いますね。今の現状であつたら、岡口三号線については、我々議会が移転の承認を議決したときに、理事者の皆さんも一緒に現地まで赴き、説明を受け、本工事中までに設置されると思込んでいたのが、しゅん工までに間に合わすというような、解釈の違いがあつたのかもわからなければ、それでも仕方なく本工事の準備作業は粛々と進められておると思います。新庁舎しゅん工時には、本当に開通できるのか。過去にこの岡口三号線は着工までにと皆思っていたものが、しゅん工までにと聞いたときに皆びっくりしたのですよ。でも今粛々と本工事が進めようとしていますやんか、進めるべく何回も委員会で議論していますやんか。その中で周辺道路のことは全くそこまで手が回っていないのではないのか。今聞いたら、まだ地権者の方に御理解いただけないということですね、今の答弁では。それでほんまにしゅん工までに岡口三号線が供用開始できるのかどうか、その見通しについて答弁いただけますか。

○議長（平岡清司）平田都市整備部長。

○都市整備部長（平田耕一） 四番牧野議員の御質問にお答えします。

岡口三号線につきましては、先ほど述べさせていただいたように、四月から再度用地測量の結果を持ち説明をさせていただきます。

新庁舎が完成するまでには岡口三号線が開通できるよう、粛々と工事を進め、事業を進めていきたいと考えております。

以上、答弁とさせていただきます。（「四番」の声あり）

○議長（平岡清司） 四番牧野雅一議員。

○四番（牧野雅一） いずれにしても、この道路は庁舎移転に関しては必ず必要な道路と思うのですよ。だからそれを何より先に、この間からの委員会ではいろいろ議論しているのを、自分も委員で話も聞かせてもらっていますけれども、庁舎内の間仕切りがない、もちろん大事なことでと思います、職員さんが食事とする場所はどこやとか、これも大事なことでと思います。でもそれより何よりアクセス道路、さっきも言ったように市民のアンケートにも出ていますやん、職員さんの食事とする場所がって、市民の人はそこまで細かいこと言わへん。でもやっぱり一番関心を持ってあそこに庁舎が移転するという方向性を聞いた人は、「道はどうなるの」と必ず二言目に出てくる。それだけ周辺道路のアクセスというのは関心を持たれているということなので、是非この道路はしゅん工までに、過去に私は一般質問で、工事用車両の加減もあるので、しゅん工までには言わずに一日も早く供用開始できる努力はしてくださいということもお願いしたと思います。だから今その上で、この期に及んでしゅん工にほんまに間に合うのかと、心配せなあかんような計画というのちよつといかがなものかと思えますので、私だけと違ってやっぱり市民の皆さんに不安を覚えさせないような計画を立てて取り組まれることが大事であるところがうのかなと思いますので、よろしくお願いいたします。

次、（二）の須恵四号線の安全確保についてに移ります。この須恵四号線にも過去の答弁ちよつと読み上げさせてもらいます。

「本陣交差点からの工事車両の進入口となる須恵四号線については、工事車両と一般車両とが接触しないよう紀陽銀行前の車両停止位置の改善や歩行者の安全確保を図るグリーンベルトの設置、交差点内の導流ラインの改善など、五條警察署とも協議を図りながら通行車両、歩行者の安全確保を行った上で造成工事に着手してまいりたいと考えています。」と答弁され、昨年九月議会では、「工事期間中、須恵四号線を主な工事用進入口としていることから、九月下旬をめどに地元説明会を調整してまいりたいと考えております。現在の作業といたしましては、大型車両の通行に際し、舗装等の耐久性について調査中であり、九月中に解析が出てまいります。また、本陣交差点の信号現示について、警察と協議を行い、調整を申し入れているところです。現在、試験的に五秒の延長として運用しているところではあります。また、工事

中についても、更に信号現示の時間延長をしてもらえるよう予算要望していただいているところです。また八月二十四日に地元沿線の住民の皆様から、現在一部の自治会ではございますが「環境保全対策委員会」が組織され説明会の開催方法等について調整してまいりたいと考えております。今後は、安全対策等の道路環境の調査を行った後、振動対策、通学路や歩行者の安全対策、交通誘導員の配置、工用車両の誘導計画、工用車両の運搬計画や通行時間制限や最大の通行台数などについて地元の皆様と協議し、意見をいただきながら協力と理解を得て、進めてまいりたいと考えています。」って答弁されています。

先ほど申し上げましたけれども、先の委員会では説明資料の工程では、造成工事は四月から着工とあって、今六月から思いどおりということをお聞かせいただきましたけれども、この須恵四号線にしても造成工事が六月から着工するに当たっても、近隣周辺住民の皆さん等の協力と理解を得られておるのかどうかを答弁いただけますか。

○議長（平岡清司）平田都市整備部長。

○都市整備部長（平田耕一）四番牧野議員の御質問にお答えします。

昨年十一月に周辺自治会長並びに環境対策委員長や関係の方々に現場立会をしていただき、いろいろな御意見をいただいておりますが、好意的に対応していただき非常に感謝しております。

次に、対策委員の方々には、対策委員から地元自治会へ説明するなどの協力体制を取っていただいているところでございます。近日中に説明資料を市で御用意させていただきました、説明していただけることとなっております。対策委員会でカバーできていない自治会につきましては、三月下旬をめどに説明会を開催し説明を行ってまいりたいと考えております。

また、自治会員でない方々につきましては、個々の御説明を行ってまいりたいと考えております。

以上、答弁とさせていただきます。（「四番」の声あり）

○議長（平岡清司）この際、申し上げます。牧野雅一議員の一般質問の残り時間は十六分でございます。

四番牧野雅一議員の発言を許します。

○四番（牧野雅一）私の今の質問ね、もう一遍よう聞いて答えてくださいね。

私は理解を得られているのか否かということを探ねたのですよ。説明会をいつするとか、せんとかそんなことを聞いていない、時間がないんやさかいに無駄な答弁を省いてほしいんですわ。

地元のね、これもう一遍言いますよ。造成工事着工するに当たっては過去の答弁で、「地元の皆様と協議し、御意見をいただきながら協力と理解を得て進めてまいります。」と答弁されておるんですよ。だからそれに対して協力と理解をいただいておりますのかということを探ねておるんですよ。説明会をいつするかということとは聞いていない。それだけ答えてください。

○議長（平岡清司）平田都市整備部長。

○都市整備部長（平田耕一）四番牧野議員の御質問にお答えします。

二月中旬にこの関係の方の説明会をさせていただいたときには、早く説明に来なさいということ、その会議の中では私は一定の理解を得られたと考えております。

以上、答弁とさせていただきます。（「四番」の声あり）

○議長（平岡清司）四番牧野雅一議員。

○四番（牧野雅一）部長ね、今と同じやりとりを先般聞き取りで私の控え室でやりましたやろ。部長と次長と課長と三人並んで、同じことを聞かせてもらったはずですよ。そのとき同じことを答えてくれましたわ。そのとき横におる次長も課長も二人とも首横に振ってましたんですよ。それをまたぞろこの場で答えるって、どういうことですか。これ。私は理解をいただいているかいないかということを知っているだけであって、今度いつ説明にあがります、来なさいとか言ってくれたこと、そんなこと聞いてない。だから理解をいただいているのやったら理解いただけるような、それにはどうすればいいかということを建設的な議論をせなあかんさかいに今尋ねさせてもらっているんですよ。まあいいです、もう。理解を得られるように、そんな態度ではなかなか理解はいただけへんのと違うかなと思いますから、相手は理解をしていないの自分は理解してもらっていると思ってるって、そんなではなかなか接点は見いだせないと思いますので、しっかりと相手の意向を酌んだ上で取り組むべきやと思います、この件に関しては。

振動対策や通学路や歩行者の安全対策、交通誘導員の配置、工事用車両の誘導計画、工事用車両の運搬計画や通行時間制限や最大の通行台数などについて、どのような案をもって、地元の方と協議されるおつもりなのか、案があるんやったらあるで答えてください。ないんやったらないで結構です。はっきりしてください、もう時間がないさかいに。

○議長（平岡清司）平田都市整備部長。

○都市整備部長（平田耕一）四番牧野議員の御質問にお答えします。

振動対策につきましては、舗装、側溝のやり替えなどを考えているところでございます。またいろいろな御意見をいただきながら真摯に説明をしていきたいと考えております。

以上、答弁とさせていただきます。（「四番」の声あり）

○議長（平岡清司） 四番牧野雅一議員。

○四番（牧野雅一） やっぱりね、そういう協議も誠意的に前向いてこちら側からいろいろなことを提案して、意見聴いて、肉付けして皆さんが納得、御理解いただけるような態勢を持って着工すべきだと思います。

以前にね、私が一般質問で本陣交差点に関わる現場の通行量調査を掛け、どのような工夫が有効なのか研究・検討して取り組むべきと提言させていただきました。今言うたようなことですわ、本陣の交差点、流入していく動線、上から下りてくるということは本陣の交差点に入っていくということですよ。あその信号が長いとか短いとか、右行とか左行とか、一回の青信号で何台の車ははけていくとかいう、この通行量調査を掛けて、工事用車両、工事期間中にはどれぐらいの車両の通行量があるのか、それをしっかりと地元の人に説明して、それはこういう安全対策が好ましいと思いますということを提案せなかんでしょう。そのためにこういう調査をすべきやということを以前に提言させてもらったと思うのですよ。この調査に関して、されたのかされていないのかそれだけで結構です、答弁ください。

○議長（平岡清司） 平田都市整備部長。

○都市整備部長（平田耕一） 四番牧野議員の御質問にお答えします。

本陣交差点部分の交通量調査は市独自ではやっていません。

以上、答弁とさせていただきます。（「四番」の声あり）

○議長（平岡清司） 四番牧野雅一議員。

○四番（牧野雅一） そういうことを地元の方々とお互いに理解しようと思つたら、こつちも汗をかいてこうさせてもらったらどうでしょうかと提案をして、前向きに取り組むことが早道と違うのかなと思いますので、言葉が悪いですけども、手抜くとかそんなことをせずね、やっぱりすべきことをやって、相手さんに対して誠意をしっかりと示して説明・協議のテーブルにつくべきだと、そういう協議の合意を目的とするのであればですよ。そのように提言させてもらっております。

また、須恵四号線に関しては、まだまだお尋ねして言いたいこともあるのですけれども…。

先の十二月議会で、「須恵四号線に関しましては、大変重要な位置付けということで認識しております。更なる地元の皆さんとの協議をした上での中で、分散できるような考え方、また新たな形の方策も考えられるのであれば考えていく。そこらを直近に考えて、今後進めてまいりたいと、そういうように考えております。」と市長から答弁いただいております。造成工事の着手も迫り、建設事業の期限も刻々と迫る中、この須恵四号線に関して、どのような方策をもって進めていただけるのか。十二月以降に何がしか新たな方策が出ているのであれば、市長、答弁願えますか。

○議長（平岡清司） 太田市長。

○市長（太田好紀） 四番牧野議員の質問にお答え申し上げたいと思います。

須恵四号線におきましては、いろいろと協議をしながら現在もどういうような形の中で、動線の中で進めていくか、交通量、今先ほども車の交通量もありますけれども、その辺を踏まえて皆さんの理解の得られるような形の中で現在もどのようにしたらいいかということで協議を進めているところで、まだきちっとした形の中には確定はしていませんけれども、ほぼある程度の方向性が決まりつつあると考えております。

以上です。（「四番」の声あり）

○議長（平岡清司） 四番牧野雅一議員。

○四番（牧野雅一） 考えが出ていない部分は、ないものを答えてくれと言っても無理ないと思いますので、ただやっぱり市長も認めていただいているように、須恵四号線は重要な動線になるという位置付けは同じ認識を持っていただいておりますので、しっかりとそういうところは関係部署の方も交えて、みんなで協議していいものになるように取り組んでいただけたらと思います。

新庁舎建設事業は、建物を含めた周辺道路整備が一对となって進めるべきで、誰かのために進めるのではなく、理事者の皆さんも含めた市民の皆様の確かな未来のために進めるべき事業であると考えてます。

その大切な事業であるという認識を持つて議論を深め、進めることによつて、誰しもが喜んでいただける完成に近づくと考えます。

先ごろ、閉幕しました平昌オリンピックで日本選手団は冬季開催オリンピックで史上最高の十三個のメダルを獲得し、入賞者三十を数え、様々な競技で私たちに多くの感動を与えてくれたのは記憶に新しいところであります。

その中で、他の競技に比べ比較的地味ではありますが、今回初めて銅メダルを手にしたカーリング女子、試合中はいつも笑顔の五人、御存

じの「そだねージャパン」が北海道北見市に凱旋を果たしたときの会見で、練習拠点である北見市常呂町、人口五人足らずのまちで、七歳のときからカーリングを始めた吉田知那美選手がこのように言うています。「小さいときはこのまちにいても絶対夢はかなわないって思っていました。けど今はここにいなかったらかなわなかったなと思っています。みんなもこのまちで夢をかなえられると思います。」と胸を張って集まった子供たちに涙ながらに呼び掛けたとありました。

それを聞いたとき、改めて私たちのまちも、このまちで育まれる子供たちに向かって胸を張ってそう言える「笑顔と希望のあるまちづくり」に励むべきとつくづく痛感した次第です。

まちは誰か一人ではつくれません、皆が一つになってこそ確かな未来に向かってより良いまちづくりにつながるものと考えます。そう思われませんか。

理事者各位におかれましても、同じような認識を持っていただき、私たちの五條市のために、それぞれがそれぞれの立場で取り組まれますことをお願いしまして、次に移ります。

最後、七つ目の花咲寮移転事業について。この進捗についてですが、ちよつと質問をやりとりしておつたら途中で時間がきそうなので、本来質問を通告させていただいた趣旨だけさつと読ませていただきます。

五條市立養護老人ホーム花咲寮の移転状況についてお尋ねしたいところですが、平成二十七年六月八日の厚生建設常任委員会の後、現在の花咲寮の現況と二見五丁目、川端地区の建設予定候補地の視察をさせていただきました。

現施設は昭和三十年の開設、建設と数度の増改築を経ている施設で、入所定数は八十名である等説明をしていただき、寮内を見学させていただいたところ、建築年度から見ても耐震性の確保もされていない建物は明白で、また段差、階段等、高齢者には障害の多い施設で、居室は個室だけでなく多床室もあり、狭く老朽化が進み、雨漏りや床のきしみ等が発生して、決して安心して生活できるような良好な生活空間でないどころか、それはそれは見るに忍びない環境であり、当時の委員長始め、全ての委員、議員が何とかこの環境を改善すべきと事業費の抑制、建設候補地等々、幾たびも協議・議論を重ね、その後、広大な建設予定の候補地ではありましたが、移転事業を少しでも早く進めたいという理事者の要望に応えるべく、平成二十八年十月十七日には第二回の臨時議会まで開き、建設予定用地の取得を議決したところですが、その後、一年数箇月が経つても現在の移転事業の進捗が見えてこない。なので、今回この進捗についてお尋ねしたいという思いがあつたのですが、時間も何回か質疑をやっていたら時間切れになりますので、要は臨時議会まで開いて購入した用地がまだ寝たままやと、それやつたら臨時議

会まで開く必要もなかったのちがうのかなと、これも全て事業計画がきっちりきっちり計画を立てて粛々とその計画どおりに進めていかなあかんのちがうのかなということを言いたいです。この事業に関しても。また今後、この花咲寮の事業に関しては改めてお尋ねしてまいります。

きょうはもうこれぐらいにしておきます。

改めまして、この三月をもちまして定年退職されます、泉谷大塔支所長、竹本すこやか市民部長、山本危機管理監、お三方には、私の各議会での質問に対し誠実な答弁をいただいたこと、この場をお借りしまして心より感謝を申し上げます。

ありがとうございました。

以上で、私、牧野雅一の一般質問を終わらせていただきます。

○議長（平岡清司）以上で四番牧野雅一議員の質問を終わります。

トイレ休憩のため、三時四十分まで休憩いたします。

午後三時二十二分休憩に入る

午後三時四十分再開

○議長（平岡清司）休憩前に引き続き会議を再開いたします。

ただいまの出席議員数は定足数に達しておりますので、会議が成立いたします。

この際、申し上げます。議員各位の質問並びに理事者側の答弁は明瞭、的確にお願いいたします。

本日の会議時間は議事の都合によりあらかじめ延長いたします。

一般質問を続けます。

一番伊谷賢司議員の質問を許します。一番伊谷賢司議員。

〔一番 伊谷賢司質問席へ〕

○一番（伊谷賢司）理事者の皆さん、お疲れ様でございます。

十二月に初めて質問させていただいて、そしてこの三月議会ということ、まだまだ若輩ではございますが、どうぞよろしくお願ひしたい

と思います。

さて、私十二月の議会におきまして、上野の方が大変な被害を受けました。シダーアリーナも本当に被害を受けて、やはりここは一度体制をしっかりと立て直して、やっぱり市民の安心の負託にこたえるような、そういうしっかりとした施策を取ってくださいということと、言わせていただいたのですが、その十二月にお話しさせていただいた続きになるうかと思うのですが、まずは上野公園の復旧について質問させていただきますかと思っております。

まず多目的グラウンド、人工芝を敷いてあるグラウンドなんですが、この復旧について伺いたいと思っております。

○議長（平岡清司）平田都市整備部長。

○都市整備部長（平田耕一）一番伊谷議員の御質問にお答え申し上げます。

人工芝の多目的グラウンドやテニスコートなどについては、堆積土砂の除去及び人工芝の復旧は六月末の完了をめどに入札準備等を進めているところでございます。

以上、答弁とさせていただきます。（「一番」の声あり）

○議長（平岡清司）一番伊谷議員。

○一番（伊谷賢司）はい、六月ということ、七月になると夏休みが近づいてきます。いろんな利用者の方も楽しみにしていると思いますので、出来る限り六月末ということをめどとした場合ですね、しっかりとそれに向かって取り組んでいただきたいと思っております。

また、その他の施設、そして今後私もやはりあそこはいろんな人が利用してほしいなという思いもございまして、それに向けた拡張の整備、これについて現状で結構でございますので聞かせていただきたいと思っております。

○議長（平岡清司）平田都市整備部長。

○都市整備部長（平田耕一）一番伊谷議員の御質問にお答えします。

その他としまして、野球場の芝生グラウンドでありますとか、駐車場それとテニスコートの電気設備や機械設備の復旧についても六月末をめどに完了予定としておるところでございます。

以上、答弁とさせていただきます。（「一番」の声あり）

○議長（平岡清司）一番伊谷議員。

○一番（伊谷賢司）はい、電気設備、多大な予算も掛かっておりますので、今度はしっかりとした対策を取って流水の措置を取っていただきたいという思いでございます。

やはり吉野川の方からの流れ込み、それもオーバーフローしてくる部分もあると思うのですが、内水からの被害も否めない、そういうことも踏まえて総合的に是非調査をして、少しでも減災に当たっていただきたい、そういう思いでございます。

何をするにしても予算が掛かります。しかし、尊い人命にかかわるということを考慮した場合、しっかりと捻出していただいて、対応していただきたいと思っております。

二つ目としまして、上野公園、築堤がやはり今後まだ十年近く掛かるのかなという思いでございます。二見側の築堤、そして野原側の築堤と順次国土交通省の方でやっていただいておりますが、やはり毎年六億円という金額が付いておりますが、そればかりにはなくて、その他のところでも相谷地区でも護岸が崩落したりとかそういう問題もございます。そういうのを復旧していくと本道の方がなかなか遅々として進まない状況があります。しかしそこでは是非、上野公園に向けての築堤が一刻も早く進んでいけるように、市として協議をもつて対応していただきたいということを申し上げておりますが、今後、新年度に対して国との協議についてはどういう方向性を持っているのか、お考えを聞かせてください。

○議長（平岡清司）平田都市整備部長。

○都市整備部長（平田耕一）一番伊谷議員の御質問にお答えします。

上野公園の築堤工事につきましては、河川敷に隣接しています上野公園駐車場の整備も含め、今後も国土交通省和歌山河川国道事務所にできるだけ早期に着手していただけるよう、河川改修事業の必要額の確保等について要望してまいりたいと考えております。

以上、答弁とさせていただきます。（「一番」の声あり）

○議長（平岡清司）一番伊谷賢司議員。

○一番（伊谷賢司）はい、しっかりとした協議ということ、国土交通省もよく言うのですけれども、後出しだけはやめてくださいということ、先に先に要望のあることは言っておく、なるならないは別としてもしっかりと話しておくということが大事ですので、今後も局内ですっかりと協議して国土交通省との交渉の舞台をしっかりと確立していただきたい、そういう思いでございます。

上野公園もやはり市長が防災という観点から非常時になりましたら車で駆けつけたりする場合がございます。そのときに浸水の形が

ないようなグラウンドデザインをしっかりと考えて、そして収容できる車両が一千台なら一千台という、しっかりとしたビジョンを掲げて、市の土地のこともあります。兼ね合いのこともありますので、そういうことをしっかりと計画に入れた話し合いを是非ともやっていただきたい、そういう思いでございます。

そして最後に、上野公園にしましては、やはりいろんな私たちも要望ありますが、いろんな当面の問題をクリアしてからになるのでしょうか、利用する方の安全面等を考えた場合、やはり屋根があったり、または座席があったりということも必要だと思います。そういうものも含めた上で、今後のしつかりと計画を立てていただきたい、そういう思いでございますので、よろしくお願いいたします。

それでは上野公園の方は終わらせていただいて、次の質問に移りたいと思います。

五條市内における交通安全、交通安全対策、またいろんな取組をやっていたらと思うのですが、この交通安全対策というのは多岐にわたります。多岐にわたりますが、本市の現状とそして各局でお持ちの管理するところの部分での取組、そしてそれに対する対策、そういうのをのちよつとお聞かせいただきたいなと思っております。

○議長（平岡清司）山本危機管理監。

○危機管理監（山本修二）一番伊谷議員の御質問にお答え申し上げます。

五條市における全般的な交通安全対策につきましては、道路交通法等に基づき警察が執行するもの、道路構造上の安全管理等を各道路管理者が行うもの、また交通安全意識の向上や交通安全教育等、様々な取組を行っております。

危機統括室としましては、五條警察署や交通安全協会を始め各種団体と連携をして交通安全の推進に取り組んでおります。

主な活動といたしましては、毎月一日、十五日には交通安全啓発活動のため市内を巡回広報するとともに、春・秋の交通安全運動期間には、市長を筆頭に市職員全員による立哨やパトロール・広報などの早朝啓発の実施、市民のつどいや決起大会を始めとする各種ソフト面としての啓発活動を実施しております。

危険箇所への看板の設置や小学校新入学児童に対する安全教室を五條警察署等と連携を密にして、交通安全活動を実施しております。

以上、答弁とさせていただきます。

○議長（平岡清司）平田都市整備部長。

○都市整備部長（平田耕一）一番伊谷議員の御質問にお答えします。

まず、国道・県道につきましては、警察庁と国土交通省が合同で、死傷事故率が高く、また死傷事故が多発している交差点や単路部を「事故危険箇所」として指定を行い、安全対策を立案するため、道路管理者と県公安委員会が連携しています。

五條市内の指定箇所といたしましては、一般国道の交差点が五箇所、単路が二箇所、一般県道の交差点が一箇所となっております。

また、市道については、事故発生時において、その都度五條警察署や消防署から連絡があり、現地においてオイル漏れ等の事後処理状況や今後の事故防止の安全対策等について協議を行い、早急に対処しなければならぬ箇所については、対策工事としライン引きなどを実施してきましたところでございます。

また、運転者単独の自損事故については、なぜそのような事故となったかの聞き取りをし、道路の安全性について検証した中で改善箇所があれば対策を講じるよう進めているところでございます。

以上、答弁とさせていただきます。

○議長（平岡清司）松井教育部長。

○教育部長（松井和永）一番伊谷議員の御質問にお答えを申し上げます。

登下校中における児童の交通事故が相次いで発生したことを受け、文部科学省・国土交通省・警察庁により小学校の通学路での緊急合同点検の要請があり各小学校から危険箇所が抽出されました。これを受け平成二十四年度には教育委員会・各学校関係者・道路管理者・警察署による通学路安全対策検討会議を開催し、緊急合同点検により六十一箇所の要対策箇所を抽出しました。

平成二十五年二箇所の要対策箇所を加え六十三箇所の通学路の安全を確保するための整備として、道路への側線やグリーンベルト、注意看板の設置が行われました。また歩行空間の確保として、水路への蓋設置や橋梁の欄干の高さ不足改善などが合わせて行われ、平成二十七年三月に完了いたしました。

整備完了に合わせて策定された五條市通学路交通安全プログラムに基づく五條市通学路安全推進協議会により、完了後も評価改善対策箇所として十四箇所を追加を行い、対策を進めているところであります。

また、同プログラムによる緊急合同点検再点検を平成二十八年十一月と平成二十九年二月に実施いたしました。今後も通学路の安全に向けた取組を進めてまいりたいと考えております。

以上、答弁とさせていただきます。（「二番」の声あり）

○議長（平岡清司） 一番伊谷賢司議員。

○一番（伊谷賢司） はい、主だった部局の方から報告、答弁を聞きましたが、私どもやはり一番気を使うという心配なのは、交通弱者対策ですね、やはりお年寄りもそうです。またお身体の不自由な方、車椅子を常時使う方、この方たちがやはり歩道を使う、そのときにやはり自転車・歩行者等々の関係もありますので、そういうことも踏まえた交通弱者に対してしっかりとフォローできるような、そういう交通安全の啓発に努めていただきたいという思いでございます。

今後、新庁舎ができるその周りの空間でも、やはりなかなか歩道でも車椅子で歩くことができないよという方もおられます。そんなことも踏まえて、やはり今後整備するところはそういう方も安心して通れるような形にしていきたい、そういう思いでございますので、部署の垣根を越えた連携でしっかりと取り組んでいきたいと思っております。

また、いろんな面で今後もしっかりと危険箇所の洗い出しをして、そして対応していくということを部局を越えた形で進めていただくというのが私の思いでございますので、どうか御理解いただいて進めていただき、より良い安全に安心して通れる道づくりに寄与していただきたいなと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

さて、安全対策、非常に難しいところもありますし、行政間も越えたこともありますので、そのところの連携だけは絶えず取っていただいでやっていただくということで終わらせていただきます。

それでは災害対応ということで通告させていただいていますが、窪議員とも重なっているところがありますので、そういうところは外させていただきます。まず私は、避難場所という形で、よく市内各所で見られるんですが、この避難場所、書いてあります。そこに避難します。そしてらどういうマニュアルがあるのかなということがちよつと私の中で疑問になっております。例えば小学校が避難場所となっておりますが、その避難場所、鍵を開けるのは誰で、そしてその中の対応は誰がするとかですね、そしてそういうときに統括をしているのはこの部署であるという、危機管理であるのは分かっているのですが、そういう連携がきちつとマニュアルになっているのかなと、そうでないと逆に鍵を開けるのは学校の先生、でもどこまでが先生がいろんなものに対応できるか、学校内のマニュアルはあると思います、災害時の。しかし学校の先生は学校の先生でやはりそういう避難所を使うというときになれば、児童のことを最優先して心配していただかないとだめかなと思います。やはりそこにはお身体の不自由な方もおられます。そういうときの対応とか、そういうマニュアルというのが、やはり五條市、様々な災害を受けて大変本当に市長始め御苦労なされた経験がしっかりとフィードバックされて、本当に来ないことを願っているのですが、もし来

た場合に速やかに対応できるようなそういう形があるのか、マニュアルができてきているのか、また今後取り組んでいく部分があるのか、それをお聞かせいただきたいと思えます。

○議長（平岡清司） 山本危機管理監。

○危機管理監（山本修二） 一番伊谷議員の御質問にお答え申し上げます。

本市では、「奈良県避難所運営マニュアル」を準拠する形で、災害時におきまして、円滑な避難所の運営を実施してまいりました。

昨年十月の台風二十一号災害での経験から、学校・公民館・集会所などそれぞれの避難所におきまして、規模や設備等が異なることから、統一的なマニュアルの運用は難しいと認識しております。

しかしながら、平成三十年年度には、地域防災計画を改定する予定にしておりますので、関係各課と十分協議をしながら、奈良県避難所運営マニュアルや先進地の事例を参考にいたしまして、本市独自のマニュアルの策定に向けて検討してまいりたいと考えております。

以上、答弁とさせていただきます。（「一番」の声あり）

○議長（平岡清司） 一番伊谷議員。

○一番（伊谷賢司） この避難所のマニュアルについては是非危機管理課の方で、様々な課と調整しながら、余り複雑なものではなくてシンプルな形で、そしてまず自助・共助という形で取り組めるような避難所のマニュアルを是非作成していただいて、本市しかないマニュアル、そういうのを作っていただくということが市民の安心につながるのではないかと思いますので、是非取り組んでいただきたいと思えます。

各避難所、この中に避難しました。そしてそのときにどういう時間帯というか、避難の日にとにかくにもよってくると思うのですが、そういうときの対応、そういうときに必要な備品とか備蓄とかの状況はどうかと思いますが、いかがですか。

○議長（平岡清司） 山本危機管理監。

○危機管理監（山本修二） 一番伊谷議員の御質問にお答え申し上げます。

今議員お述べのとおり、いろんな避難所にはそれぞれの必要な備蓄なり備品が必要でございます。その部分も考えまして、我々としたしましては新年度において地域防災計画の改定の中で、そういう部分も十分過去の経験からフィードバックして、そういう部分の改定に生かしていきたいと考えております。

以上、答弁とさせていただきます。（「一番」の声あり）

○議長（平岡清司） 一番伊谷賢司議員。

○一番（伊谷賢司） はい、やはり有事の際にそうやっていく、何かしらあるものだといいことで皆さんは避難されるのでしようけど、やはりそのところをしっかりと対応できるような形で、取り組みを是非していただいて、それも併せてマニュアルをしっかりと作っていただきたい、そういう思いでございます。やはりそのときに素早く行政が先回りして対応できるとは限りませんので、是非地域の皆様の力も借りて優先的に対応できるような、市民の皆様のお力を借りてやっていただけるような、そういう組立てを是非やっていただきたいなと、そういう思いでございます。

そういう形で、各いろんな面で集会所であったり、公民館であったり、小学校であったりという形になると思いますので、本当に多種多様になります。そういうのも一律で決めてしまうと何かしら弊害も出てくると思いますので、よくその辺を調整していただいて、していただきたい、そういう思いでございますので、よろしく願います。

それでは、次の四番の観光施策ですね。これについて質問させていただきます。

まず既存施設、例えば大塔星のくにあたり、プラネタリウム館があったり、大塔郷土館というのがあります。そして西吉野にもありますし、旧五條市の方にもございます。そういうちよつと既存の施設、観光とか学習の施設なんですけど、これについての活用について、先ほどの議員の述べられた中にもちよつと混ざっている部分があると思うのですが、活用についてお尋ねさせていただきたいと思っております。観光施策についてということでの概念でいきなすと思ひますが、その中でのまず大塔の方からお聞かせいただければと思ひます。

○議長（平岡清司） 井上産業環境部長。

○産業環境部長（井上 昭） 一番伊谷議員の御質問にお答え申し上げます。

大塔地区にあるロツジ星のくに・道の駅吉野路大塔・大塔ふれあい交流館・大塔水車施設・大塔郷土館は平成二十八年年度から五年間一般財団法人大塔ふるさとセンターが指定管理者として、運営・管理をしているところでございます。これらの施設については建築後、相当年数が経過しており、老朽化し修繕にも多額の費用を要しているのが現状でございます。

現在、大塔地区の指定管理施設について、運営状況の状況と課題を共有し、今後の方針を検討するため関係各課で協議を始めたところであります。この所管課を越えた組織をもつて、大塔の施設について検証し、今後の利活用の方法についても協議を重ね研究してまいりたいと考えております。

以上、答弁とさせていただきます。（「一番」の声あり）

○議長（平岡清司） 一番伊谷賢司議員。

○一番（伊谷賢司） はい、部長の方から、私も嬉しい報告を聞けたなと思うのですが、やはり今の既存施設、老朽化そして中の備品そういうのがやはり老朽化したり、また故障したりということがこれからどんどん増えてくると思います。さあ、それを直して、新しい機械を何千万も掛けて直しました、修理しました、はいどうぞと、そういうことではなかなか施設というのは動いていけないと思うのですね。施設を運営していくということであれば、やはりしっかりとした企画をして、そしてその企画で集客の、お客さんがどれくらい来てくれるかという数字を立てて、そしてその中でこれだけの予算が出るのでこれだけの機械を直しましょうと、これだけの外壁を直しましょうという形で進んでいかなければお金が無尽蔵にあるということではないと思うのですね。ですから私は今部長の答弁があったように、この協議会、本当に是非市長部局で預かっていただいた上で、そういう企画を作り上げるようなそういうセクションを是非作っていたきたいと思います。

プラネタリウム館、木でできたなかなか日本でもないような形のプラネタリウム。日曜日子供を連れて行きましたら、私を含めて六名だったかな、六名でした。やはりそのときに県外の子でしょうか、お父さんが「もうお父さん、今度来なくても大丈夫だよ。」という言葉が引っかけました。それを聞いたときに、あっこれは施設というのは開いているだけではだめだし、そして費用が掛かることもよく分かります。でもどうするかということをまず考えてから、それを組み立ててそしてどうやってPRして、どうやって集めて、どうやって運営していくかということをちゃんと企画した上で再出発なり、リニューアルするべきだと、そういう思いでございます。それがいい見切りでの修繕、お金を掛けるだけ掛けて直しました、次のプランがございませんとするような形であれば、逆に止めてしまった方がいいのかな、それが市のためにもなるなと思います。そういう強行的なことではないのですが、やはりしっかりとしたそういうプランニングをするセクションを是非作っていたらいい、いろんなところの成功事例、また失敗事例も見て、是非協議に乗っけていただいて、再生を図っていただきたい、というのは、天辻にある大塔の各施設に關しまして、やはり県が今後推し進める新天辻のトンネルになってきます。そうするとやはりその天辻という、本当に長い歴史のあるところが、なかなか車までは一般道という形で下のバイパスを通ってしまうような形になるだろうと思います。それも十年、十五年は掛かると思うのですが、やはりその地名を消してはいけません。やっぱりしっかりとみんなが生まれ育ったふるさとというところは消えてほしくないものです。やはりそこに行く口実もいります。そう考えたら、まだまだ天辻でできることはたくさんあると思います。星のくにといい名前のとおり、星、これでも標高が六〇〇メートルほどですので、野迫川の雲海と掛かってしまつて、ちよつと

微妙に見えにくいところがある、だったらどうしようかと考えたらいいのですね。天辻の今上の方に、あそこから一五〇メートルほど登った
ら、雲海から上へ突き抜けて、いつも満天の星空が見えるんじゃないかと、そうするとやはり星の見える、星が一番よく見える奈良県でもト
ップクラスで見えるということで売り出していたいて、そこに人が集まる方針・方策を練っていたで、そういう形でもう少し五條とい
うところの今あるものを光らせる方法を是非理事者サイドで考えていただきたいな、そのお手伝いは何ほでもさせていただけます。ですが、や
はりそうやって人を呼ぶ、市に呼ぶんだということであれば、行政が先頭をとらなければなかなか前向いていかないのも現状でございます
で、お金の掛からない方法です。皆さんの知恵でやっていきます。そういう知恵を持っている素晴らしい職員の方たくさんおられます。眠ら
せないでください。そういう方を眠らせないで、そしてしっかりと人材活用しながら五條市の一つひとつのスポットに人を集めていただく、
そんな施設の再興を是非ともしていただきたい、そういう思いでこの質問をさせていただきました。

大塔に関していろんな施設もありますが、一つひとつそうやって検証していけば、何かしらのヒントは出てくると思いますので、もうしや
あないねんとかそういう思いじゃなくて、よしこれがあるからこうしようというような、そういうプロジェクトが進んでいけるような環境づ
くりだけを是非作っていただきたい、そういう思いでございます。

大塔はこれからもいろんな面で、しっかりとした底支えと、マンパワーで寂しくならないように、しっかりと捉えていくのが私は重要な
と思っておりますので、理事者サイドの御理解と更なる推進をお願いしたいなと思っております。

大塔につきましては以上ですが、西吉野の方にも今休館になっているのでしようかね、こんぴら館、これについて、今後の活用について
あれば教えていただきたいと思えます。

○議長（平岡清司）井上産業環境部長。

○産業環境部長（井上 昭）一番伊谷議員の御質問にお答え申し上げます。

西吉野町にあるこんぴら館は再開の準備も整っておりますが、施設の運営に伴う臨時職員を募集したところ、応募がございませんでした。
四月からは臨時職員の確保もできる見込みとなっております、本格的に稼働できるものと考えております。

こんぴら館につきましては、地域の特産品やジビエで作ったペットフード等を販売し、平成三十年でドッグランの整備も行う予定で、大
塔町天辻にある道の駅などの施設と区別化を図り、来訪者に両方の施設を訪れてもらえるよう考えております。

以上、答弁とさせていただきます。（「一番」の声あり）

○議長（平岡清司） 一番伊谷賢司議員。

○一番（伊谷賢司） はい、こんびら館ですね、非常にいろいろ賛否もあるかもわかりませんが、やはり施設としてある限り老朽化していない限り有効活用ということは至上命題でございます。そんな中で、今答弁いただきましたその地域の特産品、ましてや今力を入れていきますジビエ関係、そしてその六次産業化を踏まえて、是非それを成功していただきたい。しかしその成功するもしないも、先ほど私申し上げましたとおりしつかりとした企画と、そして経営戦略を持って取り組んでいただきたい、そう思います。ただそこに人がいる、販売するだけとかじゃなくて、しつかりとそういうことにたけた人材の育成もしながら、輝く施設、見てて生き生きするような施設づくり、そういうことにまい進する方を適材適所で是非入れていただき、しつかりとした復旧をしていただきたい、そういう思いでございますので、よろしくお願いいたします。

さて、あと西吉野、今度五條の方なんですけど、今五條文化博物館が今回空調の不便さもありまして改修されているということをお聞きします。今工事車両も入りましてどんどんやっているのですが、やはり五條文化博物館ですね、非常に博物館、そういう中でやる制約も多いでしょうけど、この五條文化博物館はなかなか集客というのは難しいと思うのですね、みんないろいろと発掘が好きな人もおれば、民俗系の考古学が好きな人、いろんな方がおると思うので、そういうコンセプトをしつかりと考えていくということも必要になってくるかと思えます。教育委員会さんの方でいろんな面でそういうことの、五條文化博物館をどういう具合にもっていくかという、これもまた先ほど私が言いましたように、しつかりとした企画を出して、一年間の行事を考えて、そしてこういう形でいくことをやっぱり徹底しないことには、そのときそのときに付け焼き刃のようにやっています、また博物館というのは飽きられてくるのじゃないかなと思います。そこはやはり周りの環境も見えてしつかりとほかの環境と併せてやっていける方法が取れるのか、教育行政だけに限らず、ほかのところの手を組んでやっていくか、そういう柔軟な対応を是非ともしていただく方針がいいのかなと思います。

五條文化博物館に関しましては、今はリニューアルしておりますので、これからしつかりと計画を立てて進んでいただけるようお願いいたします。答弁は結構でございますので、私からのお願いとさせていただきます。

それでは、私の質問の中でこれが私の政治信条として、これを毎回繰り返しているという項目なんですけど、「五條市の発展」ということでやっていきたいと思えます。

市の発展についてということなんですけど、この市の発展に関しましては、いろんな観光施策もありますし、またテーマパークみたいなこと

もありますし、いろんな歴史街道的なこと、いろいろ多々あると思うんですが、まずその観光、市の発展ということで考えた場合、今五條市の方では大変大きな事業が今後進んでいく、そんな中でやはり旧の建物に対しては、今後はそれを解体し、そして跡地を利用していかなければならぬ、そういう状況になります。ただ解体するだけならどこからも何の費用も引つ張られませんが、跡地利用をしっかりと考えて整備していくということが大事かなと思います。その中でまずこのたびのみどり園、このみどり園が今後閉園という形になった後、私もずっと思っていたのですが、私の近所には五万人の森がありまして、その五万人の森によく缶ジュースとか買いに行ったりすると、バンに乗った大きな犬舎を積んだ車が来てるんですね、大型犬が何頭もおられまして、リードをつないで散歩しています。ナンバーを見ると大阪・京都というナンバーで、他府県もおられます。その方たちは本当に高尚な愛犬家です。本当に人様に迷惑を掛けない、犬に対してのしつけ・マナーそういうのをお持ちの方がたくさんおられます。そういう方がこういう広いフィールドで走らせると犬もストレスがやっぱり解消されるということなんです。そんなことを考えたときに、やはりこういう広場、そういう施設的な広場があるということは、五條市にとっても逆に僕はチャンスじゃないかなという思いでございました。

実は三木市の方に行きますと、道の駅の方にドッグランというのが整備されています。非常に清潔でそれでいて、そのためだけで道の駅を利用しようという方がたくさんおられるんですね。さつきも部長がおっしゃっていたように、西吉野のこんぴら館のところにドッグラン、これは小型犬なのか中型犬なのか分からないのですけれども、大型犬、そして中型犬、小型犬と様々なところを混在することなく、愛犬家の大事な犬が自由に駆け巡る、そういう場所を作っております。五條市にもそれができると、考えられないぐらい、人って来てくれるのです。愛犬家はやっぱりそうやってフィールドを求めて探しています。是非そういう愛犬家たちが集えるような市外・県外そういうところからどんどん来てもらえる、そんな目玉もやっぱり必要なんじゃないかなと思います。跡地利用に関しての意見を是非いただきたいと思えます。

○議長（平岡清司）井上産業環境部長。

○産業環境部長（井上 昭）一番伊谷議員の御質問にお答え申し上げます。

みどり園解体後の跡地整備については、みどり園周辺自治会との協定の中で、「緑地公園などの公共施設に整備する」と規定されており、現在みどり園周辺自治会の皆様の御意見を伺いながら跡地整備計画を策定しているところでございます。

みどり園には、県道をはさんで芝生広場や農林産物直売所・カフェ・バーベキューの設備等が整った五万人の森公園が隣接し、運動目的に散歩されている高齢者の方や、子供連れの方、犬にリードを付けて散歩されている方などたくさんの方々がお来園されています。

跡地利用に当たっては、五條文化博物館や五万人の森公園と一体的に検討していくことで、相乗効果が生まれてくると考えており、高齢者がお花見などをしていただける樹木の植林を始め、犬と人とが気軽に遊べるドッグランを備えた整備も視野に入れて検討しているところでございます。

以上、答弁とさせていただきます。（「一番」の声あり）

○議長（平岡清司） 一番伊谷賢司議員。

○一番（伊谷賢司） はい、本当にそういう形では是非とも進めていただけたら嬉しいなと思います。

このドッグラン、いろんなこれからのドッグランがあることによつて、様々な市で御商売されている方も生かされてくるところが出ると思うのですが、私はドッグランをコアとして、拠点として集客できるような拡張性あるものにやるからにはやってほしいのです。これだけだという形で、もう跡地だからこれだけだ、じゃなくてですね、やるからにはやっぱりグレードのいいものを求めてやっていただきたい。お金が掛かるとかじゃなくて、そのいろんなデザインとか単価は安いものでもできると思っています。いろんな知恵を出したらあると思いますので、そうやってそのドッグランをコアとして集客できるような拡張性のあるものにするかどうかの、ちょっと先見性だけ聞きたいのですが。

○議長（平岡清司） 井上産業環境部長。

○産業環境部長（井上 昭） 一番伊谷議員の御質問にお答え申し上げます。

ドッグランには、ジビエール五條と連携を図り、ペットフードなどの愛犬用品を販売する施設やトリミングなどの施設も併設すれば、市内を始め、京奈和自動車道が開通したこと、市外や県外からもたくさんの方々がお越しいただけると考えております。

さらに、本市が協定を結んでおります災害救助犬やセラピー犬との触れ合いの場を設けたり、将来的には警察犬や盲導犬、獣害対策犬の訓練を行える場など、みどり園の敷地面積は約二九、〇〇〇平方メートルございますので、そういった拡張性を持たせた整備をすることも十分可能かと考えております。

以上、答弁とさせていただきます。（「一番」の声あり）

○議長（平岡清司） 一番伊谷賢司議員。

○一番（伊谷賢司） はい、本当にそういう形で拡張性を持たせて、更なる本当の愛犬家の集まるまちづくりには是非挑戦していただきたい、そういう思いでございます。

そこでは今度は家庭で飼うようになるでしょう、自分のとこの家で飼う犬とかを教育したりする機関、そういうのもやっていけば、また違う面で拡張性を持つてできるかなと思いますので、そういうことも踏まえた計画・企画を是非これからの一年、二年と掛けて、きちっと作り上げてそして取り掛かるということに邁進していただきたいなと思います。

やはり作ろう、はい作りました、どうしようではなくて、こうなって、こうなってということですね、そういう形でそして費用をできるだけこういうところは押さえて、こういうところはこういう補助金を使うとか、そういうこともいっぱい調べて、取り組んでいただきたい。そして一円の税金も無駄にしないように、そしてみんなの笑顔が集まるような施設づくり、それを跡地利用の一つとして是非お願いしたいなと思います。

今後、まだまだいろいろと行政もスリム化している最中だと思います。そんな中でいろんな跡地も出てくると思います。その利用とということを捉えたときにしっかりと計画・企画をして取り組んでいただくということが今後、この五條市に求められている。そして市長が絶えず言っている、やはり無駄なものを省きながらしっかりとしたお金を、皆様の税金で賄っているお金をしっかりと考えて使うということとを徹底していただきたい、そういうことでこの第一弾となりますので、是非途中で頓挫することなくやり切っていただきたい、そういう思いでございますので、よろしくお願ひしたいと思います。

そして、ちよつと私も最後の方で、通告書、一般質問の方にはちよつと書いてなかったのですが、実は本年度、今まで平成二十三年から止まっております、榮山寺トンネル、これがいよいよ予算が付きました。国の補正予算で県に下りてきているのですけれど、約十五億円の事業になります。トンネルが抜けるのですが、このトンネルに併せて、ちよつと市長に質問なんですけど、榮山寺、これももう本当にバス一台停まる場所がないですね、このバス一台が停まる場所がないこの榮山寺、結局国ということよく分かるのですが、何とか知恵を出していただいて、大型バスでも入っていったらまた私も榮山寺も変わっていくんじゃないかな、そういう思いをしているので、あの道路沿い、自転車のサイクルロード、ならクルとってね、技監もよく知っていると思うんですけれどもならクルと、自転車のサイクルロード、サイクルロードと言っても、左側を走るときは左側走って、対向車線が来るときはちゃんと左端で走るということ、そういうならクルロードの指定を榮山寺の区間は受けています。やはりせつかくこのトンネル事業が行われるに当たって、榮山寺に市営の駐車場を是非建設できないものかなと、まあ建物の中の建物とかあると思うのですが、多分民間地もあったなと思うのですが、道路沿いのそのところを有効活用して、やっぱりゴーちゃんのシンボルであります榮山寺でございますので、そういう形でどうか市長部局の方で、そういう県との連携をしながら、やれる

ことはできないのかな、そういうことをちよつと市長に質問したいと思うんです。

○議長（平岡清司） 太田市長。

○市長（太田好紀） 一番伊谷議員の質問にお答え……。

○議長（平岡清司） 伊谷議員、通告がなかったもので、これを認めてしまったらまたみんな通告なしの質問が出ると思うので、市長、すみません。一番伊谷賢司議員。

○一番（伊谷賢司） 観光施策のところでおっしゃってたんですけど、すみませんでした。通告にないということなんで、これはまた次回に私の方から正式にさせていただきます。訂正して、市長、申し訳ございません。お詫び申し上げます。

それでは私の一般質問の中で、市の発展ということを是非心から私も微力ながらもお手伝いさせていただきなから、そしてしっかりと進んでいけるように跡地利用をしっかりと考えていただくと、そして観光施設、観光等に対してですね、しっかりと力を入れていただけることをお願い申し上げます、私の一般質問にさせていただきます。

以上でございます。

○議長（平岡清司） 以上で一番伊谷賢司議員の質問を終わります。

次に、二番養田全康議員の質問を許します。二番養田全康議員。

〔二番 養田全康質問席へ〕

○二番（養田全康） 議長より発言の許可をいただきましたので、二番養田全康の一般質問を通告のとおりさせていただきます。まず大きな一番としまして、本市の人口減少対策についてでございます。

奈良県では平成十一年より減少が続いております、平成十一年から二十七年の十六年間で、ここで八万四千人の人口が減少しておるといって、平成二十二年十月から平成二十七年九月の五年間で人口が増加した市町村が六箇所あります。大きく増加したのが香芝市、また王寺町、葛城市というような、この三つの市町なんですけれども、減少した地域が三十三箇所。大きく減少したのが奈良市、そして大和高田市、そしてワーストスリーに入るのがこの五條市であります。この五條市の人口減少を食い止める。また増加に持っていく。これは本市における施策の一番の、近々の課題になるのかなと僕自身そのように感じておるのでありますけれども、今現在、各課、そして部ですよね、にわたって、人口減少対策がどのようになされておるか。大きくわたってしまうのですけれども、その辺まず答弁いただきたいと思っております。

○議長（平岡清司） 辻田市長公室長。

○市長公室長（辻田祥友） 二番養田全康議員の御質問にお答え申し上げます。

人口減少対策につきましては「五條市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、各部署において取組を進めているところでございます。市長公室におきましては、新婚世帯やUIJターンに係る住宅取得補助制度を実施し、総合戦略の基本的方向であります「安心・快適なまちづくり」を進めることにより、人口減少対策に努めているところでございます。

以上、答弁とさせていただきます。

○議長（平岡清司） 竹本すこやか市民部長。

○すこやか市民部長（竹本勝治） 二番養田議員の御質問にお答え申し上げます。

すこやか市民部では、御結婚をきっかけにお二人の絆と御当地の御縁が深まりますようにとの思いから、ゴーカースターがお二人を祝福する記念すべき婚姻届を、四月一日から配布する予定をしております。

次に、現在ゼロ歳から中学生までを対象とした子ども医療費助成制度の窓口一部負担については、県内統一で自動償還方式を行っておるところでございます。

平成三十一年度中に現物給付というような方式の導入が開始される予定でございます。

市単独の補助事業といたしまして、県補助金交付基準である所得制限を撤廃、通院の一部負担についても、県基準は未就学児と小・中学生に差異がありますが、本市としては統一して、一レセプト五百円として、全ての子供に公平な助成を行っております。

次に、少子化対策及び子育て中の家庭に、市の独自事業として、一般不妊治療費助成事業、産後母子一箇月健康診査助成事業、任意風しん予防接種助成事業を行っております。一般不妊治療費の助成といたしまして、不妊治療費に係る治療費のうち年間七万円までの助成を五年間毎年申請ができ、平成二十八年度では十三名の方に助成を行いました。産後の母親と子供の一箇月健康診査助成事業では、健診費用を上限四千円までを助成しております。平成二十八年度では該当者百五十七名中、百二十二名の方に助成を行いました。また任意風しん予防接種事業では、妊娠予定の女性、妊婦と同居しているパートナー及び家族に対しまして、自己負担金三千円を超える残額を助成しています。平成二十八年度は六名の方に助成を行いました。

さらに、育児期は子供が健やかに育つことを目的に妊娠時期から継続した相談事業や家庭訪問を随時行っており、いろいろな子供の対策に取り

組んでいるところでございます。

以上、答弁とさせていただきます。

○議長（平岡清司）井上産業環境部長。

○産業環境部長（井上 昭）産業環境部におきましては、人口減少対策といたしまして、雇用の確保並びに企業立地を促進するため、五條市独自の優遇制度として、企業立地促進奨励金及び雇用促進奨励金を交付しています。

以上、答弁とさせていただきます。

○議長（平岡清司）平田都市整備部長。

○都市整備部長（平田耕一）二番養田議員の御質問にお答えします。

都市整備部としましては、空き家の活用推進として、空き家情報バンクの運営、また空き家利活用推進支援事業の補助金を出しているところでございます。

以上、答弁とさせていただきます。

○議長（平岡清司）稲次あんしん福祉部長。

○あんしん福祉部長（稲次裕美）二番養田議員の御質問にお答え申し上げます。

あんしん福祉部におきましては、主に三つの取組を実施しております。

まず一つ目として、子供を産み育てる世代に対して、子育て中の親が気軽に集え、交流し、相談や情報交換ができる子育て支援のための拠点施設として、子育て支援センター「はっぴい」の管理運営事業を実施しております。

二つ目として、新婚世帯に対し、結婚に伴う経済的負担を軽減するための結婚新生活支援補助金事業を実施しています。

三つ目として、市独自の制度として、五條市に在住又は勤務する二十歳以上の独身の男女に対し、出会いと結婚の支援に取り組むための結婚相談事業を実施しております。

さらに、平成二十九年度は、より多くの若い世代に結婚に対する意識を変えていただくための結婚応援事業として、七月に婚活イベントを実施いたしました。

以上、答弁とさせていただきます。

○議長（平岡清司）松井教育部長。

○教育部長（松井和永）二番養田議員の御質問にお答えを申し上げます。

現在、教育委員会が進めている賀名生分校魅力化推進事業は、賀名生分校設立当初からの目的である農業担い手の育成に立ち返り、農業の担い手として育てるために都市部の他府県からも生徒を募集しようとするものでございます。

以上、答弁とさせていただきます。（「二番」の声あり）

○議長（平岡清司）二番養田全康議員。

○二番（養田全康）これだけ多くの人口減少対策を今五條市は打たれているわけでありますけれども、この中で五條市単独事業、他にない、他市町村にない、この五條市単独事業と呼べるものがどれだけあるか、各課でこれは単独事業ですというのがあったら教えていただけますか。

○議長（平岡清司）井上産業環境部長。

○産業環境部長（井上 昭）二番養田議員の御質問にお答え申し上げます。

先ほど答弁させていただきましたとおり、五條市独自の制度といたしまして、企業立地促進交付金及び雇用促進交付金を交付しております。これは五條市へ立地した企業に対しまして交付させてもらう事業で、実績といたしまして、企業数は十四社に交付させていただきました、そのうち雇用された人数は五十四名、新たに雇用されております。

以上、答弁とさせていただきます。（「二番」の声あり）

○議長（平岡清司）二番養田全康議員。

○二番（養田全康）十四社五十四名、これは五條市の方を雇用してもらったのか、そうか五條市に移転、例えば五條市に住むという条件の中で五十四名があるのか、この辺のデータ取っておられますか。

○議長（平岡清司）井上産業環境部長。

○産業環境部長（井上 昭）二番養田議員の御質問にお答え申し上げます。

市内在住者及び市内の転入者の内訳の統計は取っておりません。

以上、答弁とさせていただきます。（「二番」の声あり）

○議長（平岡清司）二番養田全康議員。

○二番（養田全康）これ各課でもいいのですけれども、今答弁いただいた全ての課において、この人口減少対策で何名の方が五條市に転入していただけたのか、このようなデータをまとめられたというような課はありますか。これがあるおかげで五條市の人口流入があったというよう
な。

○議長（平岡清司）竹本すこやか市民部長。

○すこやか市民部長（竹本勝治）二番養田全康議員の御質問にお答えします。

人口の転入転出は市民課の方では統計を取りますけれども、それぞれの事業に対しての増減については把握しておりません。
以上です。（「二番」の声あり）

○議長（平岡清司）二番養田全康議員。

○二番（養田全康）なぜこれを聞くかというね、二十代から四十代、ここの人口の増加が、この二十代から四十代の人口が増加する市町村が人口増加をずっとすると、というのはやっぱり子供が生まれて十五歳以下の人口も増えてくるというような、国が持っているようなデータがあるようなんですけれどもね。五條市として、しっかりとしたこのデータ管理のもとに、この世代に対しての施策を取っていく、人口増加につなげていく。これは大変なことだと思っておりますけれども、この辺統括して市長公室になるかもしれませんけれども、この辺の施策、この年代に対しての施策であったりデータの管理、今後どうされていくのか、この辺どうですか。

○議長（平岡清司）辻田市長公室長。

○市長公室長（辻田祥友）二番養田全康議員の御質問にお答えいたします。

確かに今までは五條市といたしまして、そういう年代の方々の統計等々はやっております。確かにその年代の方が多分今議員がおっしゃる中では、子供を産んで育てられる年代というふうなおっしゃっているんだというふうに私は解釈しております。そういう中で、やはり五條市の活性化は若い人たちが今後五條に住んでいただかなければならないということで、一応事業的な中身がまだ私も各課のものを掌握しているものではないですけれども、できる範囲で一度庁内で検討とかをしていきたいなと思います。

以上、答弁とさせていただきます。（「二番」の声あり）

○議長（平岡清司）二番養田全康議員。

○二番（養田全康）庁内で検討していただけるといことで、全国的にもデータが出ているようですので、その世代をしっかりと増やしていけ

るようお願いしたいのですけれども、例えばですね、それに特化した施策を打ったのが流山市ですか、ここは東京圏内に行けるドーナツ化現象の一部を担っているのかもしれないけれども、住民誘致対策を共働きの子育て世代に絞ったということでありまして、例えば保育園の整備であったりとか、主要駅に保育送迎ステーション、駅に行く保育園に送ってくれるよというようなシステムを作ったり、また例えば私立の小・中学校の誘致なんですけれども、これは英語に特化した授業は全て英語で行われるというような小・中学校を誘致したとか、そういうことをされているのですけれども、これ僕ね、東京にある用で行かせてもらったときに大きなポスターを見たのです。そのポスターというのはね、「父になるなら、流山市」、そしてその横には「母になるなら、流山市」といって、この世代に特化した、そういうような施策を流山市はやっているのですよね。これは東京のJRの駅やったと思うのですけれども、そういったところに大きな宣伝広告を打って出た、これ宣伝広告費の人口流入が思ったよりかなりあったと、三倍の広告費を賄えるだけの収入がその人口増加によって入ってきたというような成功事例やと思います。人口十年間で二万四千人も増えたと、十六パーセント増加。またその世代が増えることによって、人口の若返りも進んだというような。今後、この五條市が京奈和自動車道も開通する中で、そういった通勤圏内が広がると思うのですけれども、それによってこういった宣伝広告を打って、今これだけの施策があるわけですから、多分これ皆さん、市民の皆さんも知らない方がたくさんおられたのではないかなど、これだけの施策を五條市が打っているというのを知らなかった方は多いと思うのですけれども、これらをしつかりとアピールしていく必要があると思うのですけれども、その辺どうですか。

○議長（平岡清司） 辻田市長公室長。

○市長公室長（辻田祥友） 二番養田議員の御質問にお答えいたします。

ちよつと私、流山市、どの辺かっというのは東京の、その辺がちよつと頭の中に浮かばないので、やはりインフラでございませうとか、それから、その周辺の人口がどの程度の都市があるのか、その辺踏まえた中でこの市はそういうふうな施策を、人を引き寄せるこういう、こういう父になるなら流山、母になるなら…、そういう言葉で人口増加に向けての対策を打っていったのだと思うのですけれども。

今議員おっしゃるように、確かに京奈和自動車道は開通をしております。ただやはりそれを五條市としては契機としまして、全ての産業でありますとか、商工、そういう部分には力を入れていくというような形でございます。今の子供さん、若い人たちはやはり交通の便、そういう買物の便、ありとあらゆるところを多分求められるんだと思います。そういう中で総合的に市として対策はやっていかなければならないというふうには感じております。

以上、答弁とさせていただきます。（「二番」の声あり）

○議長（平岡清司）二番養田全康議員。

○二番（養田全康）そんな中でね、こういった例えば面白い取組だと思うのですが、宣伝広告にお金を使うと、こういったことって行政機関は余りやってこれなかったと思うのですが、この辺大事だと思うのですが、これについてどう考えますか。

○議長（平岡清司）辻田市長公室長。

○市長公室長（辻田祥友）二番養田議員の御質問にお答えいたします。

確かに今まではやっておられないのですが、一応うちの方、企画の方でプロモーションビデオ、五條市へ来ていただくということも今年度実施しております。一回やれば、何でも最初の切り出しが大事で、一回したら二回、三回とできるかなと思いますので、その辺も踏まえ、そういう商工の今のプロモーションビデオ、それと併せてこういう子育て支援、人口増加そういうふうな面にもできるのか、それも検証はさせていただきます。

以上、答弁とさせていただきます。（「二番」の声あり）

○議長（平岡清司）二番養田全康議員。

○二番（養田全康）何でも近隣の他市町村がやる前にそういった思い切った施策を取ることが人口増加につながる一つではないのかなと、そのように思うんです。また、毎議会ごとに部長のところでお世話になっておるのですが、保育所・保育料の無償化であったりとか、そういった部分で人口増加につながった部分、以前にも紹介させていただいたと思うのですが、この人口増加の部分でね、やっぱり子育て世代に対して大きな施策を打つ、これは大変なことだと思ってしまうのですが、最終的には数年後か、国の方でそういった幼稚園・保育所に対して補助金出して、保育料ただにしようよというようになるところのかもしれないけれども、国がやってしまったら皆全ての自治体がやりますから、それまでに五條市でやることによって人口増加につながるとは思いますけれども、その辺のことを再度考えていただけるとはいいですかね。

○議長（平岡清司）稲次あんしん福祉部長。

○あんしん福祉部長（稲次裕美）二番養田議員の御質問にお答え申し上げます。

毎回、同じような答えですけども、財源の確保がちょっと桁違いに必要になりますことから、国の方に要望させていただくというお答

えに、毎回なってしまうような状況でございます。

以上、答弁とさせていただきます。（「二番」の声あり）

○議長（平岡清司）二番養田全康議員。

○二番（養田全康）その答弁、そういう答弁になると思います。それを踏まえて、大きな二番の保育所・幼稚園の現状についてに移りたいと思います。

まず最初に（一）番ですね、現状、例えば保育所の数であったりとか園児の数、その辺のところどういうような推移を保っているのか五條市、教えてください。

○議長（平岡清司）稲次あんしん福祉部長。

○あんしん福祉部長（稲次裕美）二番養田議員の御質問にお答え申し上げます。

本市には現在九つの公立保育所があり、うち阿太保育所及び大塔保育所は休所となっております。

保育事業を行っております七つの公立保育所の入所児童数は、平成三十年三月一日現在、五條保育所が二十五名、宇智野保育所が百十一名、北宇智保育所が六十七名、南宇智保育所が四十二名、阪合部保育所が十三名、牧野保育所が九十六名、岡保育所が三十三名となっております。以上、答弁とさせていただきます。

○議長（平岡清司）松井教育部長。

○教育部長（松井和永）二番養田議員の御質問にお答えを申し上げます。

現在、五條市では幼稚園は二園ございます。五條幼稚園には五十三名の園児が入園しております。また西吉野幼稚園には十三名の園児が入園をしているところでございます。

以上、答弁とさせていただきます。（「二番」の声あり）

○議長（平岡清司）二番養田全康議員。

○二番（養田全康）今七つの公立保育所、二つの幼稚園ですよね。そういうふうになっているわけでございますけれども、現状はどのような形だということなんですけれども、これ現状（一）を踏まえて、（二）適正化なんですけれども、子供の数が減ってきていると、例えばこの七つの保育所の中で、来年度入園が見込めない保育所、入園児がゼロというような保育所あると思うのですけれども何箇所ありますか。

○議長（平岡清司）稲次あんしん福祉部長。

○あんしん福祉部長（稲次裕美）二番養田議員の御質問にお答え申し上げます。

一箇所は新規の入園児がゼロというふう聞いております。

以上、答弁とさせていただきます。（「二番」の声あり）

○議長（平岡清司）二番養田全康議員。

○二番（養田全康）この七つの公立の保育所の中で、一箇所が入園児ゼロ、この入園児ゼロの保育所って、今三月一日現在の数ですよ、年長の子供たちが出て小学校に行かれたら、ここの園何名になりますかね。

○議長（平岡清司）稲次あんしん福祉部長。

○あんしん福祉部長（稲次裕美）二番養田議員の御質問にお答え申し上げます。

現在のところ八名になる予定となっております。

以上、答弁とさせていただきます。（「二番」の声あり）

○議長（平岡清司）二番養田全康議員。

○二番（養田全康）八名になると、二学年で八名なんです。多分六と二になるのかな、と思うのですが、こういう中でね、子供たちの中で新しくちびっこが入ってこない、幾ら経ってもお兄ちゃん、お姉ちゃんになれないというような現象が起っちゃってしまっているんですね、ここに対して例えば適正化の流れの中で、何かその保育所に対して、また保育所の保護者会に対して合併の話であつたりとか適正化の話を持っていた経緯ってあるかないか教えてください。

○議長（平岡清司）稲次あんしん福祉部長。

○あんしん福祉部長（稲次裕美）二番養田議員の御質問にお答え申し上げます。

具体的にそういうお話でということではないのですけれども、保護者会の方から翌年度、平成三十年度の運営についていろんな予想が飛び交っている、引き続き保育所が運営されるのかどうかも含めて説明をしていただきたいという御要望がございましたので、こちらの方から行かせていただいたという経緯がございます。

以上、答弁とさせていただきます。（「二番」の声あり）

○議長（平岡清司）二番養田全康議員。

○二番（養田全康）ある程度の数になったときにね、少数になったときに、保育所の方からどうしようもできないというような話の中でお話をいただくのではなくて、一定規模になったときにはしっかりとそういったニーズの調査をするという部分も必要やと思うのですけれども、その辺どうですかね。

また、人数的な、統合とか適正化の中で人数的な基準というのは幼稚園・保育所、どちらも設けているかどうか教えてください。

○議長（平岡清司）稲次あんしん福祉部長。

○あんしん福祉部長（稲次裕美）二番養田議員の御質問にお答え申し上げます。

保育所では休所ですとかの人数的な基準はない状況でございます。

以上、答弁とさせていただきます。

○議長（平岡清司）松井教育部長。

○教育部長（松井和永）二番養田議員の御質問にお答え申し上げます。

幼稚園につきましても、廃止の条件というのは設定しておりません。

以上、答弁とさせていただきます。（「二番」の声あり）

○議長（平岡清司）二番養田全康議員。

○二番（養田全康）例えばですね、平成二十七年に阿太保育所が休所したという中で、この阿太保育所に対して、どのようなアプローチを掛けて休所に至ったか、この辺分かれば教えてください。

○議長（平岡清司）稲次あんしん福祉部長。

○あんしん福祉部長（稲次裕美）二番養田議員の御質問にお答え申し上げます。

平成二十七年に休所という手続を取らせていただきました阿太保育所につきましては、児童数で言いますと、平成二十三年度に児童数が十名になり、翌年の平成二十四年度には十四名になりました。次の年の二十五年度、二十六年度と二年続けて児童数が十名となりましたので、平成二十七年はどうかということをお話させていただきます。この経緯がございました。

以上、答弁とさせていただきます。（「二番」の声あり）

○議長（平岡清司）二番養田全康議員。

○二番（養田全康）市の方から保護者にお話をいただいたということなんですけれどもね、今現状、それよりもまだ数で満たないような保育所になるというような傾向があるみたいなので、そこはしっかりと市の方から今後の保育所の運営についてお話ししていただけるのかどうか、その辺どうですか。

○議長（平岡清司）稲次あんしん福祉部長。

○あんしん福祉部長（稲次裕美）二番養田議員の御質問にお答え申し上げます。

人数が少なくなつた保育所の保護者の皆様の御負担とかが過重にならないようにということで、保育所ですとか保護者の皆様と協議をして検討してまいりたいというふうに考えております。

以上、答弁とさせていただきます。（「二番」の声あり）

○議長（平岡清司）二番養田全康議員。

○二番（養田全康）協議いただけるということなので、これ以上の質問をしませんけれども、例えばですね、運動会もできないと、その保育所の校区にある小学校にお話を持っていつているようです。一緒にしてくれないかと、もう単体ではできませんと、おっしゃられたのはね、例えばおもちゃ一つ、新しいもの何一つ入ってこないと、雨漏りしても放っておかれます、これはもう適正化があるからこういうような状態になっているのかなというような話をいただいたことがあります。例えばその目の前に適正化があつても、その保育所でおる間は、幼稚園にしる保育所にしろ、しっかりと整備検討していく必要性があると思うのです。この辺のことをしっかりとその保護者、またその保育所で働いてくれている所長先生始めとします方に、聞いていただいて、今後のそういう運営をしっかりとさせていただきたいんですけれども。

あとこの幼稚園の部分でお尋ねしたいのですけれども、五條に二つありますけれども、ある幼稚園で遊具が使えないと、子供さんが園内で、幼稚園内で遊び回るのは遊具を使えない状態で一年以上ほったらかしになっているというお話しを僕いただきました、それが一年やったのか、一年に満たなかったのかは別といたしまして、この保育所・幼稚園の遊具の点検、この辺は何月ぐらいに、年に何回行われているのか、また何月ぐらいに行われているのか、その辺教えてください。

○議長（平岡清司）松井教育部長。

○教育部長（松井和永）二番養田議員の御質問にお答えを申し上げます。

遊具の整備状況は五條幼稚園では十二箇所で、このうち使用中としていた遊具は一箇所でございます。
西吉野は四箇所で全ての遊具が使用できます。

遊具の安全管理につきましては、専門技術者による点検を行い、点検結果に基づき修繕を行っています。緊急度に応じて翌年度に予算化を行い、順次修繕しております。

また、点検以外でも、幼稚園からの連絡により危険箇所が発見された場合は使用を中止し、修繕を行っておるところでございます。
以上、答弁とさせていただきます。

○議長（平岡清司）稲次あんしん福祉部長。

○あんしん福祉部長（稲次裕美）二番養田議員の御質問にお答え申し上げます。

遊具につきましては、市内七つの公立保育所に滑り台やジャングルジムなど、合計四十四基の遊具が設置されています。
現在、使用を禁止されている遊具はない状況でございます。

保育所では専門技術者による点検を実施し、点検結果に基づき修繕を行っております。

また、保育所からの連絡により危険箇所が発見された場合は使用を中止し、修繕を行っております。

以上、答弁とさせていただきます。（「二番」の声あり）

○議長（平岡清司）二番養田全康議員。

○二番（養田全康）どちらも点検は年一回ですか。その辺数なかったと思うのですが、年一回…、これ何月に行われているのか、また業者は一緒かどうかの辺りですか。

○議長（平岡清司）稲次あんしん福祉部長。

○あんしん福祉部長（稲次裕美）二番養田議員の御質問にお答え申し上げます。

まず、保育所の業務の中において日常的、定期的な点検を月二回行っております。

業者による精密点検につきましては、必要に応じて行っております。直近では平成二十七年度に行っております。
以上、答弁とさせていただきます。

○議長（平岡清司）松井教育部長。

○教育部長（松井和永） 二番養田議員の御質問にお答えを申し上げます。

幼稚園の遊具につきましては、毎年八月に点検を行っておるところでございます。専門業者による点検でございます。

以上、答弁とさせていただきます。（「二番」の声あり）

○議長（平岡清司） 二番養田全康議員。

○二番（養田全康） 保育所でしたら、各自点検を月二回やってくれているのですね。その中で必要に応じてということなんですけれども、そういった専門業者による点検を、幼稚園でしたら、年一回八月に行われておると、これ何というのですかね、園児の危険のリスクを下げるのに年一回ぐらいの点検はきちっとされた方がいいと思いますけれども、そういった決まりというのはないんですかね。

○議長（平岡清司） 稲次あんしん福祉部長。

○あんしん福祉部長（稲次裕美） 二番養田全康議員の御質問にお答え申し上げます。

保育所の遊具の点検につきましては、都市公園における遊具の安全確保に関する指針、国土交通省が発行しております、その指針に基づいて行っております。

以上、答弁とさせていただきます。（「二番」の声あり）

○議長（平岡清司） 二番養田全康議員。

○二番（養田全康） その国土交通省がやっている都市公園の管理の基準か何かあると思うんですけども、そこに準じてやっているということ間違いありませんね。

これ一つの幼稚園であったのですけれども、八月に点検があったということで、分かって報告があったのが六月ですよね、六月に分かって八月に点検が入ったと、今なお使えない状態で十箇月ですか、放置されたような状態になっていると、子供たちは目の前に遊具があるのに遊べない状態になっているというのですけれども、これもうちよつと早く予算で取ってできませんか。大事なことやと思うんです。十箇月といったら、その一年間は遊べなかったというような状態になると思うのですよね、その遊具で。その辺もうちよつと早期に対処できる、そういうことできませんか。子供たちのために。

○議長（平岡清司） 松井教育部長。

○教育部長（松井和永） 二番養田議員の御質問にお答えを申し上げます。

議員お述べの遊具は、木製の総合遊具として、昨年六月に幼稚園から報告のあったものでございます。報告を受けた後、直ちに使用は中止をいたしました。緊急点検を行いました。点検の結果、通常点検では見えない木部の腐食が複数箇所あり、部分的な補修ではなく全面的な修繕を要するものでした。当該遊具は三月中には修繕を行ってまいりたいと考えておるところでございます。

これからも安全な幼稚園の環境保全には努めてまいりたいと考えておるところでございます。

以上、答弁とさせていただきます。（「二番」の声あり）

○議長（平岡清司）二番養田全康議員。

○二番（養田全康）三月中に直してもらっても、十箇月掛かったということに関して、もう少し早い対処を今後できないかという質問なんですけれども、どうですか。

○議長（平岡清司）松井教育部長。

○教育部長（松井和永）二番養田議員の御質問にお答えを申し上げます。

今回のように全面的な修繕を要するものでは、なかなかすぐというわけにはいかないと思うのですけれども、部分的な補修で済むようなことでしたら、すぐに対応していきたいと考えておるところでございます。

以上、答弁とさせていただきます。（「二番」の声あり）

○議長（平岡清司）二番養田全康議員。

○二番（養田全康）できるだけ早く、どんな修理か僕も全て把握したわけじゃないですけども、ある程度木製の大きな遊具で、ある程度の金額が掛かるんやと思いますわ。でも十箇月ほったらかしにするというのではなくて、できるだけ早い対処をしていただきたいとお願い申し上げます。今後よろしくお願いいたします。

（三）の五條市子育て支援センター「はっぴい」ですね、イオンに「はっぴい」ができて、利用率も大変高いと僕らも喜んでおりますけれども、「はっぴい」の利用状況であったり、その辺どういった利用条件があるのか、その辺を教えてくださいませんか。

○議長（平岡清司）稲次あんしん福祉部長。

○あんしん福祉部長（稲次裕美）二番養田議員の御質問にお答え申し上げます。

昨年十一月に開所しました子育て支援センター「はっぴい」は、多くの子育て世代の方々に御利用をいただき、四箇月余りが経過しており

ます。

平成三十年二月末現在の利用状況といたしましては、一時預かり事業の利用者の総数は、四箇月で延べ五百十七名で、平日の一日当たりの平均利用者数は約七名となっております。

また、子育てに関する相談及び親子の交流・遊び場の提供などを行う地域子育て支援拠点事業の利用者の総数は、延べ一千五百七名で、一日当たりの利用者数は平均約十九名となっております。

以上、答弁とさせていただきます。（「二番」の声あり）

○議長（平岡清司）二番養田全康議員。

○二番（養田全康）大変多くの子供たちが、またお母さんたちが利用していただけていると思うのですが、この中で一つお話がありました。幼稚園や保育所に通っている子供は「はっぴい」に預けられない、例えば土曜日は半日であったりとかで帰ってきた子供を、土曜日から何かイレギュラーが起こってしまつて子供を預けないといけない、そういった場合に土曜日でも日曜日でもですけれども、子供を幼稚園や保育所に預けているお父さん、お母さんはこの「はっぴい」に預けることができるのか、できないのか、この辺どうですか。

○議長（平岡清司）稲次あんしん福祉部長。

○あんしん福祉部長（稲次裕美）二番養田議員の御質問にお答え申し上げます。

一時預かり事業は、国の要綱に基づき、保育所や幼稚園を利用していない家庭においても、突発的な事情により、一時的に家庭での保育が困難となる場合があることから創設された事業でございます。満一歳以上、小学校就学前までの乳幼児を対象として、保護者の育児疲れ解消、突然の病気による通院、その他の事由により一時的に家庭での保育ができなくなった乳幼児をお預かりさせていただいております。

以上、答弁とさせていただきます。（「二番」の声あり）

○議長（平岡清司）二番養田全康議員。

○二番（養田全康）基本的に駄目なんです。基本的には駄目だと、まあこれ国に準じてやっているということなんですけれども、年間の予算、年間掛かり得る予算が幾らで、国から幾らもらっているのか、その辺ちょっと教えてください。

○議長（平岡清司）稲次あんしん福祉部長。

○あんしん福祉部長（稲次裕美）二番養田議員の御質問にお答え申し上げます。

平成三十年度の当初予算では、歳入の方ですが、国及び県の方からの補助金としまして、一時預かり事業は三百万円の補助金をいただく見込みとなっております。

歳出につきましては、すいません。ちよっと今手元に資料がございません。申し訳ございません。

以上、答弁とさせていただきます。（「二番」の声あり）

○議長（平岡清司）二番養田全康議員。

○二番（養田全康）総額何ぼ掛かっている、何ぼやったらそれはもう補助金をもらわんでも、例えば土・日ね、そういった御父兄、イレギュラーが発生したときのために預けられるように、ここまで利用率が高いんやったらね。できないかというお願いをしようかなと思っておったんですけれども。

今後、利用率を踏まえて土曜日・日曜日、そういう幼稚園・保育所に通わせている御父兄さんの子供でもそういった対象に入れてもらうことができないのか、また利用率が大きかったら大きかったで、キャパを広げてやっていく、そういう取組ができないか、その辺どうですか。

○議長（平岡清司）稲次あんしん福祉部長。

○あんしん福祉部長（稲次裕美）二番養田議員の御質問にお答え申し上げます。

一時預かり事業の定員は施設の広さによります施設基準によりまして、概ね十名となっております。

平日は現在の利用状況から保育所・幼稚園に通っておられる児童・乳幼児の利用を受け入れる余裕が今のところはない状況でございます。

土曜日につきましては保育所・幼稚園等に通っている乳幼児の利用も今後検討していきたいと考えております。

以上、答弁とさせていただきます。（「二番」の声あり）

○議長（平岡清司）二番養田全康議員。

○二番（養田全康）是非土曜日、日曜日はやっていないのかな、これね。例えば土曜日、また日曜日に関しても、そういったニーズが高いのであれば、ニーズ調査していただきまして、是非検討していただきたい。

保育所に行つてようが、幼稚園に行つてようが、イレギュラーは普通に発生しますから。御兄弟おつて、御兄弟がちよっとしんどくなつた、病院に急いで連れて行かなくてはいけない、預けないといけないっていうような状態もあると思うのでね。そういったイレギュラーに対して、市がしっかりと子育て世代をバックアップするというのは、一つ人口減少対策の一環にもなるのかなとそういうにも感じますので、よろしく

御検討をお願いしたいと思います。

続いて三番の学校適正化についてなんですけれども、(一) 保護者・地域・教員への説明についてです。

この前の説明会ですか、十二月十五日、十六日、十八日の三日間が終わりまして、いろいろな御意見が出たことだと思います。僕も二日だけ参加させていただきましたけれども、大変厳しい御意見をいただいていると思います。

その中で、情報が：何て言ったらいいんですかね、しっかりときつちりと伝わっていないのか、いろいろな憶測の中で御父兄さんがお話しされておるようございまして、例えば学校の担任の先生に聞いても、何て言ったらいいんですかね、しっかりとした答えがなかなか返せないというような状態であると思います。それを踏まえて、例えば教員への説明、以前から僕ずっと言っているんですけども、校長会を開いて言ってますというような答弁をいつももらうのですけれども、やっぱり校長会を開いて、校長先生にお話しさせてもらっても、その後、各学校へ持って帰って、その校長先生が先生方にお話しするんでしょうけれども、一度きつちり五條市内の教員を集めて学校の適正化を教育委員会はどういうように考えているよという御説明をする必要性が僕あると思うんです。それはやっぱり保護者が一番最初に聞くのは担任の先生だと思うんです。その辺踏まえて教員に対しての説明、今後される予定ないですか。

○議長(平岡清司) 松井教育部長。

○教育部長(松井和永) 二番養田議員の御質問にお答えをいたします。

小・中学校の教員につきましては議員お述べのとおり、臨時校園長会を開催しまして学校長に教育委員会から説明をし、各学校の教員には周知をしていただいたところでございます。

以上、答弁とさせていただきます。(「二番」の声あり)

○議長(平岡清司) 二番養田全康議員。

○二番(養田全康) 教員の先生に対しては、今後される予定はないですか。

また、そういうのを考えていただけませんか。

○議長(平岡清司) 松井教育部長。

○教育部長(松井和永) 二番養田議員の御質問にお答えをいたします。

現在のところは、教員につきましては学校長からしたところで、続いてする予定はございません。

以上、答弁とさせていただきます。（「二番」の声あり）

○議長（平岡清司）二番養田全康議員。

○二番（養田全康）再度申し上げておきますけれども、まず保護者が、僕も保護者ですけれども、保護者が対応するのは担任の先生なんですよ、「先生、これ教えてよ。」って保護者聞くと思いますが、普通に。そのときにね、やっぱりある程度のしつかりとした教育委員会と現場サイドの認識が一致していないと、あらぬ方向へ進むんじゃないのかなとそう感じます。是非、御検討いただけたら有り難いと思うのです。また、保護者・地域に関しましては、三日間の説明会が終わりまして、三つの小学校から要望書が出たという中で、その三つに対しては説明会に行っていただけという認識でいいのですよね。

○議長（平岡清司）松井教育部長。

○教育部長（松井和永）二番養田議員の御質問にお答えをさせていただきます。

議員おっしゃるとおり、説明会終了後に学校ごとに説明会を開催してほしいと、三小学校のPTAより要望書が出されております。そのことから三月下旬より、まずは要望書が出ている小学校区から開催をする方向で調整を進めておるところでございます。

以上、答弁とさせていただきます。（「二番」の声あり）

○議長（平岡清司）二番養田全康議員。

○二番（養田全康）三つの小学校から出て、その三つの小学校を考えますということなんですけれども、例えば要望書が出ていない小学校に対してはどうされますか。

○議長（平岡清司）松井教育部長。

○教育部長（松井和永）二番養田議員の御質問にお答えをしたいと思います。

まずは要望をいただいたところから開催をし、説明をさせていただきますと考えております。

今後は、適正化を実施する順に理解を深めていただけるよう、説明会を開催してまいりたいと考えておるところでございます。

以上、答弁とさせていただきます。（「二番」の声あり）

○議長（平岡清司）二番養田全康議員。

○二番（養田全康）要望ある箇所、三箇所に行ってから順に考えますよということですか。

これは今小学校に行ってくれている保護者に対してやと思うんですけども、今後地域に対して、この多分三つ上ってきたのは、学校適正化でその学校が統廃合されるだろうというような三つの箇所から上ったと思うのですけれども、今後そのような地域に対しての説明会を実施する考えがあるのか、ないのかその辺どうですか。

○議長（平岡清司） 松井教育部長。

○教育部長（松井和永） 二番養田議員の御質問にお答えを申し上げます。

今計画をしている三小学校区につきましても、地域と一緒に説明会に望みたいというPTAの方が一校ございます。あと二校につきましては、PTAのみで結構ですということで、聞いておるところでございます。

以上、答弁とさせていただきます。（「二番」の声あり）

○議長（平岡清司） 二番養田全康議員。

○二番（養田全康） 例えばですね、一校はPTAと地元地区住民の方ということですけども、他の小学校区、また他の地域からですね、自治会からでもそういう説明会の要望があった場合には、足を運んでいただける用意があるのかなのか、どうですか。

○議長（平岡清司） 松井教育部長。

○教育部長（松井和永） 二番養田議員の御質問にお答えを申し上げます。

先ほど申しましたように、早期に適正化を実施する順に、より理解を深めていただけるように説明会を開催してまいりたいと考えておるところでございます。

以上、答弁とさせていただきます。（「二番」の声あり）

○議長（平岡清司） 二番養田全康議員。

○二番（養田全康） 実際ですね、パブリックコメント、例えば説明会に行っても、説明会後の質疑応答では話を聞かないとか、パブリックで書いて出してくださいというような、例えば条件が二転、三転されていると思うのです。その中でどうしても僕が住む阪合部地域でも、例えば素案一、素案二の中では五條小学校へ統廃合ですよというのが、今、基本計画になると、野原小学校に行きますよというような状態になってきておるんです。それらを踏まえて、しつかりと、なぜそういうような状態になったかというのは、その地域説明、同じように地域説明に行っていたかどうか必要性があると思います。それで地域がそれを聞いて納得するかどうかわかりませんが、なぜ変わったのかというのはし

っかりと地域に伝えていただきたい、そのように思います。

そしてですね、(二)の今後についてなんですけれども、三回の説明会が終わりまして、僕の子供が所属する小学校でも保護者のお話し合いがありました。その中で平成三十一年度に統廃合しますよというのは、さすがに急すぎると。親御さんの中には確かに子供の数が少なくなってきた学校運営が難しくなってきた、行かざるを得んのは分かるけれども、というような御意見もやっぱり中にはあります。ただこの三十一年度というのは、今からあと一年後、ここにその本当に急を要して統廃合をやった子供たちに対してのリスク、また父兄に対してのリスク、地域に対してのリスク、これ何もない状態できちっと統廃合できるのかと疑問が残るのですけれども、この三十一年度に向けてまだ教育委員会は進めようと、そういう考えでおられますか。

○議長(平岡清司) 松井教育部長。

○教育部長(松井和永) 二番養田議員の御質問にお答えを申し上げます。

教育委員会としましては、小学校の複式学級や中学校の学年単学級の解消に努め、子供たちのより良い教育環境の実現に向け学校の適正化に取り組んでいるところでございます。

今後、学校統合の実施時期につきましては、スムーズに統合ができるよう子供たちの交流期間を十分に保つことを視野に入れながら、検討を進めてまいりたいと考えているところでございます。

以上、答弁とさせていただきます。(「二番」の声あり)

○議長(平岡清司) 二番養田全康議員。

○二番(養田全康) 先日、野原小学校と阪合部小学校ですか、六年生の児童が一緒にドッジボール大会を開いてくれたと、そういう交流があった子供たち本当に、「俺友達できてん。」とか言って帰ってくる児童たくさんいました。そんなん聞いていると、案外子供たちはそういう交流をしっかりと深めていくと、大きな輪でも素早い適応ができるのかなというのは感じるのですけれども、ただこの三十一年度の統合に関しては、なかなか急を要しすぎて、そこに向けてはついていけないというような状態じゃないのかなと、そのように思うのです。

また、実際一番何のためにするかと言ったら、子供たちのためにする、これが一番だと思っております。それを言うと、例えば子供たちに対してアンケート一つも取っていないのと違うのかなと、本当に子供たちはそういうのを望んでいるのか、今の小学校のままでもいいのか、それとも大きな小学校に行って大人数の中でやりたいのか、子供たちに聞く場一つなく、これを進めていいのかなと僕感じるんですけれども、その

辺どうですか。

○議長（平岡清司） 松井教育部長。

○教育部長（松井和永） 二番養田議員の御質問にお答えを申し上げます。

適切な教育環境の整備というのは、まずは大人が考えるべき問題であるというふうに認識をしているところでございます。

以上、答弁とさせていただきます。（「二番」の声あり）

○議長（平岡清司） 二番養田全康議員。

○二番（養田全康） それはもう確かにそうやと思います。何が正しいのかというのは大人がしっかりと子供に伝えていかないといけないし、環境を整えるのは大人の仕事やと思いますわ。ただでも、子供の意見って多分何一つここには今出てきてないと思うんですよ。そういった部分をこのまま放置した状態にするのが正しいのになって、僕疑問に残るんですけれども、その辺どう考えますか。

○議長（平岡清司） 堀内教育長。

○教育長（堀内伸起） 二番養田議員の御質問にお答え申し上げます。

今部長の方が申しましたように、子供たちの条件というのですか、子供たちが置かれる環境というのはすぐれて大人がきちっと保障していくべきだろうと思います。ただし子供たち自身がいろんな思いや意見を持っているというのは、これは吸い上げていかななくてはならないと私も思います。しかし一つは、それぞれおうちの方で吸い上げていただいて、そして意見として出さうと方法があるのかというふうに思います。また学校を通して、いろんなところへ、子供たちは作文を書いたり、日記を書いたりもします。こんなこととか様々な方法を使いながら、それを吸い上げていくという方法もあるのかと思います。

今の時点では、子供たちにアンケートを取るかそういつた部分は何も行っておりませんが、原則として子供たちの意見というのはやっぱり大事にしていけないと、私もそう思っております。

以上、答弁とさせていただきます。（「二番」の声あり）

○議長（平岡清司） 二番養田全康議員。

○二番（養田全康） 方法はアンケートに限らずに、例えば担任の先生がホームルームの中で、みんなどうやっていう意見を聴取するでも何でもいいと思うのですけれども、子供たちの意見を、まず今全くままに進むのではなくて、ある程度の子供たち、多分校区であったり学校で

あったりとか、学年だったりとかそういう部分でまた意見も違うと思いますけれども、そういった子供たちの声を聴く場所を作ってあげていただきたいと、そのようにお願い申し上げたいと思います。

そして、次の質問に移るのですけれども、四番目の五條市立奈良良県立五條高等学校賀名生分校についてなんですけれども、全国公募の状況を他の議員さんが聞いていただいて、大体内容を把握させていただきました。数多くの子供たちが五條の地へ来ようという意思を見せてくれたこと、僕も大変嬉しく思います。あと一つお願い申し上げたいのは、今後ですね、四年間にわたってそういう農業に関する授業をされると思うのですけれども、できればこれも人口減少の施策の一つとして、五條市で住み、そして五條市で農業をしていただく。そういった環境を今後整備していただきたく、お願い申し上げます、僕の一般質問を終わらせていただきます。

ありがとうございました。

○議長（平岡清司）以上で二番養田全康議員の質問を終わります。

お諮りいたします。本日の会議はこの程度に留め延会したいと思いますますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（平岡清司）異議なしと認めます。

よって本日はこれにて延会することに決しました。

あす九日、午前十時に再開し、一般質問並びに議案審議を行います。

本日はこれにて延会いたします。

午後五時二十五分延会